

沖縄県名護市

部瀬名奥塚

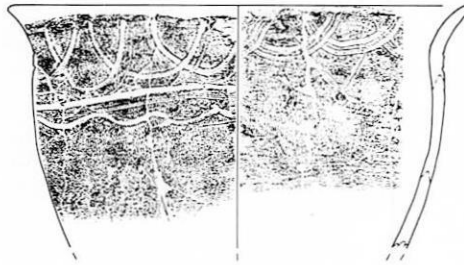
—ブセナリゾート開発に伴う緊急発掘調査報告—

平成8年(1996年)3月
ブセナリゾート株式会社
名護市教育委員会

沖縄県名護市

部瀬名貝塚

—ブセナリゾート開発に伴う緊急発掘調査報告—



平成8年(1996年)3月
ブセナリゾート株式会社
名護市教育委員会

未来に残そう過去の遺産

～序にかえて～

青森県の三内丸山遺跡の発掘調査では、これまでの「縄文観」を変えてしまうような発見が相次ぎ、静かな「考古学」ブームを巻き起こしています。そんな中、部瀬名貝塚で発掘調査が行なわれ、ここにその成果をまとめた報告書が発刊されることになりました。

部瀬名貝塚は、1953年に多和田真淳氏によって発見された遺跡で、今回の発掘調査の結果、沖縄貝塚時代後期の遺跡であることがわかりました。日本の歴史でいう弥生時代から平安時代に相当する遺跡です。

遺跡は、採砂による大きな破壊を受けていたものの、わずかに残った部分に当時の暮らしぶりを伺わせる遺物が眠っていました。それを見ると、部瀬名貝塚で暮らしていた人々は、遺跡のまわりに発達するリーフから貝や魚を多量に取り、ときにはジュゴンも捕獲し、背後の山に住むイノシシを取り、文様の入った土器などを使ってそれらを食していたであろうことがわかりました。残念ながらどのような家に暮らしていたかは、知ることができませんでしたが、今後、国道を挟み山裾に広がりが見込まれている遺跡部分の発掘調査が行なわれることによって、それが明らかになってくることと思います。

今回の発掘調査並びに報告書の作成の事業は、ブセナリゾート株式会社の多大なご協力を得て行なわれたものです。ここに、人類の歴史を知るために貴重な資料を提供することができましたことに対し、深く感謝申し上げます。

私たちの住む名護市には、現在約80カ所の遺跡が存在し、その中に過去の人々の暮らしが眠っています。未来に向かって暮らしていく私たちの子孫のためにも、過去の貴重な財産を知り、残し、伝えていくことは、私たちに課せられた大切な仕事だと思います。ときに過去を知ること、未来を生きるための知恵を得ることでもあるのです。この報告書を名護市、あるいは沖縄の歴史を知るために、多くの方にご利用いただければ幸いです。

平成8年3月

名護市教育委員会

教育長 比 嘉 敏 雄

例 言

1. この報告書は、ブセナリゾート開発事業に伴い、名護市教育委員会が実施した部瀬名貝塚緊急発掘調査の内容を記録したものである。
2. この報告書は、ブセナリゾート株式会社（代表取締役社長 比嘉幹郎）より名護市（市長 比嘉鉄也）が委託を受けた「部瀬名貝塚発掘調査出土品整理業務および調査報告書作成業務」によって作成したものである。
3. この報告書を作成するにあたり、それぞれの専門分野において、下記の方々のご協力・ご教示を賜ったので記して謝意を述べる。

貝類の分類および同定……仲嶺俊子（沖縄貝標本館）

石器の石質同定……大城逸郎（前原高等学校）

鳥獣骨の種同定……川島由次・小倉剛（琉球大学農学部・亜熱帯動物学教室）

4. 平成5年度に行った発掘調査は、次の調査体制で行った。

調査総括 名護市教育委員会教育長・比嘉敏雄

調査責任者 社会教育課長・島袋正敏

総務責任者 社会教育係長・宮城 満

総 務 比嘉文子

調 査 員 島福善弘、比嘉 久

調査補助員 岸本利枝

資料整理 仲村美代子、古波ひとみ、大城かなえ、島袋尚美

発掘作業員 島袋 学、稲嶺盛功、大嶺快福、島袋徳安、呉屋太郎、大城ウト
上村ツル、与座良子、安里民子、大城セツ、新城シズ、安里トミ
大城スエ、真謝ハル、津波ハル、山川ミツ、安慶名エリ子

5. 報告書の作成は次の体制で行った。

業務受託者 名護市教育委員会教育長・比嘉敏雄

編集責任者 社会教育課長・伊差川政男

総務責任者 文化財係長・比嘉武則

総 務 比嘉文子

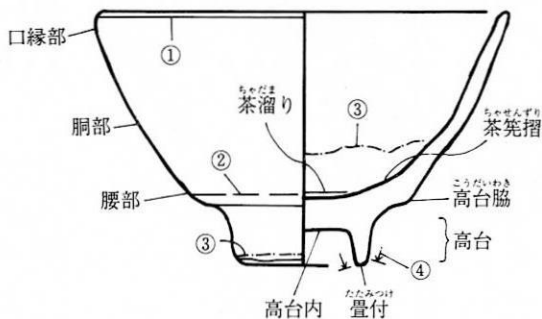
編 集 岸本利枝（執筆）、比嘉 久、渡口 裕、仲村美代子、島袋尚美

資料整理 岸本利枝、仲村美代子、島袋尚美

写 真 比嘉武則、岸本利枝

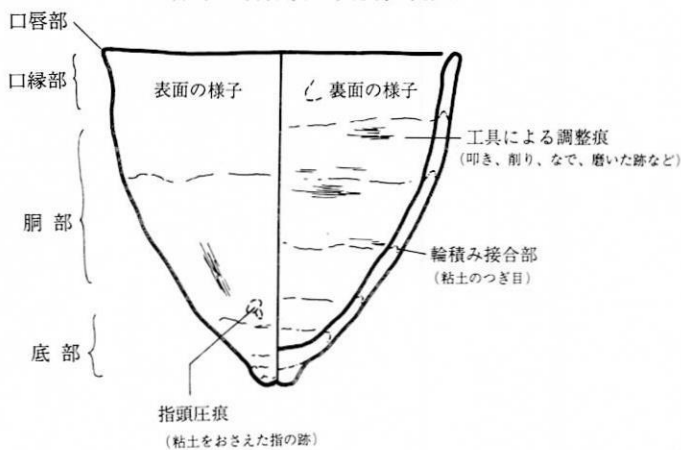
協 力 島福善弘

陶磁器の実測表現図

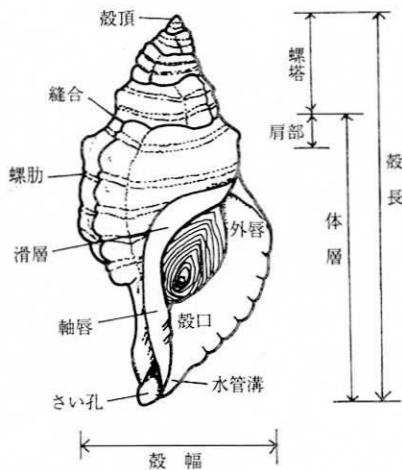


- ① 稜線 (明瞭な線)
- ② 稜線 (不明瞭な線)
- ③ 釉薬のさかいを示す
- ④ 釉薬がかかっている範囲を示す

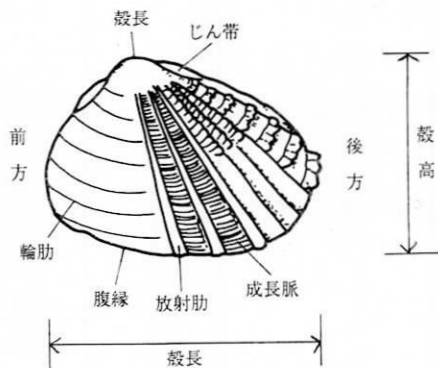
土器各部の名称及び実測表現図



巻貝各部の名称



二枚貝各部の名称



目 次

未来に残そう過去の遺産～序にかえて～

例 言

目 次

図版目次

写真目次

I 調査に至る経緯	1
II 位置と環境	3
III 調査の内容	6
1. 範囲と方法	6
2. 層 序	8
3. 遺 構	14
4. 出土遺物	15
(1) 陶磁器	17
(2) 石 器	18
(3) 土 器	21
(4) 貝製品	47
5. 食料残滓	78
(1) 貝類遺存体	78
(2) 脊椎動物遺存体	90
IV 調査の成果と課題	94

図版目次

第1図	名護市の位置図	2	第27図	貝製品	51
第2図	部瀬名貝塚周辺の遺跡・文化財分布図	3	第28図	貝製品	52
第3図	部瀬名貝塚の位置図	4	第29図	貝製品	54
第4図	部瀬名貝塚周辺の小地名図	5	第30図	貝製品	56
第5図	グリッド設定図	7	第31図	貝製品	58
第6図	試掘ピット層序断面図	9	第32図	貝製品	60
第7図	層序断面図(1)	10	第33図	貝製品	62
第8図	層序断面図(2)	11	第34図	貝製品	64
第9図	部瀬名貝塚平面図	12	第35図	貝製品	66
第10図	陶磁器	16	第36図	貝製品	68
第11図	石器	19	第37図	貝製品	70
第12図	石器	20	第38図	貝製品	72
第13図	土器(有文口縁)	22	第39図	貝製品	74
第14図	土器(有文口縁)	24	第40図	貝製品	76
第15図	土器(有文口縁)	26	第41図	貝類棲息地分布図	80
第16図	土器(有文口縁・胴部)	28			
第17図	土器(有文胴部)	30			
第18図	土器(無文口縁)	32			
第19図	土器(無文口縁)	34			
第20図	土器(無文口縁)	36			
第21図	土器(無文口縁)	38			
第22図	土器(無文口縁・胴部)	40			
第23図	土器(底部)	42			
第24図	土器(底部)	44			
第25図	土器(底部)	46			
第26図	貝製品	50			

表 目 次

第1表	トレンチ別遺物出土状況	15	写真14	土器有文口縁表裏面	99
第2表	土器器種別出土状況	23	写真15	土器有文口縁表裏面	100
第3表	貝製品トレンチ別出土状況	49	写真16	土器有文口縁表裏面	101
第4表	貝種別出土状況	79	写真17	土器有文口縁表裏面	102
第5表	貝棲息地別比較表	81	写真18	土器有文口縁・胴部表裏面	103
第6表	貝殻集計表 ①	82	写真19	土器有文胴部表裏面	104
	貝殻集計表 ②	84	写真20	土器無文口縁表裏面	105
	貝殻集計表 ③	86	写真21	土器無文口縁	106
	貝殻集計表 ④	88	写真22	土器無文口縁	107
第7表	哺乳類・出土骨のまとめ	91	写真23	土器無文口縁表裏面	108

写 真 目 次

写真1	部瀬名岬の空中写真	1	写真27	土器底部	111
写真2	Lライン断面状況	8	写真28	貝製品	112
写真3	発掘風景(北側より)	13	写真29	貝製品	113
写真4	完掘状況	13	写真30	貝製品	114
写真5	試掘ピット完掘状況(ピット13)	14	写真31	貝製品	115
写真6	南西隅出土の貝(J-97)	14	写真32	貝製品	116
写真7	ジュゴンの骨出土状況(K-98)	90	写真33	貝製品	117
写真8	脊椎動物遺存体	92	写真34	貝製品表裏面	118
写真9	脊椎動物遺存体	93	写真35	貝製品表裏面	119
写真10	陶磁器表裏面	95	写真36	貝製品表裏面	120
写真11	石器表裏面	96	写真37	貝製品	121
写真12	石器表裏面	97	写真38	貝製品	122
写真13	土器有文口縁表裏面	98			

I 調査に至る経緯

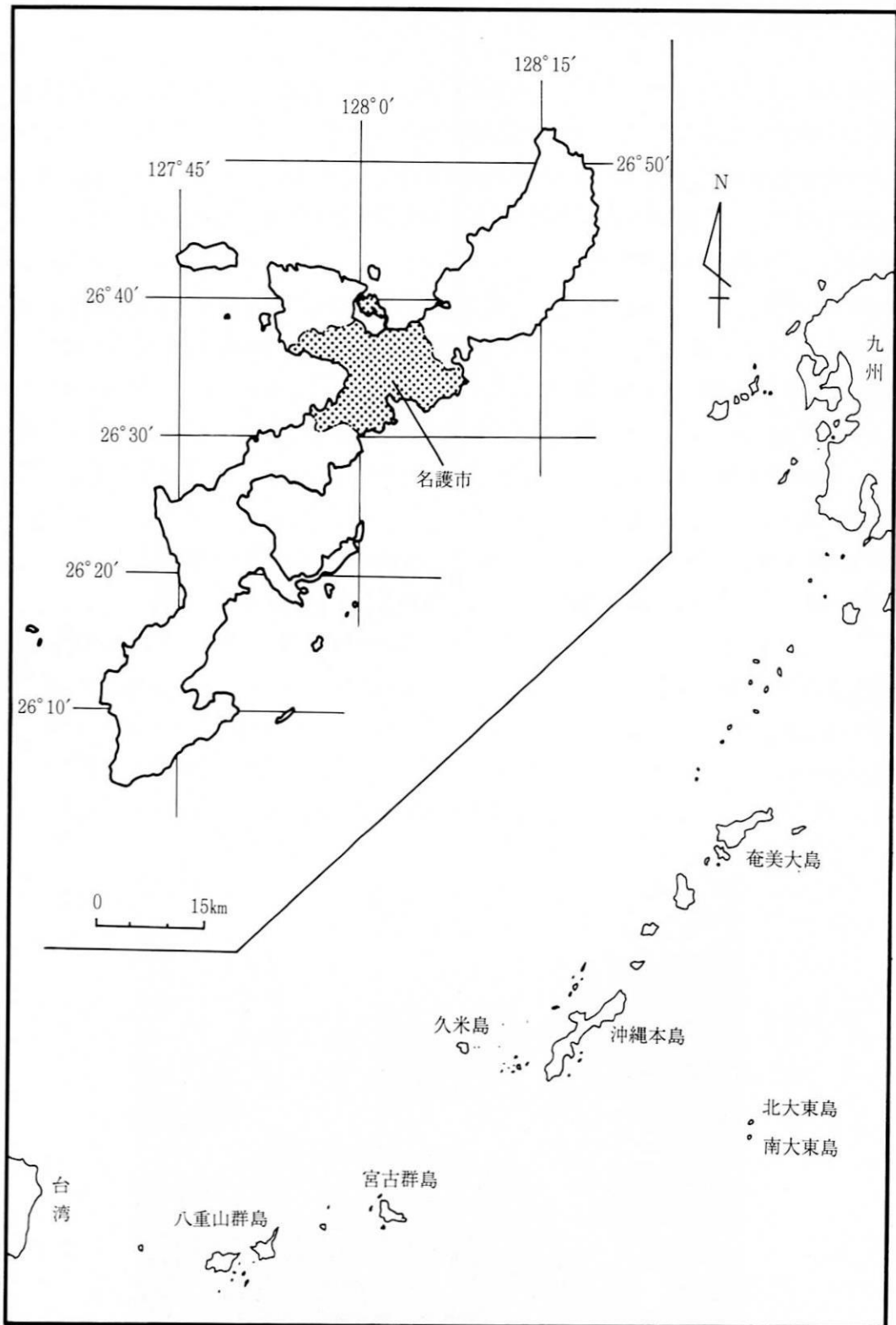
平成3年9月4日、ブセナリゾート株式会社（代表取締役社長 比嘉幹郎）より名護市教育委員会（教育長 玉城嘉真）へ、部瀬名岬海浜リゾートマスタープランの一環として行われる部瀬名岬部分の開発に伴う文化財の照会がなされた。その場所には、昭和28年（1953年）に多和田真淳氏によって発見された「部瀬名貝塚」の広がりが見込まれ、名護市教育委員会ではその遺跡の範囲を確認する調査を行うことになった。

調査は、平成4年（1992年）の7月に行った。調査予定地は、数年前まで「沖縄海中公園」に使用されていたため、ほとんどの地面がアスファルト等で覆われていたため、ブセナリゾート株式会社の協力を得て、あらかじめ決めておいた7カ所の試掘ポイントのアスファルトおよび客土を取り除いてもらった。掘り下げた結果、遺物を含む黒色の砂の層（包含層）が確認できた。その調査結果を基に開発調整を行ったが、遺跡部分を外しての開発が難しく、記録保存の調査を行うことになった。

調査体制を整え、本格的な調査に入ったのは、平成5年（1993年）11月22日。それから約4ヶ月間を費やし、部瀬名貝塚の遺物を取り上げ遺構を実測する記録保存の調査を行った。しかし、時間や費用に制限があったため、主に開発によって破壊される部分に限った調査となった。調査した結果、今回の調査地内では海中公園建設前に行われたという採砂によって、広い範囲にわたり、遺跡が破壊されていることがわかった。ただ、残っている部分の遺跡から採集した土器や貝の量、国道を隔てた部分とのつながり等から、かなり大きな遺跡であったことが予想され、後世の発掘調査の機会を待ち、部瀬名貝塚の実態が明らかにされることを期待する。



写真1 部瀬名岬の空中写真



第1図 名護市の位置図

Ⅱ 位置と環境

部瀬名貝塚は、名護市と恩納村の境近くに位置する砂丘遺跡で、行政上は沖縄県名護市字喜瀬部瀬名原に所在する。

喜瀬部落の北西の方向に位置し、北は名護湾に面し、南には片成岩を基盤とする山々が連なり宜野座村と接する。遺跡範囲内には部瀬名原から小川が海に流れ込んでいる。

部瀬名岬を含む恩納村字宇嘉地から名護市世富慶の海岸沿いは、白砂が長く続き景観が特に優れた地区である。そのため1965年に「沖縄海岸政府立公園」に指定され、1972年の復帰にともない「沖縄海岸国定公園」となった。その後、1970年8月には沖縄海中公園が開園、1975年には、隣接して国民宿舎名護浦荘が開設された。しかしその反面、部瀬名岬付近の海岸からは開発のため採砂され、美しい景観が崩されるということもあった。

この部瀬名貝塚は、1953年に多和田真淳氏によって発見され、その当時は「喜瀬包含地」と銘々された。『古稀記念 多和田真淳選集』の中で「名護町字喜瀬、恩納村伊武部の海岸に近い。川田原貝塚系の土器が出土する。」と記述され、縄文時代晩期に位置づけられている。

第2図 部瀬名貝塚周辺の遺跡・文化財分布図





第3図 部瀬名貝塚の位置図



第4図 部瀬名貝塚周辺の小地名図

Ⅲ 調査の内容

1. 範囲と方法

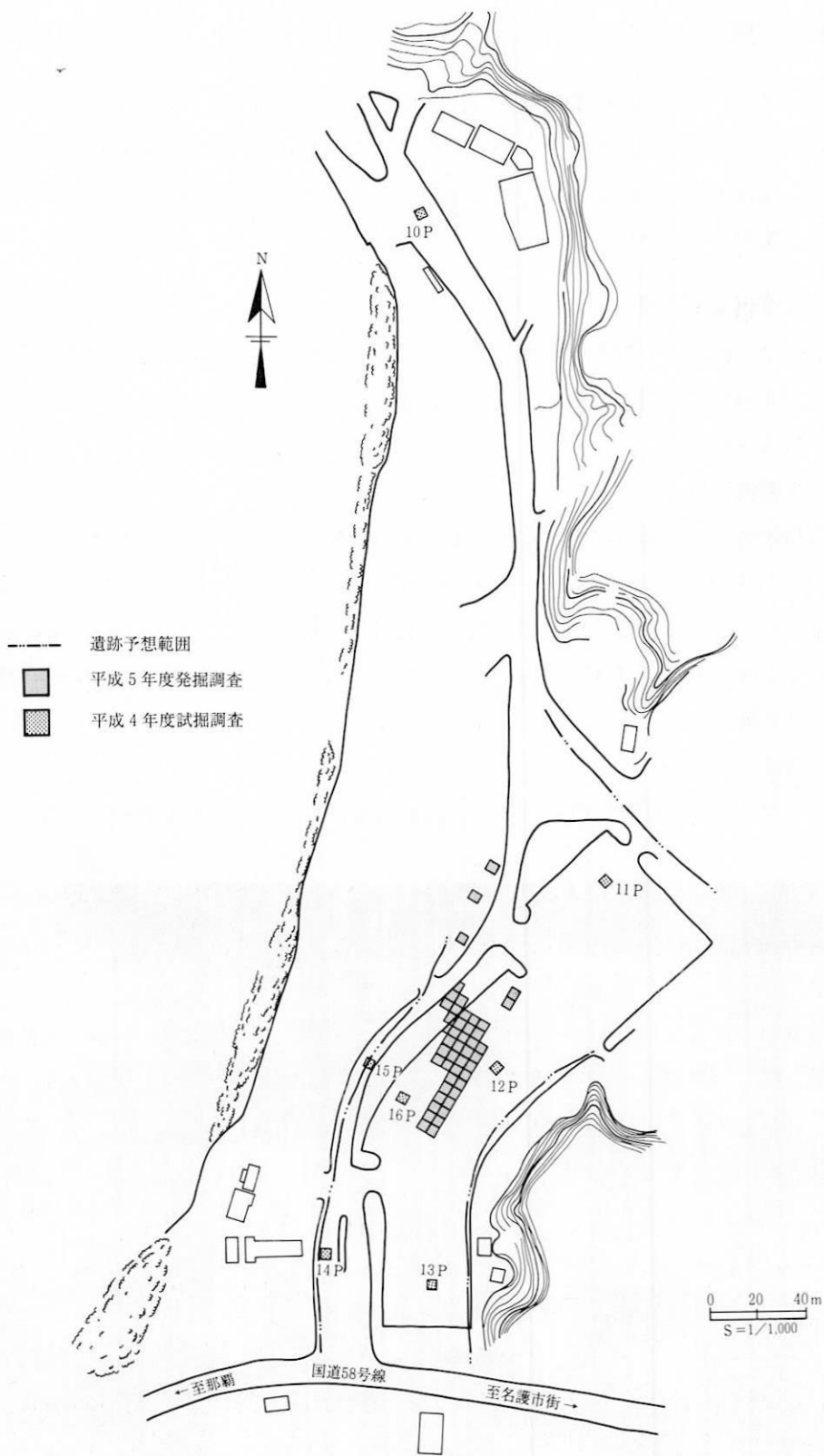
部瀬名貝塚は、元沖縄海中公園内及び国道58号線をはさんで南側に広がる貝塚であるが、今回の調査は海中公園内の工事のため、調査範囲は公園内のみとなった。

平成4年度試掘調査は、7つのピットをもうけて始められた(第5図)。その結果、遺物が検出されたのは12・13・15ピットで10・11・14・16ピットからは遺物の出土はなかった。遺構らしきものは検出されなかったが、13ピットにおいて、地山(白砂)直上から採砂するための重機の刃痕がみられた(写真5)。

平成5年度に実施した本格的な調査は、1993年11月22日から1994年2月4日の約4ヶ月間を費やした。以前の表面調査及び試掘調査の結果、公園内の入り口にある駐車場部分から主に遺物の出土がみられたため、駐車場敷地内の中心部からアスファルト・コーラル・客土部分を重機で除去してもらった。

グリッドは、4×4mを単位とし、南北軸をアルファベット、東西軸に算用数字をあてた(第9図)。まず、層序確認のため、H-112、H-98・99部分を重機によって掘り下げた。その結果、遺物包含層が確認されたため、H-107・108より発掘を開始した。H・I-101～96を順をおって掘り下げていくと、かなり深いレベルにわたって攪乱を受けていることがわかったため、掘り下げを一時中断する。途中発掘範囲を広げるため、103列から以北の表面を重機で除去する。

H・Iトレンチはほとんどが攪乱であるため、次に表面を除去したK-98を10cmレベルで掘り下げた。その結果、北西面に貝の集中部が検出されたため、その周辺部に広げることとしK-99、L-98・99をもうけ、貝の集積面を広げる作業となった。掘り下げ作業の途中、中断していたH・I-103～99の地山(白砂)露出作業を平行して行った。その後、貝の集積面は南北に延びていることがはっきりしたため、L・M列の98～95さらに公園内道路をはさんでO・P列を設定し、貝の広がりを見ることにした。O・P列の3箇所についても攪乱であったため、地山(白砂)が露出した時点で終了した。以後、貝集積の掘り下げ及び貝集積以外の遺構検出につとめたが、残念ながら遺構は検出されなかった。貝集積を露出させた段階で、H・I-105～102部分の地山(白砂)を出し、攪乱部分と攪乱を受けていないプライマリーな層との境目を出すための作業を進めた。貝集積の広がりを露出させ、前面の様子がはっきりした時点で、図面をとり、その後、貝集積部分の遺物を取り上げ、地山(白砂)まで掘り下げて発掘を終了した。



第5図 グリッド設定図

2. 層 序

調査地区は、海中公園の駐車場として利用されていた場所で、地表面から130cm程はアスファルト・コーラル・客土が敷きつめられた状態であった。客土部分の除去後、層序を確認すると、包含層と思われる2つの層の確認がされ、その下に地山である白砂が検出された。

以下、基本的な層序について述べる。

I層（茶褐色混土砂層）

採砂などによって包含層が攪乱されている。下部にいくにしたがい、土の混入が少なくなり、II層に移行する部分では土の混入はほとんどみられない。しかし層序の境目ははっきり観察されない。

II層（黒褐色砂）

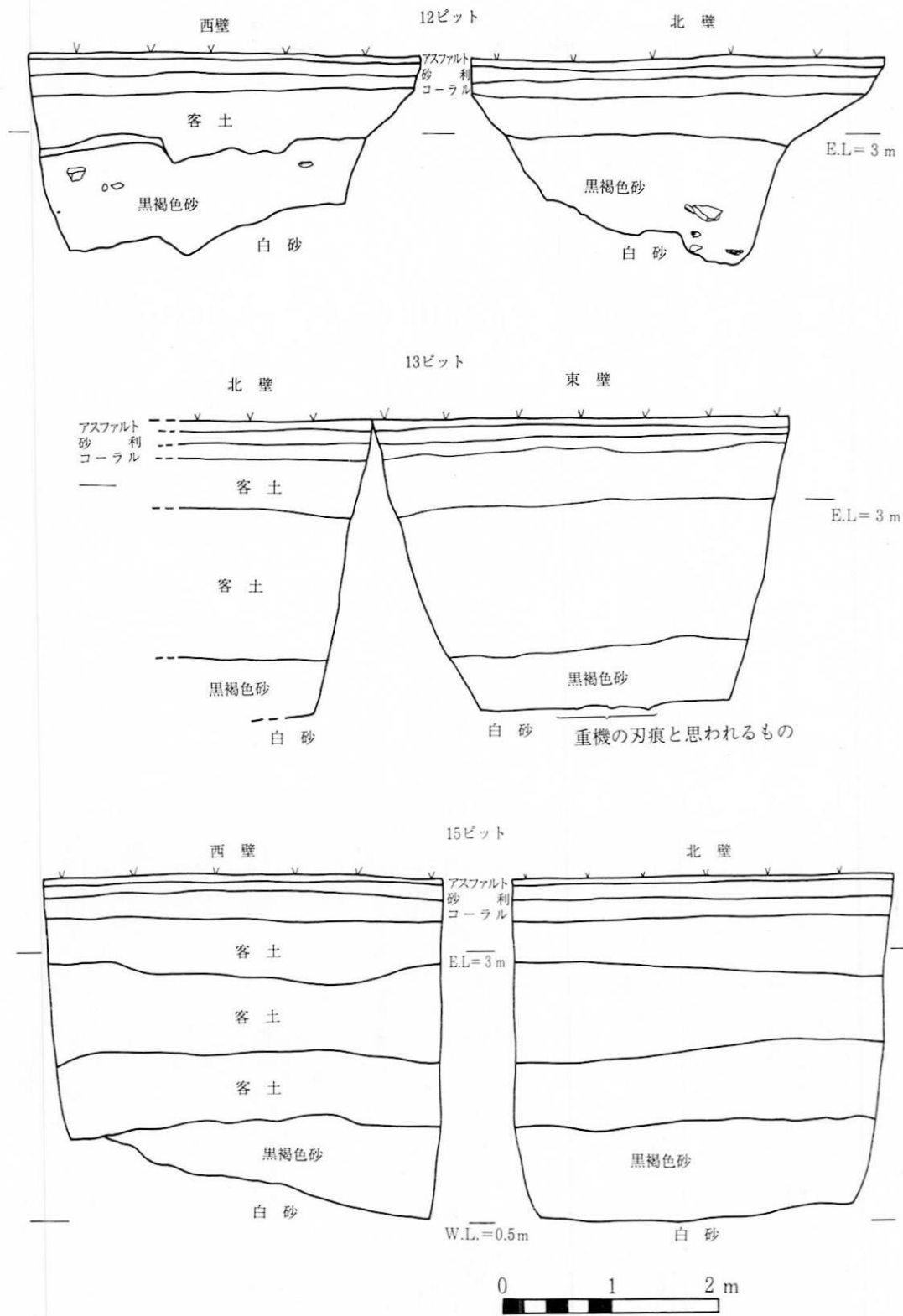
遺物包含層。土器も出土するが、主に自然遺物の貝が集中して検出される。H・I-104～109では110cmレベル、J・K・L・M-103～96では25cmレベルと厚さの幅の違いがみられる。しかし、H・Iトレンチはほとんど攪乱を受けている。そのため、遺物観察表や集計表ではH・Iトレンチを一括して、J・K・Lトレンチはプライマリーな包含部と攪乱部に分けて集計した。

III層（白砂）

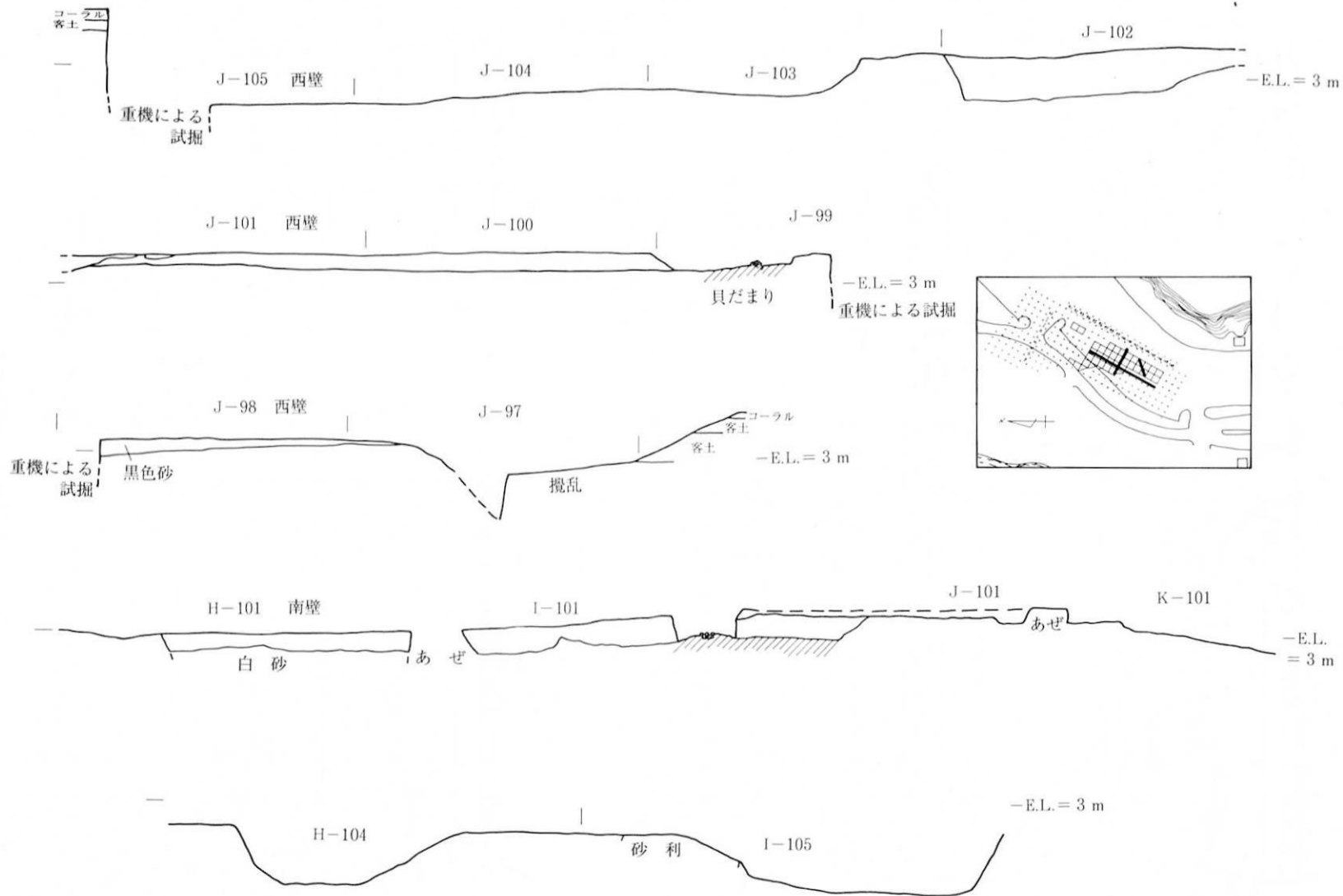
いわゆる地山。II層との境目より土器が検出される。部分的に砂利を含む。



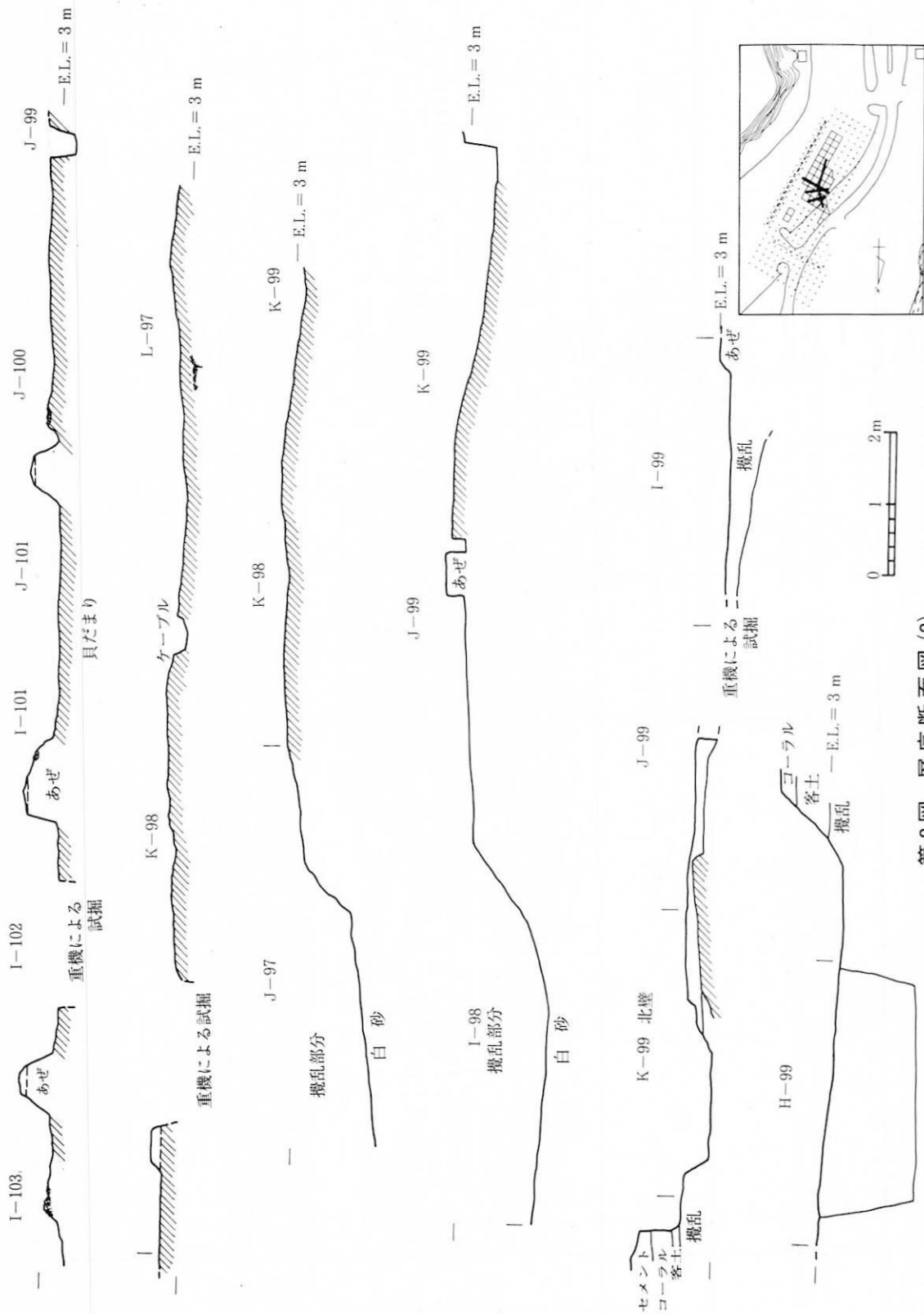
写真2 Lライン断面状況



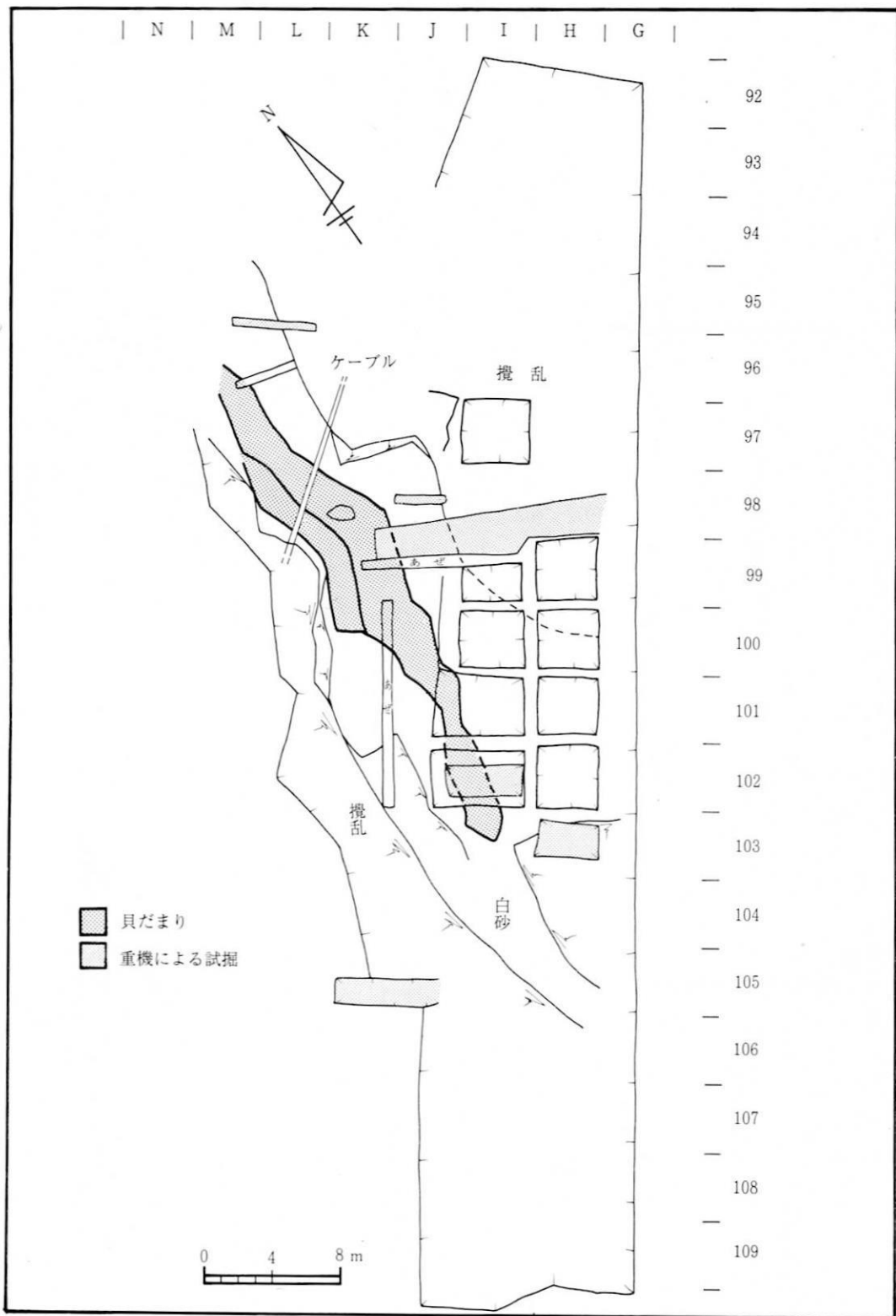
第6図 試掘ピット層序断面図



第7図 層序断面図(1)



第8図 層序断面図 (2)



第9図 部瀨名貝塚平面図



写真3 発掘風景（北側より）



写真4 完掘状況

3. 遺 構

第9図に示した貝の集積遺構が検出されたが、柱穴や住居跡などの遺構は検出されなかった。貝集積はK-98・99を中心に南北に細長くのび、プランは南北16m、東西1～2mをなす。集積の東側はほとんど傾斜がみられず、平坦でほとんどの部分が攪乱を受けているため、プランの状態を確認することはできなかった。西側では、急な傾斜がみられ、貝の集積もそれに伴って傾斜して堆積した状態となっている。黒褐色砂の層から約1mレベルまで、ほとんどびっしり貝がつまり、地山（白砂）まで混入している。

部分的にJ-97、L-96・98の3箇所において、イモガイ・ゴホウラが積み重なった状態で検出された。J-97出土のものは貝集積部分から若干離れた場所でみられた。L-98は貝集積部よりイモガイが十数点まとまって出土した。L-96については、北西隅においてゴホウラとイモガイが積み重なった状態で検出された。殻頂が15～16cmの大きめのゴホウラ4個体には小孔が穿たれ、そのゴホウラを殻頂12～13cmの小さめのゴホウラとイモガイが囲むようにして納められていた。しかし穴を掘って埋めた跡はみられない。

1970年以前の採砂による工事で、重機の通り道となった部分のみが破壊されずに残り、その周辺の遺物包含層（黒褐色砂）は白砂を採取するために破壊され、遺跡の周辺部に押し寄せられたと考えられる。

試掘ピット13のプランからは白砂上面に重機の刃痕らしきものが検出された。



写真5 試掘ピット完掘状況（ピット13）



写真6 南西隅出土の貝（J-97）

4. 出土遺物

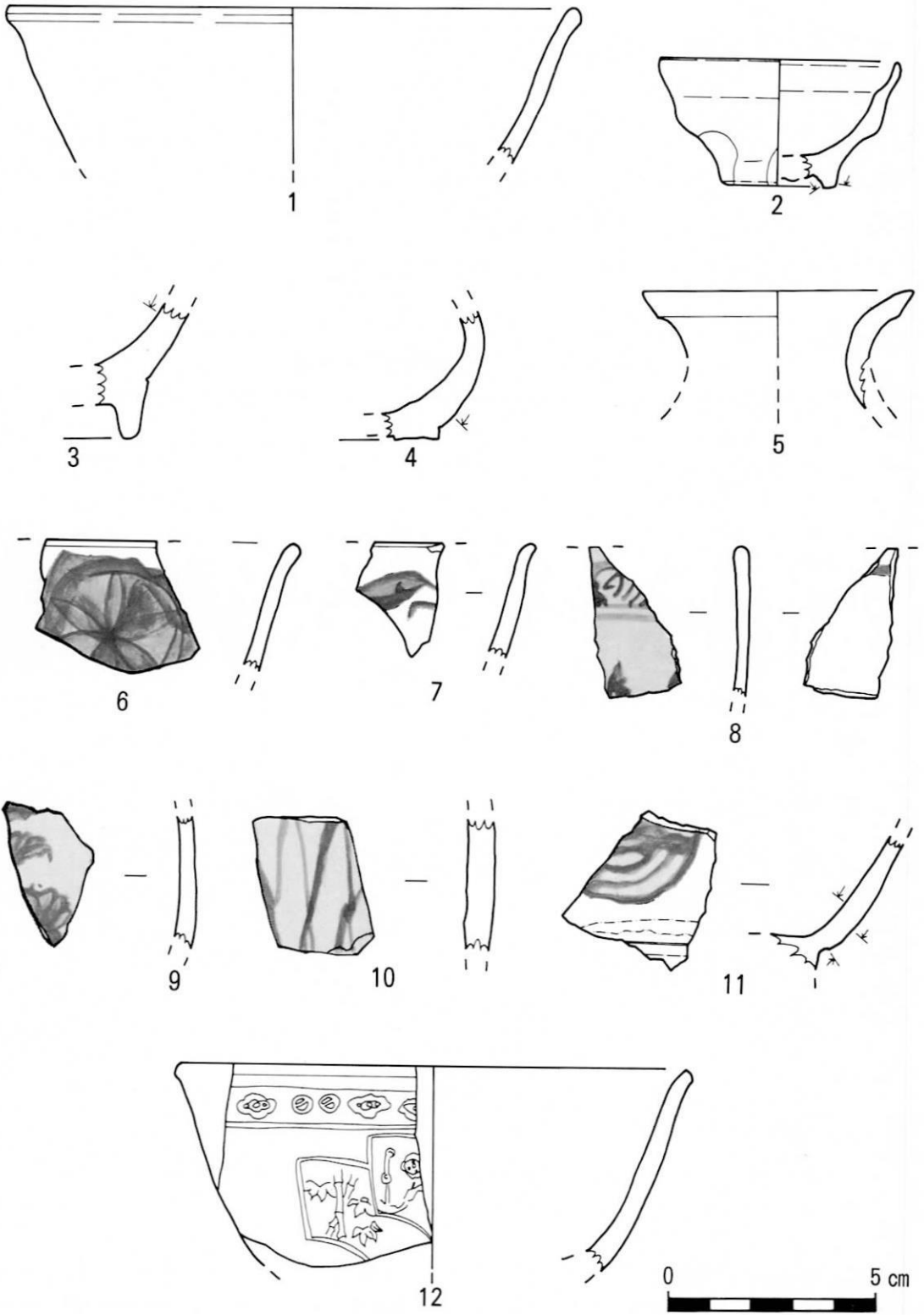
出土遺物は、人工遺物と自然遺物に分けられる。

人工遺物は、総数4,605点得られている（第1表）。内訳は陶磁器片、瓦片、現代遺物（クギ・針金など）、陶質土器、貝製品、石器、土器などである。瓦片や陶質土器、現代遺物は、ほとんどが小破片で攪乱部や客土部分からの出土であるため報告は割愛する。自然遺物は動物遺存体のみで、その中では貝殻が主体となっている。

以下、各遺物について述べる。

第1表 トレンチ別遺物出土状況

出土場所 遺物	H トレン チ	I トレン チ	Jトレンチ		Kトレンチ		Lトレンチ		M トレン チ	O トレン チ	P トレン チ	表 採	不 明	小計	試掘ピット							合計		
			包 含部	攪 乱部	包 含部	攪 乱部	包 含部	攪 乱部							10	11	12	13	14	15	16			
土 器	口縁部	16	24	30	10	82	2	109	2	31		3	1	310			3	1						314
	胴部	262	335	352	85	883	37	1,326	16	438	11	1	138	12	3,896			38	4					3,938
	底部	6	5	9	1	12		16		4		1			54									54
石器	1		1	1					2			1		6										6
貝製品	21	21	8	11	28	2	12	1	3				5	112										112
陶 磁 器	口縁部	6	18		4		2			3	1			34								1		35
	胴部	29	34	1	5		3			4		1		77				1						78
	底部	3	2							2				7										7
瓦片	18	5								1				24										24
陶質土器		1												1										1
現代遺物	10	17	1				1	1						30			3					3		36
合計	372	462	402	117	1,005	46	1,464	20	478	21	2	144	18	4,551	0	0	44	6	0	0	0	4	4,605	



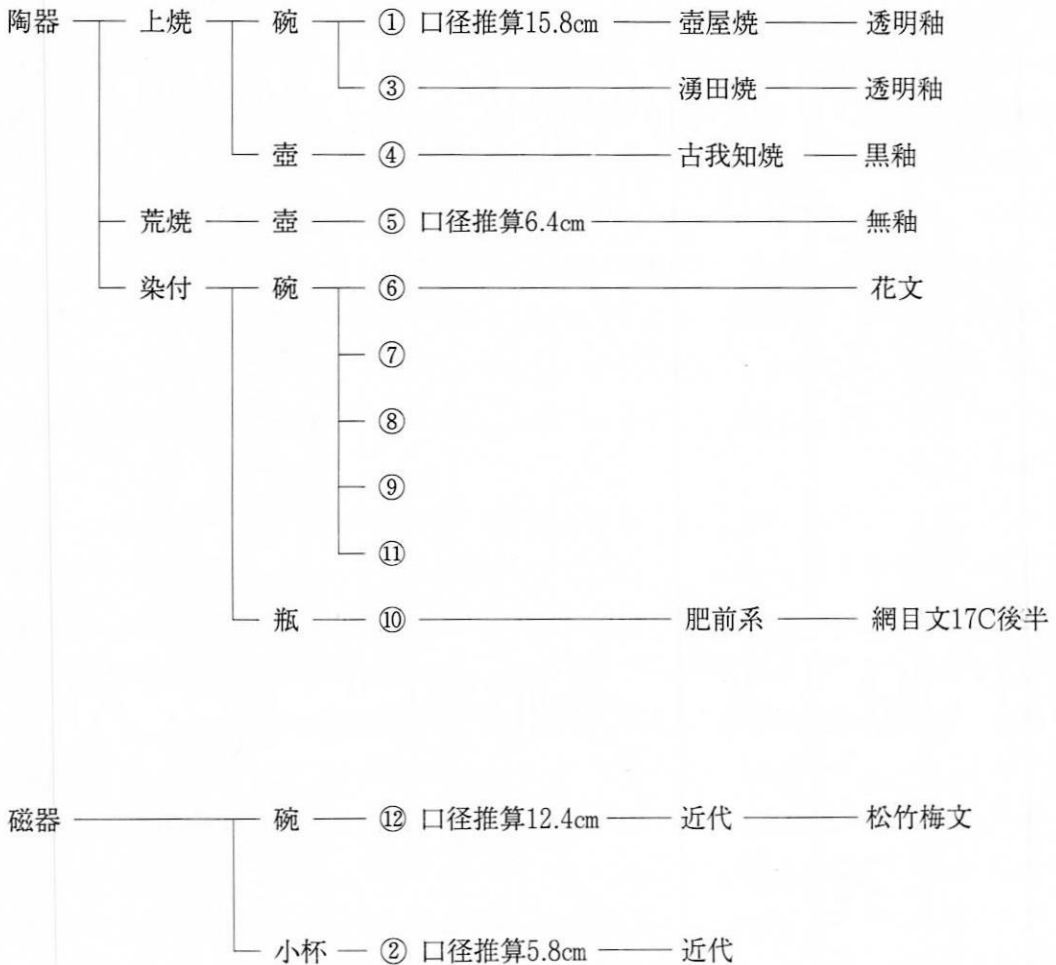
第10图 陶磁器

(1) 陶磁器

陶磁器では近世から近代の陶器、磁器、染付がみられた。器種は大半が小破片のため、判別不可能な資料が多いが、確認できるものでは碗、壺、徳利、瓶、小杯、播鉢で種類が少ない。出土場所は攪乱部であるO-91及びH・Iトレンチからの出土となっている。

第10図の各遺物に関する事項は、下記の観察表に示した。

第10図に対応する観察表



(2) 石器

石器は6点得られた。ほとんど完形品であるが、1点のみ小破片であるため割愛する。器種をみると、石斧は1点もみられず、すべてがすり石、あるいは叩き石である。その中で、1点はサンゴ石の有孔製品が出土している。

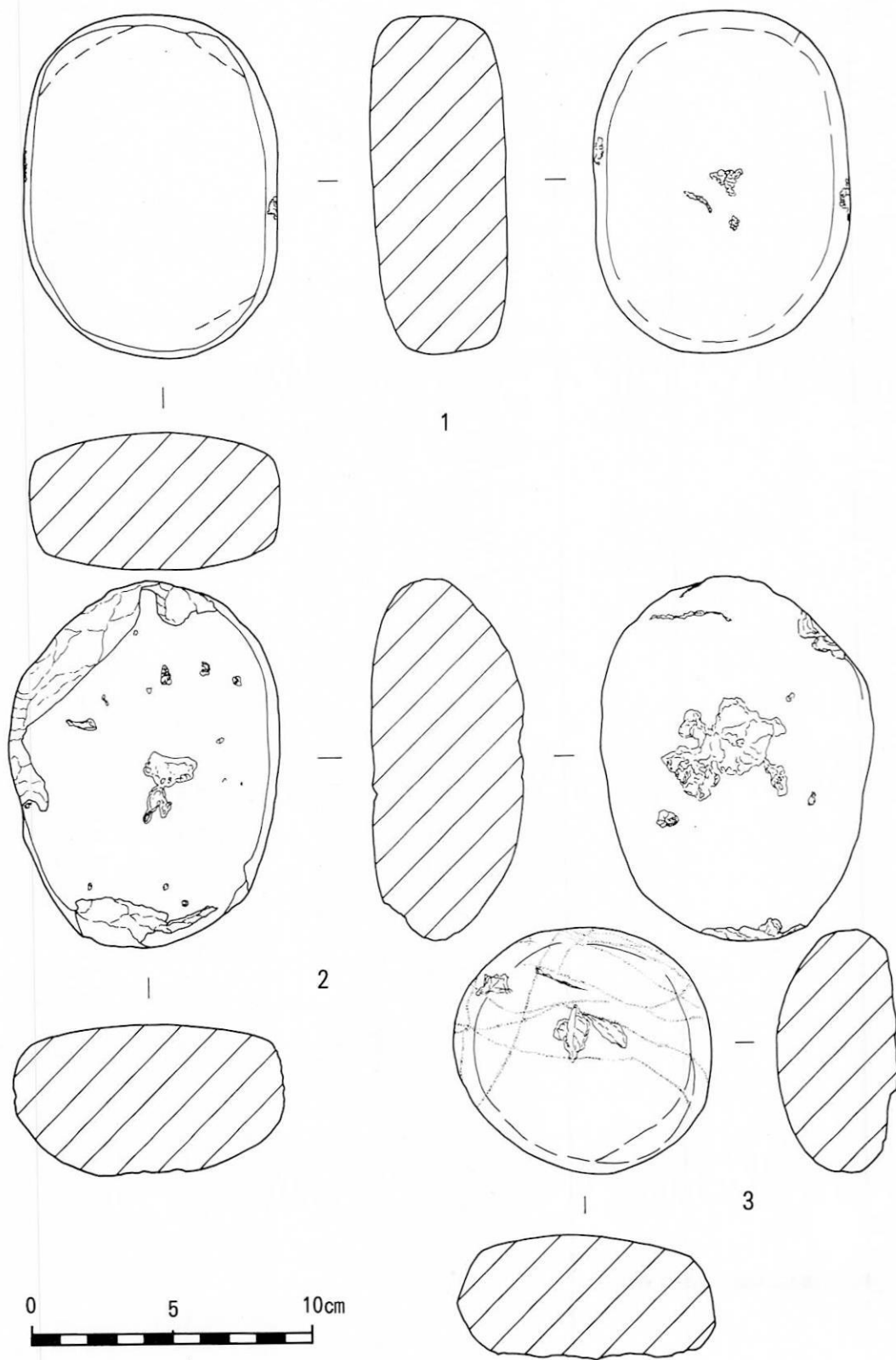
第11図1は完形品で、平面形が石鱗状を呈するすり石である。重量感のある嘉陽層の砂岩を使用している。表裏面は光沢を有するほど磨かれており、裏面の中央部に若干敲打痕がみられる。しかし、多く使用された感じはない。サイズは長さ11.8cm、幅8.9cm、厚さ4.8cm、重量950gを測る。出土場所はJ-100のⅡ層包含部。

同図2はほぼ完形品である。平面形はほぼ楕円形を呈しており、側面観は片面がほぼたいらで丁寧な研磨がみられる。反対側は若干ふくらみをもち、丁寧な研磨はみられない。敲打痕が中央にみられ、すり石と敲打器を併用していた可能性がある。石質は細長い輝石の含まれる輝石安山岩である。これは部瀬名以北より産出される石である。サイズは長さ12.9cm、幅9.7cm、厚さ5.2cm、重量855gである。M-97のⅡ層の包含部より出土。

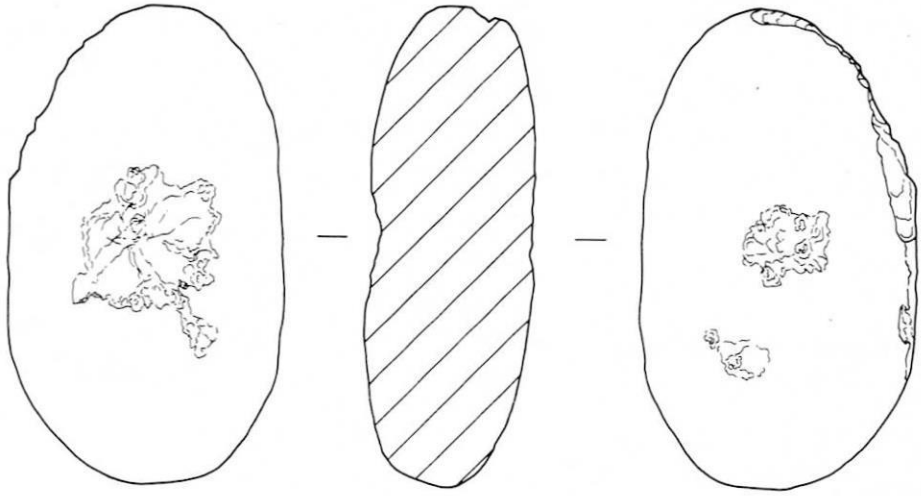
同図3もほぼ完形品で、平面形がきれいな円形を呈している。裏面は自然の割れで表面及び側面が磨かれているが、あまり丁寧ではない。サイズは長さ8.7cm、幅9.2cm、厚さ4.3cm、重量505gと手の中に丁度納まり使用しやすい大きさである。この資料はアスファルトや客土を除去した後に表採したものである。石質は嘉陽層の砂岩で、石英の細い脈が数条みられる。

第12図1は平面形が楕円形を呈するほぼ完形の叩き石である。研磨痕はみられない。全体的に細かい打痕がみられ、それによって形が整えられている。また表裏面中央には大きな窪みがあり、そこを集中的に使用したと思われる。側面部の上下面に使用痕はみられない。サイズは長さ14.3cm、幅8.3cm、厚さ4.9cm、重量860gを測る。石質は粘板岩の破片を含み、嘉陽層に特徴的な礫岩である。出土はM-97のⅡ層包含部である。

同図2は、1点のみの出土でキクメイシサンゴの仲間のサンゴ石を使用した有孔製品である。ほぼ完形と思われ、平面形は四角形に近い。中央よりやや上面に幅約2cmの孔を穿つ。孔は一方方向から斜めに穿たれ、開け方は丁寧である。ほかに加工痕はみられない。サイズは長さ16.7cm、幅12.2cm、厚さ2.6cm、重量580gを測る。出土がJ-102・103の攪乱部であるため、本貝塚と同時期に使用されたものかどうか不明である。

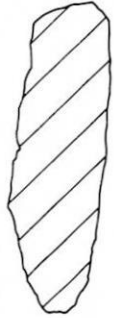
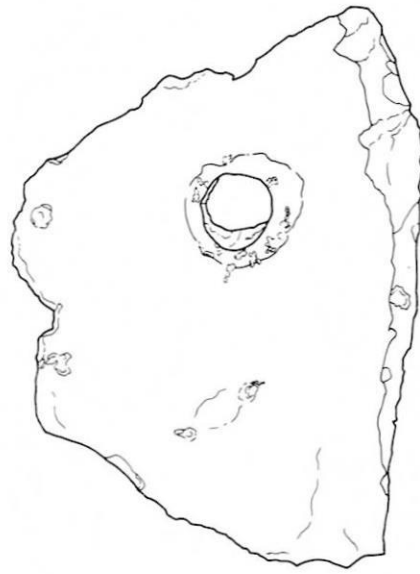
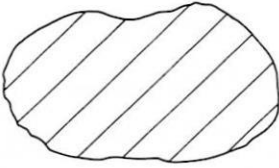


第11圖 石 器

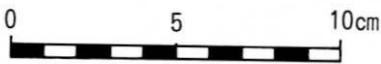


1

1



2



第12図 石器

(3) 土器

人工品の中で最も多く出土したのは土器片で、総数4,306点検出され、遺物の大半を占めている。各トレンチでの出土状況は第1表の通りである。

ほとんどの資料が破片であるが、径推算可能なものに関しては図上復元を試みた。大半の資料が大形の甕・鉢形土器であるが、稀に小形のものもみられ、甕・鉢形、壺形と器種の種類は乏しい。甕・鉢形については、甕形と鉢形の区別が明確にできないため、資料を一括して扱う。内訳は第2表(23P)。

器種は下記の通り分類される。底部の形状は、乳房状尖底が最も多く、続いて平底、尖底、くびれ平底などがみられる。

文様については無文土器が主体をなしており、文様を有するものは多くない。文様の施文部位は全資料が口縁部のみで、胴部、底部にまでは至っていない。

施文部位の組み合わせは多い順に、(イ)表面+裏面、(ロ)表面のみ、(ハ)表面+口唇部、(ニ)表面+裏面+口唇部、(ホ)口唇部のみ、あるいは裏面のみ、となっている。文様ではないが、口縁部の資料の中で14点の資料は有孔で、大半の土器が焼成後に穿孔されている。

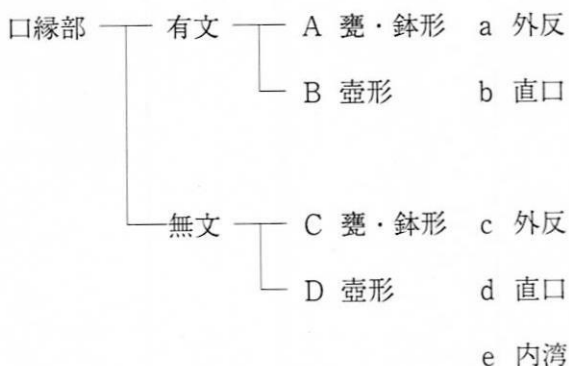
胎土は、器面の手ざわりがサラサラあるいはザラザラしており、もろいタイプと、胎土が細かく粘性をもつタイプが多くみられ、稀に堅緻で重量感のある胎土が散在してみられる。

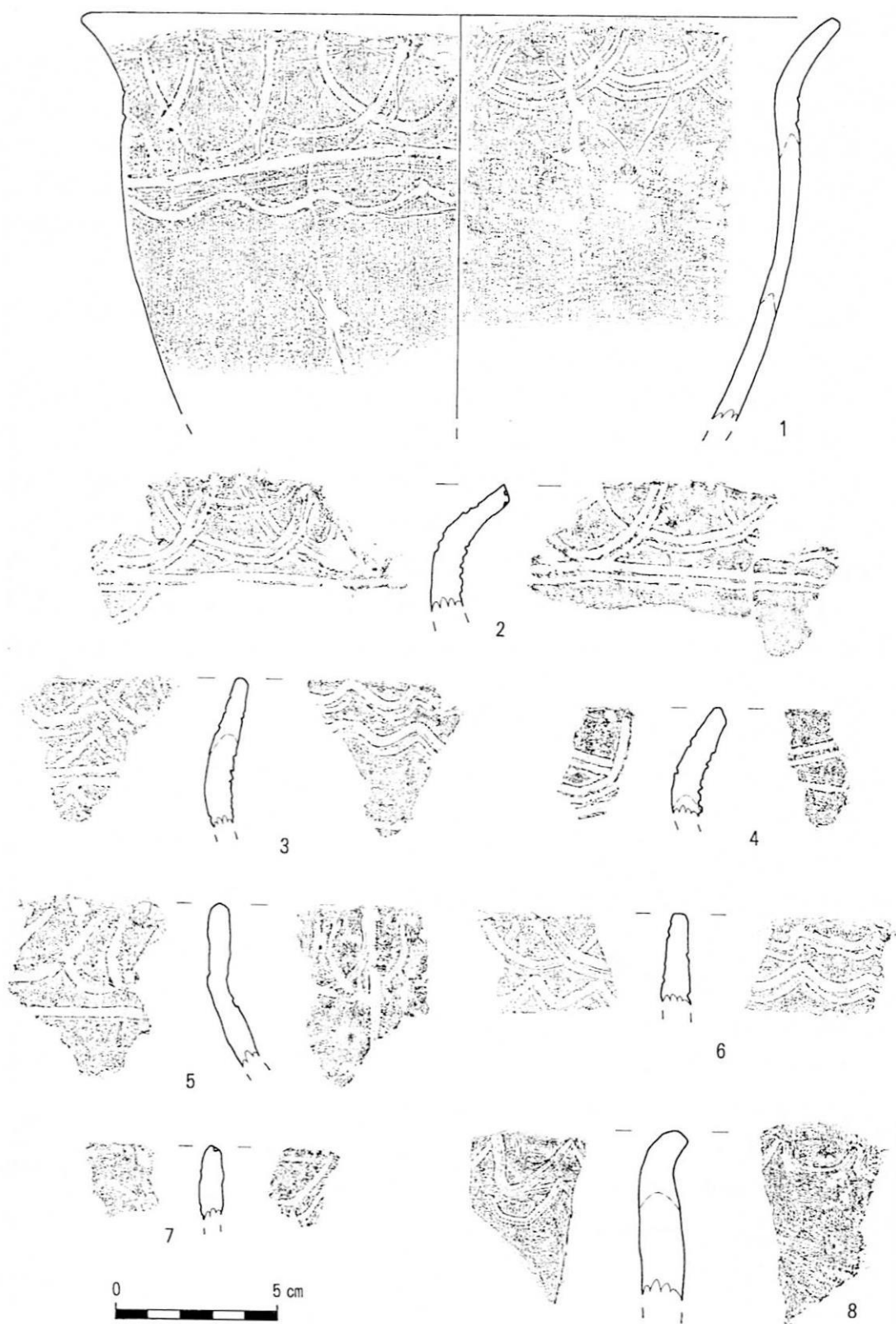
混入物については、混入量に違いはあるが、石英・長石、石灰質砂粒、赤色粒がみられる。稀に千枚岩の含まれる資料もある。さらに数点の土器に雲母が含まれ、胎土が九州的な資料もみられた。

胎土及び混入物に関しては沖縄貝塚時代後期ごろに普通にみられるタイプである。

器面の調整は指頭によるナデが一般的であるが、ほかに工具によってナデられたり、工具を使用後さらに指頭によりナデて調整している資料もある。また大形の深鉢形などは、調整が雑で輪積み接合部が顕著なものもみられる。

図面の各遺物に関する観察事項について記述する。





第13図 土器（有文口縁）

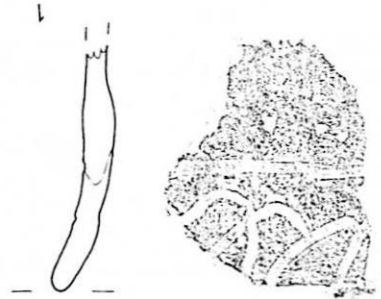
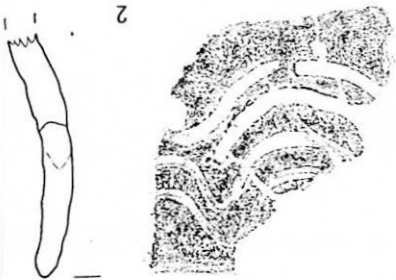
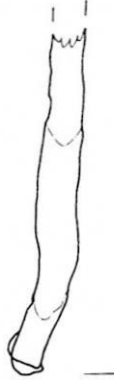
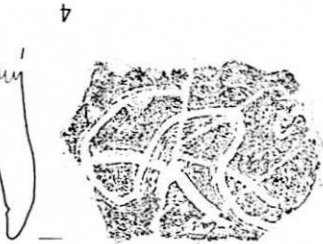
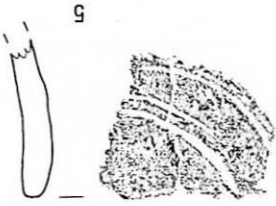
第13図に対応する観察表

挿図番号	出土場所	形態	観 察 事 項	焼成	混入物	器 色
1	J-100 II層 10cmレベル	口縁部 Aa(イ)	口径推算11.7cm。2箇所に輪積み接合部がみられる。半截竹管状工具による沈線で、孤文及び直線文、曲線文が組み合わせられる。文様は右から左方向に描かれる。(復元可能)表面の口縁部に煤が付着する。	良 好	角 閃 石 石英・長石	表面黒褐色 及び淡茶褐色、裏面淡灰褐色
2	K-100 II層	口縁部 Aa(ニ)	口縁部のそりが大きい。半截竹管状工具による深めの沈線で、Na1と同様の文様構成となる。口唇部に雑な刺突による連点文あり。施文方向は右から左。	良 好	角 閃 石 石灰質砂粒 微量	表面暗褐色 裏面淡褐色
3	K-101 II層	口縁部 Aa(イ)	輪積み接合部が口唇部近くにみられる。幅の狭い単篋による曲線文と直線文の組み合わせ。	若干 もろい	々	暗褐色
4	L-97 II層 25/30	口縁部 Aa(ニ)	頸部に輪積み接合部あり。又状工具による深めの沈線文。Na1・2と同様の文様構成。口唇部に刺突がみられるが、小破片のため連点になるかは不明。裏面は横位の線文。	良 好	角 閃 石 赤 色 粒	表面暗褐色 裏面淡黄褐色
5	K-101 II層	口縁部 Bb(イ)	3mm幅の篋状工具による浅い施文。文様は雑で形がややくずれている。	若干 もろい	石灰質砂粒	淡褐色
6	K-100 II層	口縁部 Ab(イ)	5mm幅の半截竹管状工具を使用。表面は孤文及び曲線文を描くが、裏面は曲線文のみ。	良 好	角 閃 石 石灰質砂粒	淡褐色
7	J-101 II層	口縁部 Ab(ニ)	表面は浅く施文され模様がはっきりしない。裏面の口唇部近くに直線文がみられるのはこの1点のみ。口唇部には刺突文。1.5mm幅の棒状工具を使用。	若干 もろい	赤 色 粒 石灰質砂粒	褐色
8	H-104 I層	口縁部 Ab(イ)	口唇部近くに輪積み接合部あり。3.5mmの篋状工具によって浅く施文される。孤文は交差せず連続する。	良 好	角 閃 石 赤 色 粒	淡黄褐色

第2表 土器器種別出土状況

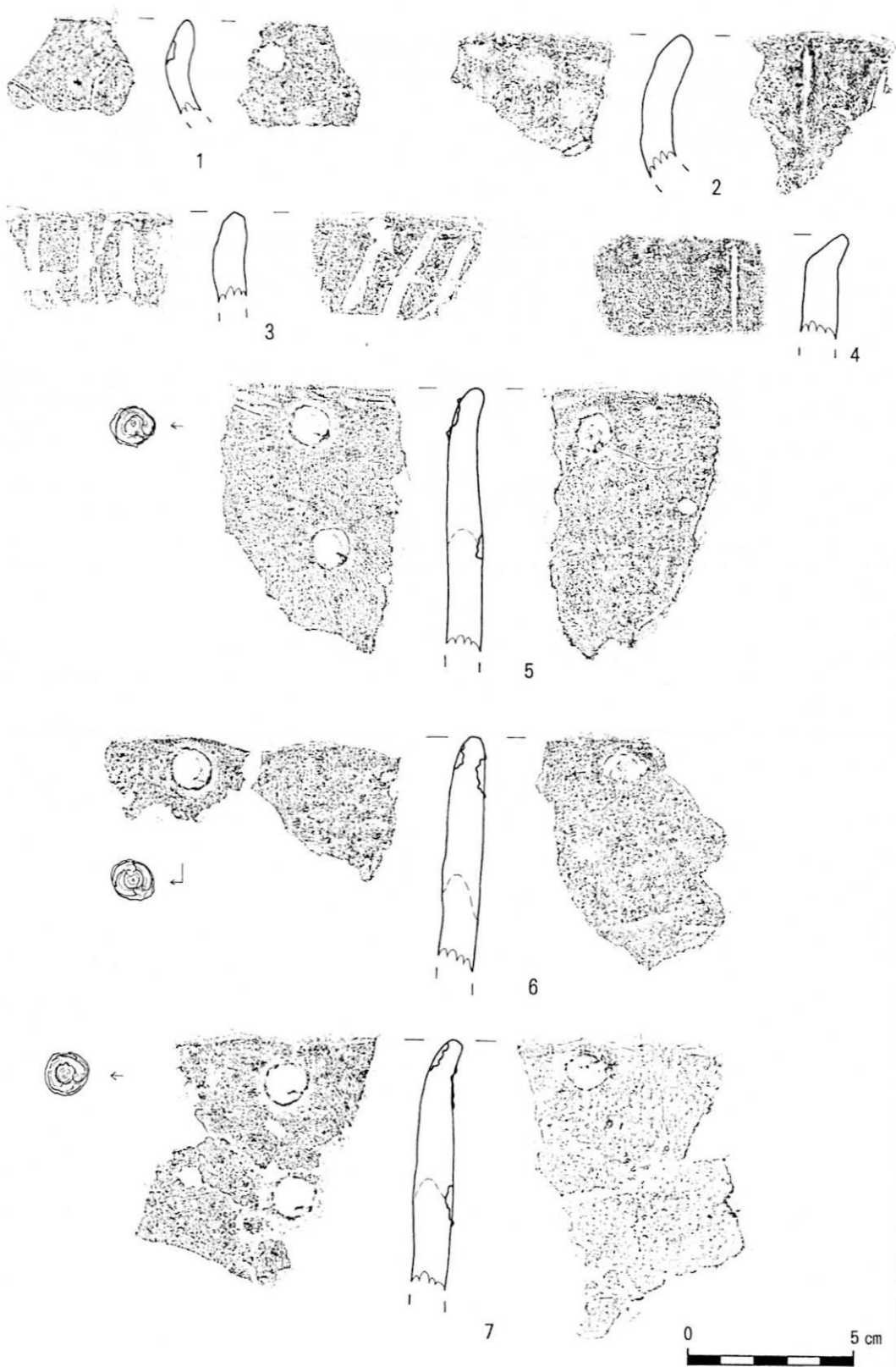
器 形	出土場所	H トレンチ	I トレンチ	Jトレンチ						Kトレンチ						Lトレンチ						M トレンチ	O トレンチ	P トレンチ	表 採	不 明	小 計	試 掘 ビ ッ ト								合 計
				包含部		攪乱部		包含部		攪乱部		包含部		攪乱部		包含部		攪乱部		10	11							12	13	14	15	16				
				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18							19	20	21	22					
口 縁 部	有 文	甕・鉢形	1	2	3			12			10														28			1								29
		壺形							2			1														3										3
		不明			1			1																		2										2
部	無 文	甕・鉢形	10	13	21	5	50	1	66	1	25							2	1	195								2	1							198
		壺形	3	2		1	2		6												14															14
		不明	2	7	5	4	15	1	27		6								1		68															68
底 部		乳房状尖底	2	3	6	1	6		8		2								1		29															29
		尖底			3				1												4															4
		くびれ平底	1				2		3												3															3
		平底	2	2			2		3		2										11															11
		不明	1				2		4												7															7
合 計		22	29	39	11	194	2	125	2	35	0	0	4	1	364	0	0	3	1	0	0	0	0	0	368									368		

第14圖 土器 (有文口緣)



第14図に対応する観察表

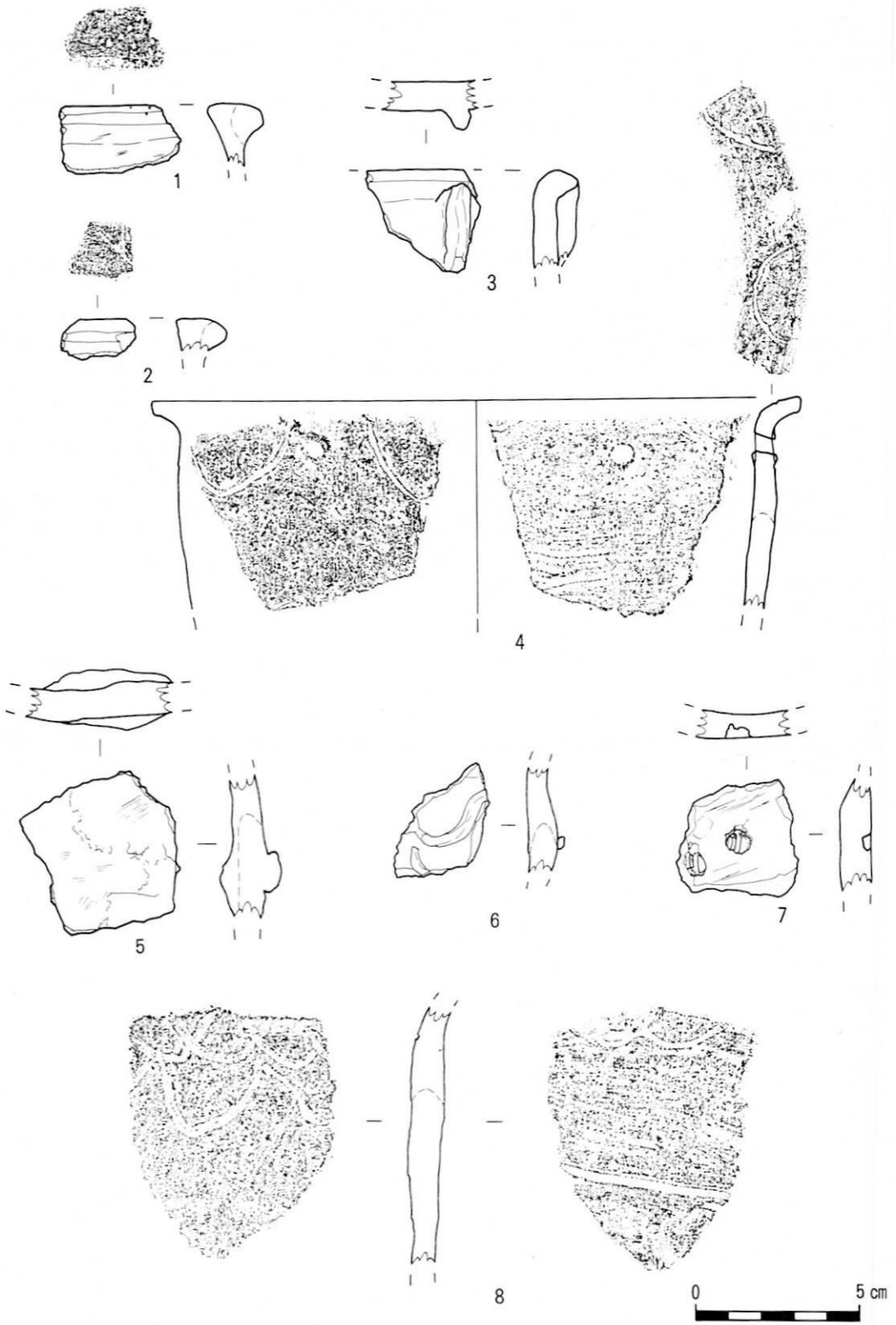
挿図番号	出土場所	形態	観 察 事 項	焼 成	混 入 物	器 色
1	K-101 II層	口縁部 Aa(イ)	輪積み接合部が1箇所みられる。3mm幅の篋状工具によって施文する。表面の孤文が若干ずれて雑な感じを受ける。裏面も孤文が崩れた状態になり、ほぼ直線的な文様になっている。	もろい	石灰質砂粒 千枚岩微量	暗褐色
2	ク	口縁部 Aa(ロ)	頸が長く、最大径は胴上部にあると思われる。頸部に焼成後穿孔した小孔あり。輪積み接合部より破損している。3mm幅の篋状工具を使用し、波状の文様を描くが、意図的に模様がとぎれる部分がある。	若干 もろい	石灰質砂粒 石英・長石	暗褐色
3	ク	口縁部 Aa(ハ)	幅広の棒状工具によって孤状を描き、口唇部には深く工具を押しつける刻目がみられる。そのため口唇部の形がいびつになっている。	ク	赤 色 粒 石灰質砂粒	表面淡褐色 裏面淡暗褐色
4	J-101 K-100 II層	口縁部 Bb(ロ)	輪積み接合部より破損する。2.5~3mm幅の篋状工具により不規則な曲線文を描く。	やや 良好	角 閃 石 石灰質砂粒	淡褐色
5	I-98攪乱部 0/60	口縁部 Ab(ロ)	細沈線によるゆるやかな曲線文。	良 好	石英・長石	灰褐色
6	L-98貝集積 (ケーブルより西側)	口縁部 Aa(ハ)	表面はナデ、裏面は粗い条痕を有する。文様は裏面口縁部のみで篋状工具による曲線文。裏面の一部に煤が付着する。	良 好	石灰質砂粒 赤 色 粒	表面淡褐色 裏面暗褐色



第15図 土器(有文口縁)

第15図に対応する観察表

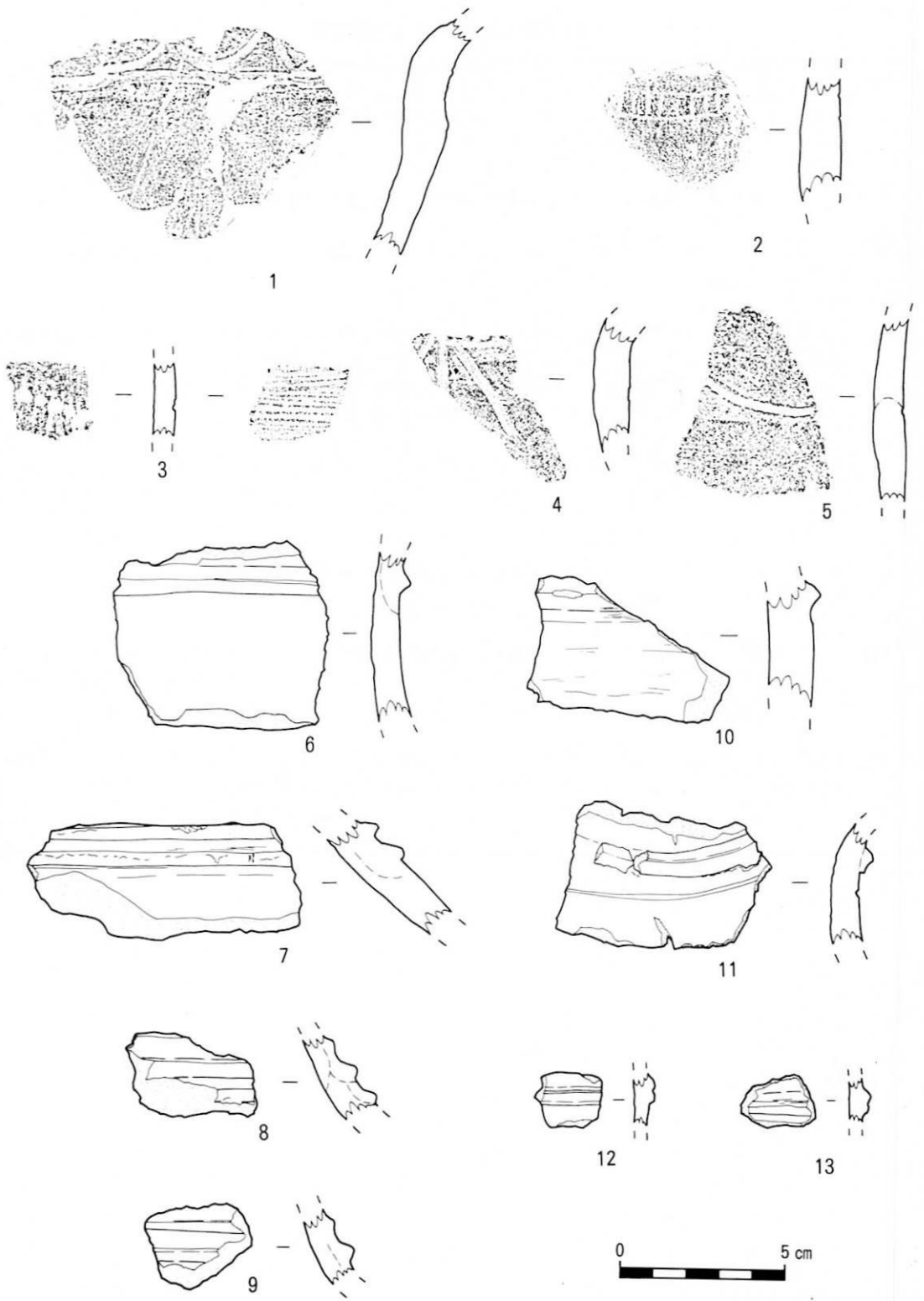
挿図番号	出土場所	形態	観察事項	焼成	混入物	器色
1	K-98 II層 貝集積	口縁部 Ab(イ)	細沈線による文様で、構図は不明。裏面は円形の刺突文と思われる。	良好	石灰質砂粒 赤色粒	暗褐色
2	L-97 貝集積東側	口縁部 Aa(イ)	表面の文様は頸部付近に浅い線文がわずかにみられるのみ。裏面は縦位の線文が施文されている。口縁表面は指頭圧痕がめだつ。	良好	角閃石 赤色粒	暗褐色
3	J-102 II層	口縁部 Ab(イ)	表裏面ともに4mm幅の単篋によって、表面は縦位、裏面は斜位に施文される	もろい	千枚岩 石灰質砂粒	黄褐色
4	I-103貝集積 白砂直上	口縁部 Aa(ロ)	口縁部の端を外側に折り曲げ、そのために裏面に強い稜がみられる。表面に細沈線による縦位の線文。摩耗がいちじるしい。	良好	赤色粒 石灰質砂粒	表面茶褐色 裏面黒褐色
5	L-98 II層	口縁部 Ab(イ)	表面に2箇所、裏面に1箇所、刺突文?がみられる。施文具は巻貝の螺塔部分と思われる。	良好	角閃石 石英・長石	淡褐色
6	L-98 南東 隅 攪乱部	ク	No.5と同様の資料。	もろい	赤色粒 石灰質砂粒	表面暗褐色 裏面淡褐色
7	K-98 II層 貝集積	ク	No.5・6と同様の資料。 *No.5~7の3点の文様は施文具が同一のものと思われる。 構図をみると、表面の2箇所の刺突文は縦に2コ並び、それと対応するように裏面に1コの刺突文?が施文される。	もろい	ク	暗褐色



第16図 土器(有文口縁・胴部)

第16図に対応する観察表

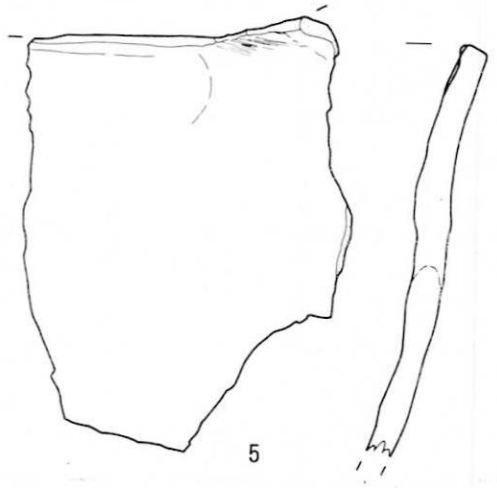
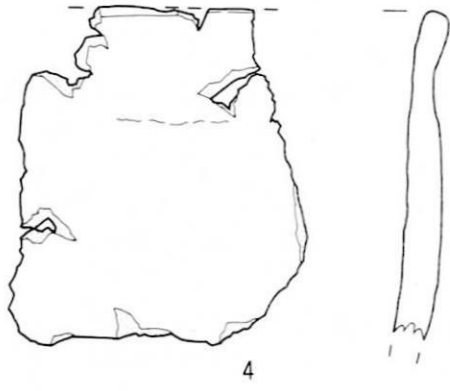
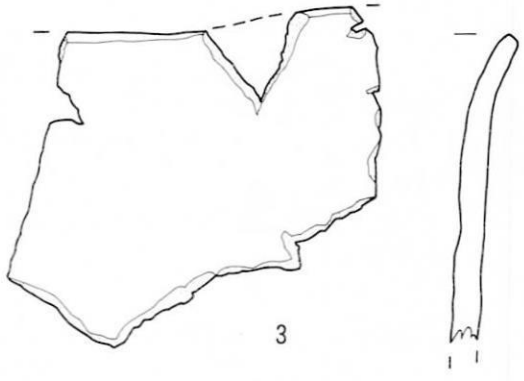
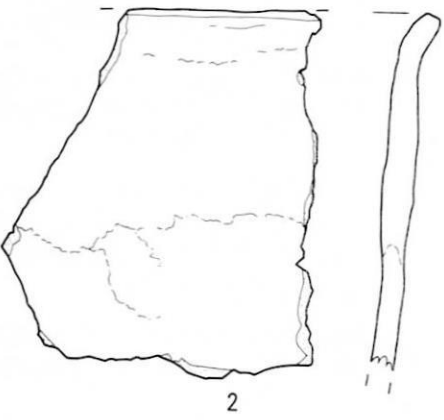
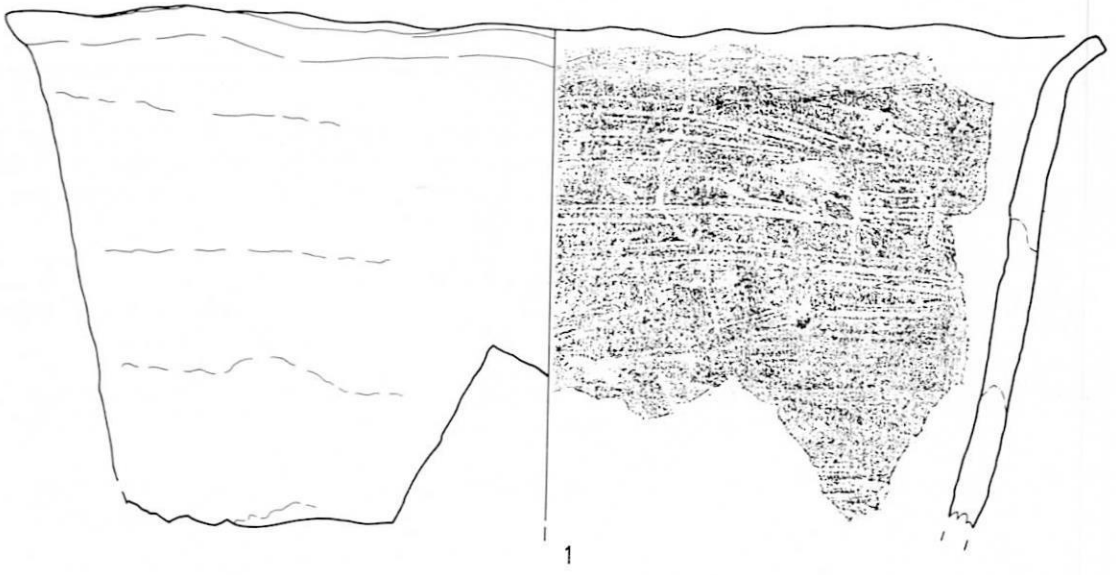
挿図番号	出土場所	形態	観 察 事 項	焼 成	混入物	器 色
1	L-97 I層	口縁部 Ab(※)	口縁を逆L字状に成型し、口唇部の平坦面に刺突文を施す。構図は、内側から外側に向かって弧状をなす。	良 好	石英・長石 角 閃 石	赤褐色
2	L-97 II層	ク	No.1と同様の器形。文様は細沈線によって羽状のな文様をなす。	良 好	ク	ク
3	K-98 II層	口縁部 Aa	口縁が外側に大きく屈曲し、口唇部先端より縦位に凸帯が貼付される。	良 好	石灰質砂粒 角 閃 石	黄褐色
4	L-98 ケーブル露出部分	口縁部 Aa(イ)	No.2・3と同様、口縁が大きく屈曲する器形。屈曲部直下に小孔を穿つ。孔は焼成前に穿孔され、文様構図の一部か、紐を通すものの可能性あり。表面は孔をはさんで、細沈線で下向きの弧文を描き、裏面は口唇部の平坦面に同様の弧文を描く。	良 好	赤 色 粒 石英・長石	表面暗褐色 裏面赤褐色
5	J-99 北側あぜ	胴 部	横位の凸帯を貼付する。裏面のふくらみは意図的に施したのかどうか不明。	良 好	石英・長石 角 閃 石 石灰質砂粒	表面淡黄褐色、裏面黒褐色
6	H-106 攪乱部30/60	ク	頸部から胴部あたりの破片。細い凸帯を貼り付けている。小破片のため構図は不明。	良 好	角 閃 石 石英・長石	黄褐色
7	J-101 II層	ク	表面の2箇所に刺突文を深く施文する。工具は棒状工具と思われる。	やや 良 好	石灰質砂粒 石英・長石 赤 色 粒	表面褐色 裏面暗茶褐色
8	K-96 貝集積周辺北東	胴 部 Aa	表面は棒状工具によって浅く曲線文が描かれる。裏面は細い工具によって施文されたと思われる。残在部下の凹線は、篋状工具による器面の調整痕。	良 好	赤 色 粒 石英・長石 千 枚 岩	表面褐色 裏面淡黄褐色



第 17 图 土 器 (有文胴部)

第17図に対応する観察表

挿図番号	出土場所	形態	観 察 事 項	焼 成	混 入 物	器 色
1	H-104・105 I層	胴部 Aa	胴上部に「く」の字状の屈曲を有する。裏面ははっきりと稜線はみられないが、屈曲部上部はナデによって丁寧に調整され、下部は雑な仕上がりととなっている。表面文様は弧文及び直線文。裏面はわずかに残っているものをみると、弧文を施すと思われる。	やや 良好	千枚岩 石灰質砂粒 (粒が粗い)	表面暗灰褐色、裏面淡褐色
2	L-96 II層 北側	胴部	文様は細沈線によって梯子を横にしたような構図が描かれる。	やや 良好	微粒雲母 石英・長石 石灰質砂粒	表面黒褐色 裏面淡褐色
3	表 採	ク	草茎状工具? を使って点刻文を施文する。それぞれの点はいびつで大きさに違いがある。裏面に横位の調整痕がみられる。	良 好	角 閃 石	灰褐色
4	L-98 貝集積 ケーブルの西側	ク	草茎状工具? によって放射状に施文される。	良 好	赤 色 粒 石灰質砂粒	黒褐色
5	試掘ピット12	ク	表面に棒状工具によって曲線文が描かれる。	良 好	赤 色 粒 角 閃 石 石英・長石	表面淡黄褐色、裏面淡灰褐色
6	K-98 II層 貝集積	ク	壺形の頸部付近と思われる。残在部の上部には断面三角形をなす凸帯がみられる。凸帯の数は不明。ナデ調整が丁寧に施され磨研土器のようである。裏面は器面の剥離が著しく、凹凸になる。山ノ口式系?	良 好	雲 母 角 閃 石 石灰質砂粒	表面茶褐色 裏面暗褐色
7	I-102 あ ぜ 表 面	ク	壺形と思われる。断面三角形の凸帯が2条みられる。	良 好	角 閃 石 赤 色 粒 石英・長石	表面黄褐色 裏面暗褐色
8	K-98 II層	ク	壺形と思われる。断面三角形の凸帯が3条みられる。調整が丁寧に磨研土器のようだが、表面は器面の剥離が若干みられる。山ノ口式系?	良 好	雲 母 石英・長石	表面黒褐色 裏面暗褐色
9	L-97 II層	ク	No.8と同一個体と思われる。山ノ口式系?	良 好	雲 母 石英・長石 角 閃 石	ク
10	H-102 I層	ク	傾き不明。断面三角形の凸帯が1条のみ。調整が丁寧に、器面がツルツルする程である。	良 好	石英・長石 角 閃 石 赤 色 粒	表面暗褐色 裏面褐色
11	L-96 II層	ク	壺形と思われる。断面三角形の凸帯が1条みられ、その直下に細沈線が1条めぐらす。表面は丁寧にナデ調整だが、裏面は雑である。	やや 良好	石英・長石 石灰質砂粒 角 閃 石	黄褐色
12	M-95 II層	ク	傾き不明。三角凸帯の中央部に棒状工具によって沈線を浅く施文している。	やや 良好	石英・長石 石灰質砂粒	黄褐色
13	ク	ク	No.12と同一個体と思われる。	ク	ク	ク



第 18 図 土 器 (無文口縁)

第18図に対応する観察表

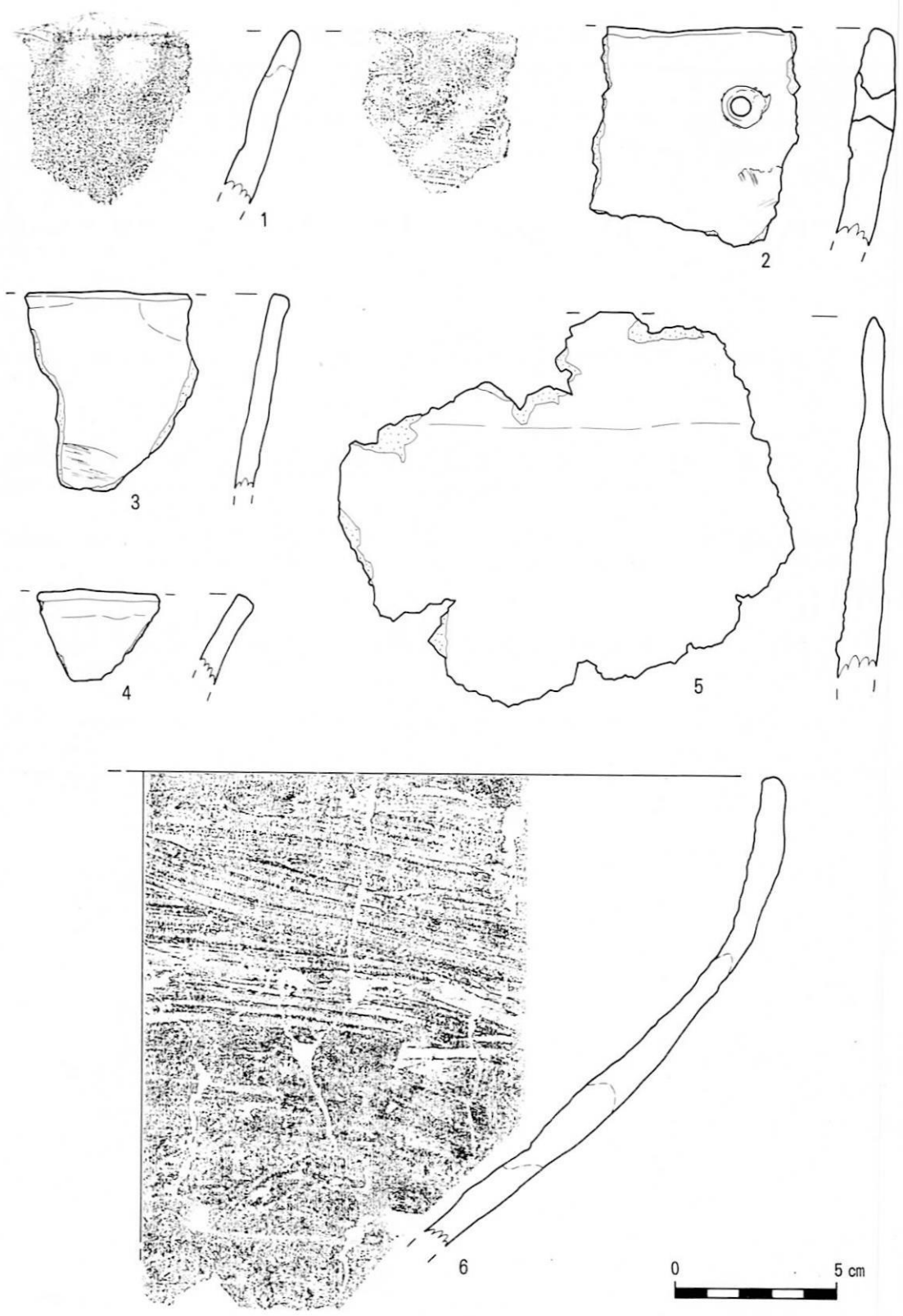
挿図番号	出土場所	形態	観察事項	焼成	混入物	器色
1	J・K-100 貝集積	口縁部 Cc	口径推算27.8cm。口唇部を外側に屈曲させ、器形は花鉢状を呈する。表面はナデ調整で、裏面は横位の刷毛目調整を施す。3箇所 に輪積み接合部が顕著に観察される。(復元可能)	良 好	石灰質砂粒 角 閃 石	黄褐色。部 分的に表面 黒褐色裏面 褐色
2	J-100 III層 上面	ク	器壁の薄い土器である。口唇が若干外反するだけのほとんど直線 的な口縁である。器面はナデによって調整される。	やや 良好	ク	表面黄褐色 裏面暗褐色
3	L-96 II層	ク	口唇が若干外反する口縁部。丁寧なナデ調整で、輪積み接合部は みられない。	若干 もろい	ク	表面黒褐色 裏面暗褐色
4	J-102 II層	口縁部 Cd	表面の頸部に指頭圧痕が囲繞される。稜が形成されるほどではな く、口唇がそったようにみえる。	やや 良好	粗粒千枚岩 石灰質砂粒	表面黄褐色 裏面褐色
5	K-98 貝集積下	口縁部 Cc	波状口縁の可能性のある資料である。波の上がった部分は若干ふ くらみをもつ。部分的に指頭圧痕が観察される。とてもかるい土 器である。	良 好	赤 色 粒 黒 色 粒	淡灰褐色 部分的に黒 褐色



第19図 土器（無文口縁）

第19図に対応する観察表

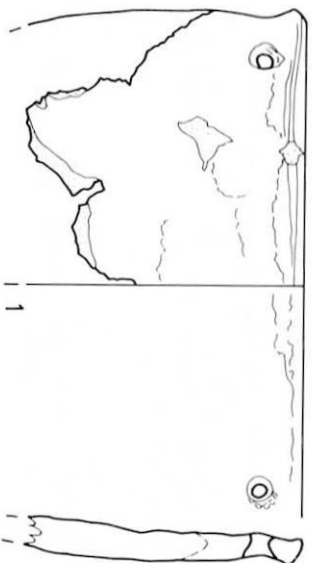
挿図番号	出土場所	形態	観 察 事 項	焼 成	混 入 物	器 色
1	L-98貝集積 ケーブルより 東側	口縁部 Cc	口唇部を外側に屈曲させる。胴部から口縁にかけて若干丸みをもつ資料。裏面に刷毛目痕が薄く残る。	良 好	角 閃 石 石灰質砂粒	表面淡褐色 裏面暗褐色
2	L-98 II層	ク	成形時に粘土を表におりまげ、若干屈曲を作る。部分的に刷毛目がみられる。	良 好	角 閃 石 石英・長石 石灰質砂粒 千 枚 岩	表面黒褐色 裏面灰褐色
3	L-97 II層	ク	波状口縁の可能性あり。とても薄く刷毛目痕が残る。	良 好	石灰質砂粒	淡褐色、部分的に黒褐色
4	L-97貝集積	ク	口縁部を逆L字状に成形するが作りが雑で、口唇部の形はいびつである。部分的に刷毛目痕が残る。	良 好	角 閃 石 赤 色 粒	表面赤褐色 裏面黒褐色
5	J-99 III層 みぞ掘り	ク	口縁部の屈曲は弱く、ゆるやかである。ナデ調整で消えきらず、3箇所輪積み接合部が確認できる。	良 好	石灰質砂粒	表面淡黄褐色、裏面暗褐色
6	I-106 II層 攪乱部	ク	裏面頸部に雑な刷毛目痕がみられる。それ以外の部分は丁寧なナデ調整が施される。	良 好	角 閃 石 石英・長石	黄褐色
7	M-96貝集積	ク	口縁部は外側に大きくそり返る。部分的に指頭圧痕が残る。	良 好	石灰質砂粒 赤 色 粒	表面暗褐色 裏面赤褐色



第 20 図 土器（無文口縁）

第20図に対応する観察表

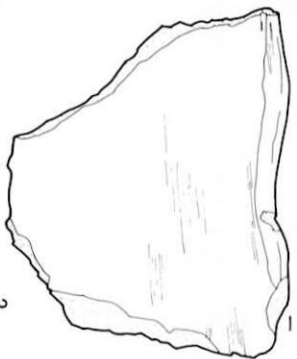
挿図番号	出土場所	形態	観察事項	焼成	混入物	器色
1	試掘ビット12	口縁部 Cd	刷毛目調整後、指頭によってナデ消しを施している。表裏面とも指頭圧痕がみられる。	良好	角閃石 石灰質砂粒 赤色粒	黄褐色
2	K-98 II層 貝集積	ク	口唇部直下に外径1.4cm、内径0.6cmの孔を有する。この孔は焼成後に穿孔されたものである。	良好	赤色粒 石英・長石	表面暗褐色 及び褐色 裏面淡黄褐色
3	L-97 II層	ク	器壁が薄く、作りが丁寧である。部分的に指頭圧痕がみられる。	やや 良好	石灰質砂粒	黄褐色
4	試掘ビット12	ク	№3と同様。	やや 良好	角閃石 石灰質砂粒	表面黒褐色 裏面赤褐色
5	K-99 断面壁より	ク	頸部に弱い稜がみられ、そこから口唇部まで細くすはまる。混入物のため、器面が凹凸になる。	もろい	粗粒石灰質 砂粒	表面茶褐色 裏面淡褐色
6	L-98 貝集積	口縁部 Ce	口径推算39.6cm、形がいびつで楕円形状になる。頸部から胴部に急激に傾く。表面は雑なナデ調整、裏面は横位の荒い刷毛目によって調整される。内面の一部に煤が付着する。	良好	石灰質砂粒 角閃石	表面淡褐色 裏面暗褐色



1



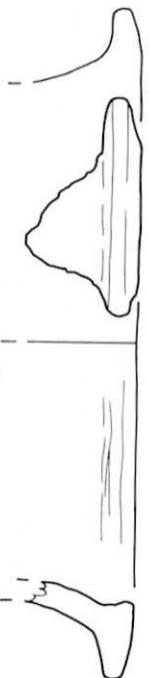
2



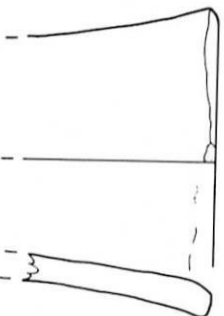
3



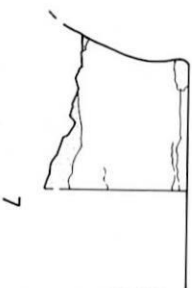
4



5



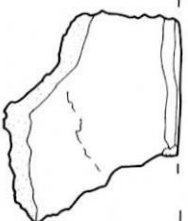
6



7



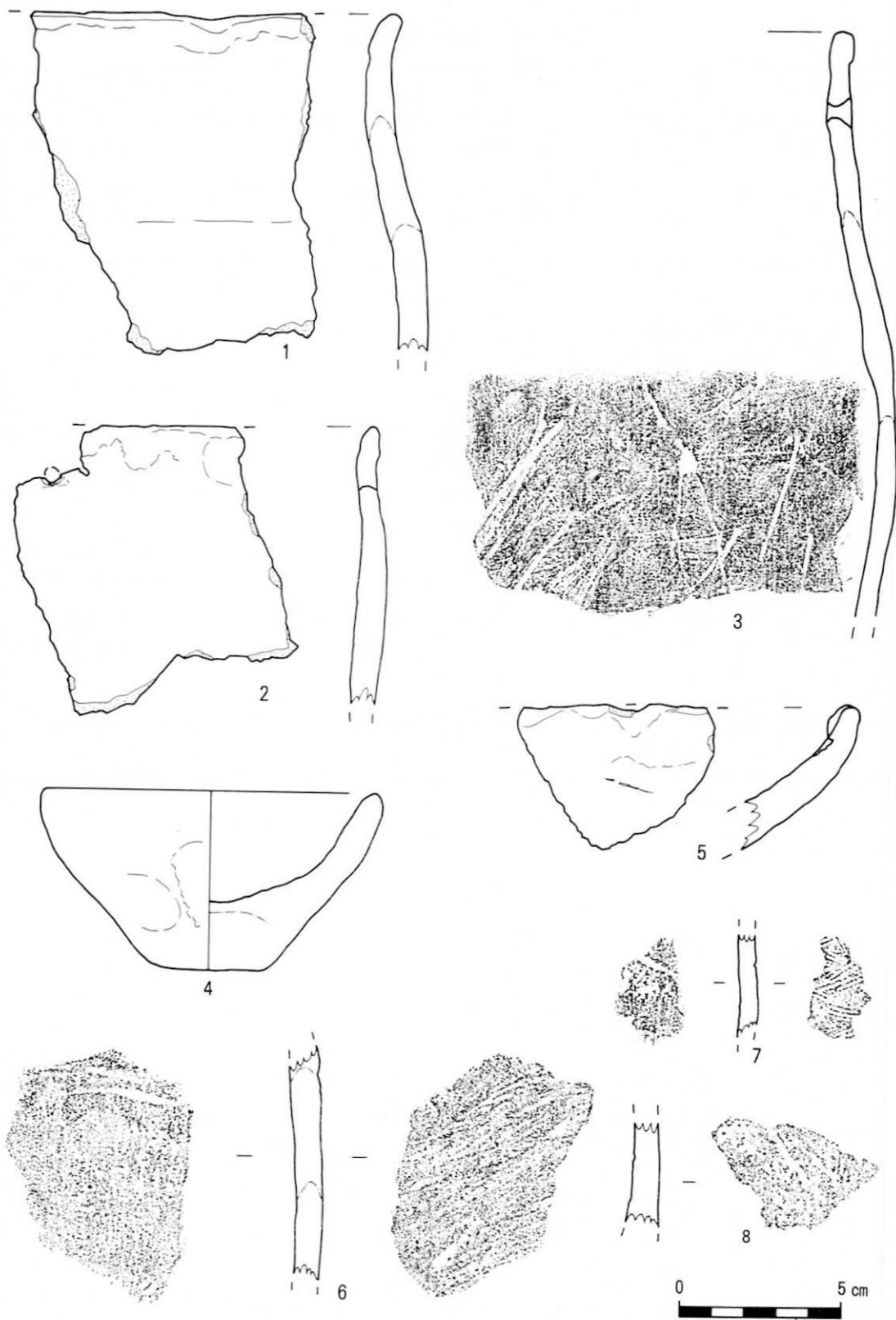
8



第21図 土器(無文口縁)

第21図に対応する観察表

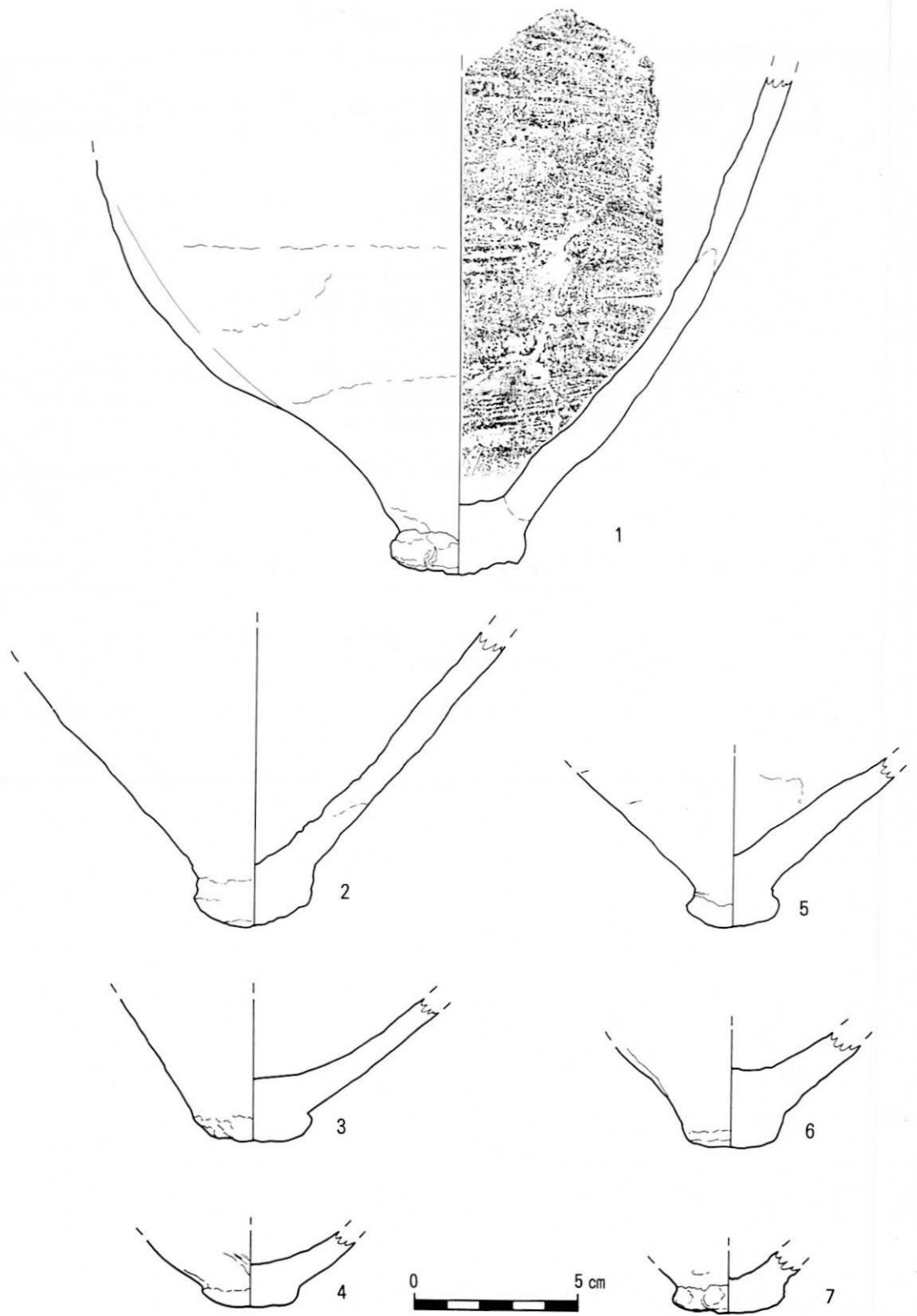
挿図番号	出土場所	形態	観 察 事 項	焼 成	混入物	器 色
1	K-98 II層 貝集積	口縁部 Ce	口径推算14cm。小形の深鉢形で、口縁部の作りが雑である。口唇部直下に小孔を穿つ。焼成後に穿孔されたと思われる。	良 好	石英・長石 石灰質砂粒	表面黒褐色 裏面茶褐色
2	J-100貝集積	ク	口径推算16cm。口唇部の形がいびつである。表面は丁寧なナデ調整が施されるが、裏面はほとんど調整されていない。	やや 良好	石灰質砂粒 角 閃 石	黄褐色
3	M-97攪乱部	ク	口唇部を丸く形成する。表裏面ともに部分的に擦痕がみられる。	良 好	石灰質砂粒	表面褐色 裏面黄褐色
4	L-98貝集積 ケーブルより 西側	口縁部	口唇部分がY字状に分かれている。破損が著しいため、詳細は不明。	良 好	雲 母 石灰質砂粒	暗褐色
5	L-96 II層 北側	口縁部 Dc	口径推算17cmの壺形で、口縁部を逆L字状に成形している。表面はナデ調整が丁寧に施されているが、裏面が剥離した状態となっている。	良 好	石灰質砂粒 角 閃 石 石英・長石	表面黄褐色 裏面褐色
6	K-98 II層 貝集積	ク	口径推算7.8cmで、頸部から口縁に向かって直線的にひらく壺形である。	良 好	角 閃 石 赤 色 粒 石灰質砂粒	表面淡灰褐色、裏面淡黄褐色
7	L-98貝集積 ケーブルより 西側	口縁部 Dd	口径推算6.6cmを測る。口縁が小さくすぼみ、胴部の張る壺形である。	良 好	赤 色 粒 角 閃 石	表面淡茶褐色、裏面暗褐色
8	H-99 II層 80/110	口縁部 De	胴部がわずかにふくらみ、頸部にくびれはみられない。口唇部は外側に粘土が突出し、断面形が三角形を呈する。	良 好	石灰質砂粒 角 閃 石	黄褐色



第 22 図 土器（無文口縁・胴部）

第22図に対応する観察表

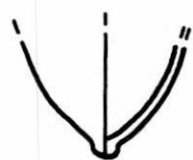
挿図番号	出土場所	形態	観察事項	焼成	混入物	器色
1	K-98 II層 貝集積	口縁部 Cc	口縁部の外反が弱く肩部は緩く屈曲する。最大径は胴部にある。工具による調整後、指頭によってナデ消しがおこなわれる。表面の一部に煤が付着する。	良好	赤色粒 角閃石	表面淡褐色 裏面黄褐色
2	K-98 II層 0/5	口縁部 Cd	口唇部直下に小孔を穿つ。孔は焼成後に穿孔されたと思われる。	良好	石英・長石 角閃石	表面褐色 表面黄褐色
3	L・M-96 II層	＊	復元可能な資料。口唇部直下に小孔を穿つ。焼成後、穿孔されたと思われる。表面は指ナデ、裏面は胴部より下の面に斜位の刷毛目痕がみられる。器面の手触りがザラザラして胎土がもろい。	もろい	石灰質砂粒 角閃石	黒褐色部分的に 茶褐色
4	K-99貝集積	口縁部 CdH	復元可能な資料で、口縁部から底部まで残存する唯一のものである。口径推算10.6cmの鉢形で、底面が2.1cmと厚く、底部から口縁まで直線的である。重量感のある土器である。	良好	石灰質砂粒 赤色粒	黄褐色、部分的に 黒褐色
5	L-97貝集積	口縁部 Ce	Na4と類似の器形である。口唇部の作りが雑で、形がいびつである。	良好	石灰質砂粒	淡黄褐色 部分的に黒褐色
6	試掘ビット12	胴部	表面は全体的に指ナデだが、胴上部面に棒状工具による横線がみられる。裏面は細かい擦痕が斜め方向にはしる。	良好	千枚岩 石灰質砂粒	表面褐色 裏面灰褐色
7	試掘ビット13	＊	表面に横位の細沈線がみられるが、文様か調整痕か不明。裏面は斜めの刷毛目痕が顕著に残る。器壁がとても薄い。	良好	角閃石 赤色粒	黒褐色
8	試掘ビット12	＊	底部付近の資料である。裏面に工具による調整痕が顕著に残る。	良好	千枚岩 赤色粒 石灰質砂粒	黄褐色



第 23 図 土 器 (底 部)

第23図に対応する観察表

挿図番号	出土場所	形態	観察事項	焼成	混入物	器色
1	J・K-100 貝集積	底部 E	底径4.1cmを測る。全体的に形がいびつで底部から胴部へ膨らみをもって立ち上がる部分と、直線的に立ち上がる面がある。底面にあらい棒状の痕がみられる。裏面に刷毛目痕が顕著にみられるが、表面にはみられない。底面の厚さ2.1cmを測る。	良好	赤色粒 石英・長石	黄褐色、裏面の部分的に黒褐色
2	J-100 貝集積 周辺の白砂	ク	底径3.6cm。底面の厚さ1.9cmを測る。底部から胴部へ直線的に立ち上がる。表面は細かいポーラス状を呈し、裏面は器面が剥離し凹凸がある。	もろい	角閃石 石灰質砂粒	表面黄褐色 裏面赤褐色
3	L-98 貝集積 ケールより 西側	ク	底径3.6cmで底面の厚さは2cmを測る。乳房の部分は作りが雑だが、内底面あたりは平底状に平らになり、丁寧なナデが施されている。	良好	石灰質砂粒	淡黄褐色 部分的に黒褐色
4	M-95 II層	ク	底径2.9cm。底面1.3cmを測る。No.1～3に比べ、乳房の部分が小さく作りも丁寧である。裏面の一部の器面が剥離している。	やや 良好	石灰質砂粒	淡褐色
5	H-99 II層 20/50	ク	底径2.8cmを測り、乳房部分はやや楕円形を呈する。乳房のくびれがはっきり残る。表裏面ともナデ調整が丁寧に施されるが、裏面の一部は剥離する。	やや 良好	石灰質砂粒 角閃石	褐色
6	K-100 貝集積	ク	底径2.9cm、底面の厚さは2.4cmを測る。乳房部分は調整が丁寧だが、表裏面は雑なナデが施される。	良好	石英・長石 石灰質砂粒	表面黄褐色 裏面淡茶褐色
7	L-96 II層	ク	乳房の部分で底径は3.4cmを測る。内底面は丸底状を呈する。	やや 良好	赤色粒 石灰質砂粒	黄褐色



E. 乳房状尖底



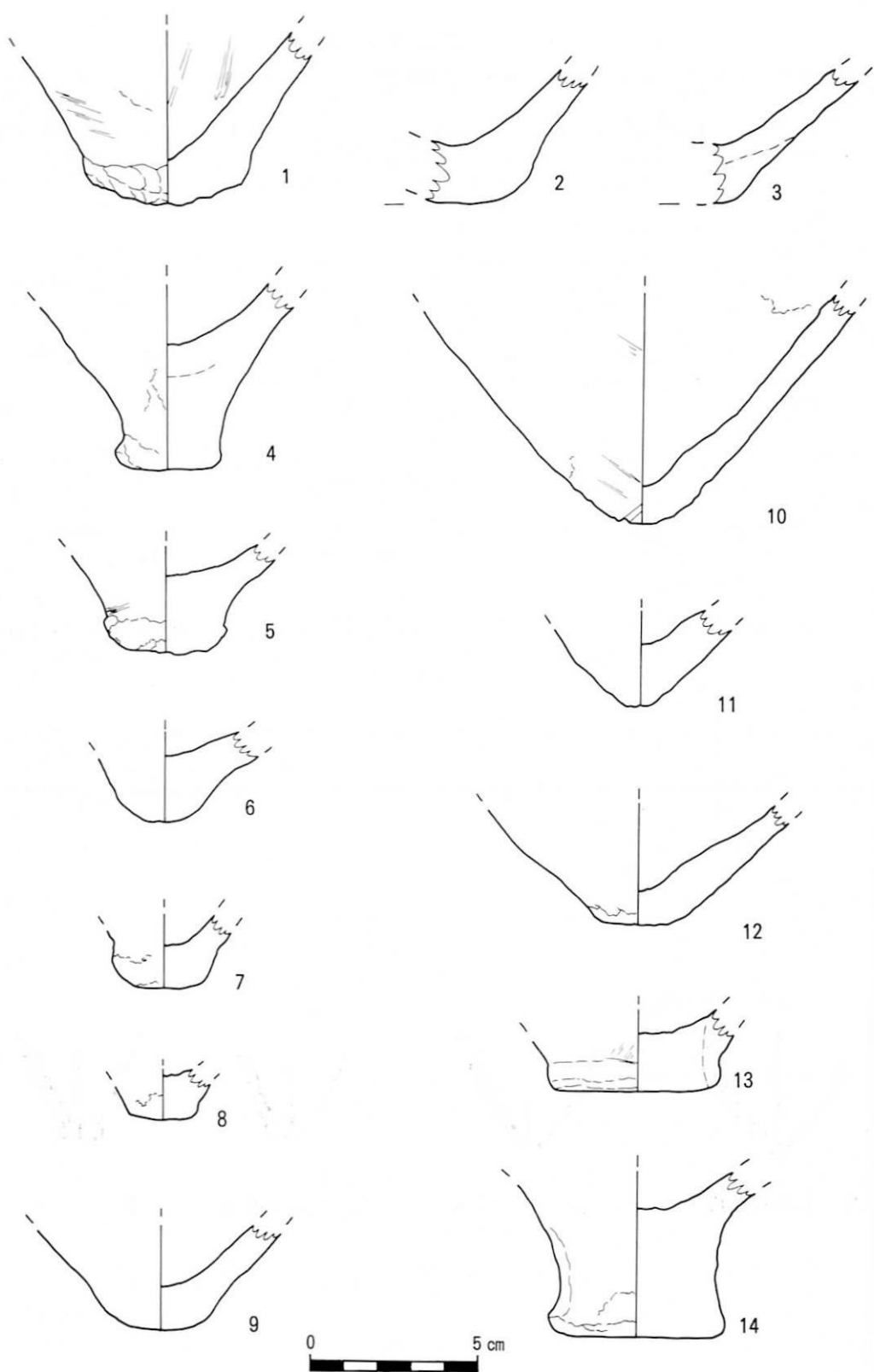
F. 尖底



G. 平底



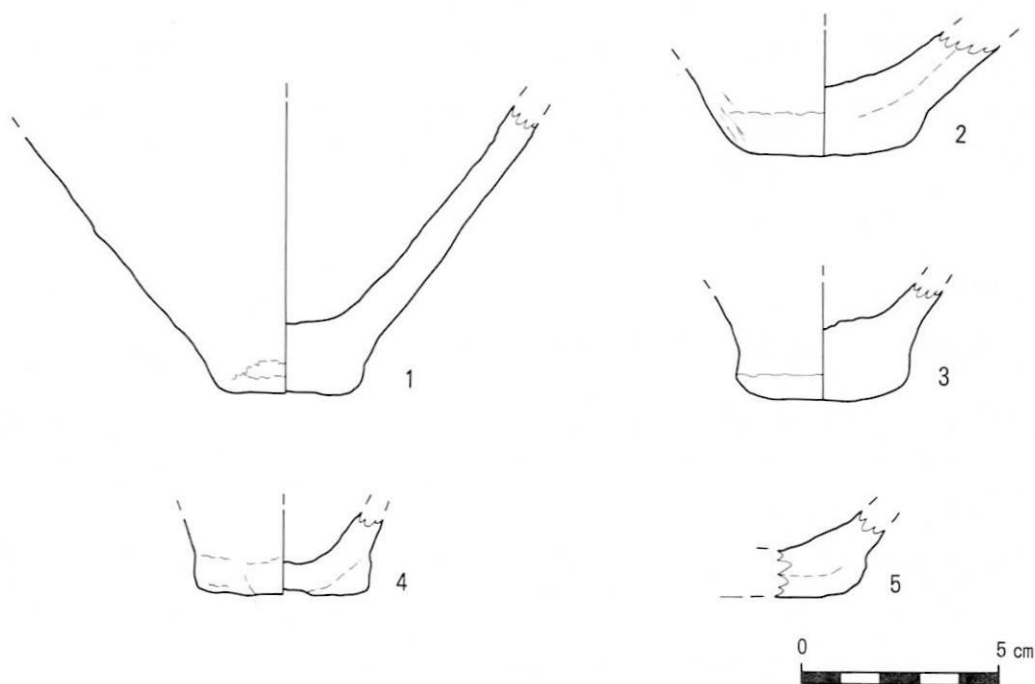
H. くびれ平底



第24图 土器(底部)

第24図に対応する観察表

挿図番号	出土場所	形態	観察事項	焼成	混入物	器色
1	I-102 I層西側	底部E	底径推算4.9cmとやや大きめの乳房状尖底となる。底の部分の器面がはがれたような状態で、凹凸がみられる。裏面に棒状工具での調整痕が残る。	良好	石英・長石粗粒	黄褐色
2	L-98 貝集積 ケーブルより 西側	ク	乳房部分が大きく、平底的にみえる。	良好	石灰質砂粒 赤色粒	赤褐色
3	表採	ク	丸底に粘土塊をつけ、ひきのばして乳房の形を作る。	やや 良好	石灰質砂粒 角閃石	表面黄褐色 裏面暗褐色
4	L-98 貝集積 ケーブルより 西側	ク	底の厚さが3.7cmもある資料で、底径は3.1cmを測る。No.3と同様丸底に粘土塊を貼付して作られたものである。	良好	赤色粒 角閃石	表面黄褐色 裏面黒褐色
5	K-98 II層 貝集積	ク	底径3.6cmで、底面は2.2cmを測る。乳房部分の作りが雑で凹凸がめだつ。内底面はきれいな丸底状になっている。	良好	石灰質砂粒	表面淡灰褐色、裏面淡褐色
6	I-97 II層 (攪乱) 35/55	ク	丸底にみえるが表面に薄く粘土塊をつけて、広げたような跡がみられる。	良好	赤色粒 角閃石	黄褐色
7	M-95 II層	ク	底径2.9cmを測る乳房状尖底で、作りが丁寧な資料である。内底面は尖底状になる。	良好	石灰質砂粒 角閃石微量	表面黄褐色 裏面黒褐色
8	H-108 II層 20/30	ク	底径2.1cmを測る。出土した資料の中で、最も小さい乳房状である。	良好	角閃石 石灰質砂粒	赤褐色
9	J-102 II層	ク	丸底に近いが、粘土塊をつけてのばしたような跡がみられる。	もろい	石灰質砂粒	黄褐色
10	J・K-100 I層	底部F	内底面は指によって押しつけられ窪みができる。その上面からは部分的に工具によって調整される。底面の厚さは1.1cmと薄めである。	良好	赤色粒 角閃石	表面淡褐色 裏面黒褐色
11	J-100 II層 南側	ク	底面の厚さは1.8cmを測る。残存部をみた限り、器面はナデ調整のみ観察される。	良好	石灰質砂粒 赤色粒	表面淡褐色 裏面黒褐色
12	L-97 貝集積 25/30	ク	底部から胴部へほぼ直線的にのびる。内底面に指頭による窪みが顕著に残る。表面の底面がはがれた状態となる。	良好	石灰質砂粒	淡褐色、部分的に黒褐色
13	K-98 貝集積下	底部G	底径5.2cm、底面の厚さ3.8cmの大きめの底部で、器壁に比べてかなり厚みを有する。	良好	石灰質砂粒 石英・長石 角閃石	表面褐色 裏面黒褐色
14	K-98 II層 貝集積	ク	底径5.1cm。粘土で円盤状の台を作り、その周辺に粘土を張り付け底部を成形する。底面の厚さ1.7cmを測る	良好	石英・長石 角閃石 赤色粒	表面黄褐色 裏面褐色



第25図 土器(底部)

第25図に対応する観察表

挿図番号	出土場所	形態	観察事項	焼成	混入物	器色
1	K-98 II層 0/5	底部H	底径4cmの径の小さい平底である。内底面は成形時に押さえつけられた指の跡が残り、丸底状となる。指頭による窪みの上部はヘラ状工具によって調整される。表面はほとんどが指ナデ調整。	やや 良好	石灰質砂粒 石英・長石	表面褐色 裏面黒褐色
2	L-98貝集積	ク	底径推算5cm。底面の厚さは1.8cmを測る。円盤状の粘土塊にさらに粘土を加えて成形する。部分的にその接合部が消えきらずに残る。重量感のある資料である。	良好	赤色粒 石灰質砂粒	黒褐色
3	H-100 I層	ク	底径4.4cmを測る。表面は丁寧なナデ調整によって成形されているが、裏面は凹凸がいちじるしい。	良好	千枚岩 石英・長石 石灰質砂粒	表面黄褐色 裏面黒褐色
4	I-98 II層 5/40	ク	底径推算4.4cmを測る。丸底に粘土紐を巻き付けて成形する。底面中央に工具で押しつけたような窪み跡が残る。	良好	石灰質砂粒 角閃石	暗褐色
5	M-96 II層 南西隅	ク	成形時の接合部が器面調整されておらず、表面に接合痕が残る。底面の厚さ1.1cmを測る。	良好	赤色粒 角閃石 石灰質砂粒	淡黄褐色

(4) 貝製品

貝製品は総数112点検出された。その中で実測可能な資料109点を上げる。これらの資料の分類内訳は、第3表の通りである。

用途別に約8種類の貝製品に分類したが、二枚貝有孔製品以外は数が少なく、破損もいちじるしい資料が多い。

イ. ホラガイ有孔製品……2点のみの出土である。いずれの資料も、体層部に2個の粗孔がほぼ同じ位置にあるという共通点がある。これらの製品は一般的に民俗事例などから湯沸かし器として考えられているが、本製品2点とも、火を受けた痕はみられないことより、別の用途があった可能性がある。

ロ. ヤコウガイ製品……半製品あるいは破損品のため、全体形は不明だが、一般的に貝匙といわれている製品の範疇に入るものである。1点は有孔で、形状をみると貝匙の範疇に入るか疑問であるが、破損品で原形が不明なため、この項に含めた。

ハ. ヤコウガイ蓋製品……3点の出土。ヤコウガイの蓋の薄い側縁部に剥離痕が認められるもので、一般的に貝刀、ヤコウガイ蓋製スクレイパー、貝刃、貝斧などのいくつかの名称でよばれている製品である。備瀬貝塚や宇佐浜貝塚、具志堅貝塚においては、用途や使用の際の使用痕が見受けられないことより、剥離は製作時のものではなく、使用痕であると判断し「搔器」とするよりも「敲打器」として、「螺蓋製敲打品」と名付けている。本貝塚出土の製品も同様、使用の際の痕跡が認められず、また、出土量が3点のみで、使用状況、破損形態などの平均値を求めることができないため、「ヤコウガイ蓋製品」と名称を付した。

ニ. 二枚貝有孔製品……貝製品の中で出土量が最も多い製品である。貝種はヌノメガイ、チョウセンハマグリ、シレナシジミ、メンガイ、シャコガイ、カワラガイ、リュウキュウサルボウガイなどで、これらの二枚貝の一部に粗孔を穿っている。

二枚貝の製品は民俗事例などで、貝錘（網のおもり）として知られている。

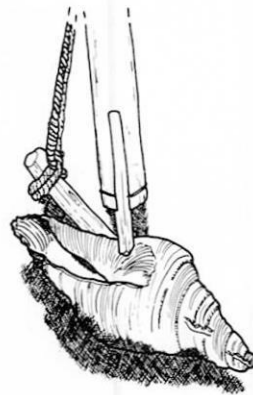
- ホ. 貝輪……全形をうかがえる資料は1点のみで、それ以外はすべて破損品である。また、第37図及び第38図（5は省く）の資料は製作途中のものと思われ、製作過程の一端をうかがい知ることができるものであるため、あえてこの項に含めた。
- へ. タカラガイ製品……1点のみの出土である。タカラガイの背面部を除去した製品である。この種の製品も民俗事例から貝錘（網のおもり）として知られているが、出土量が少ないため、用途は断定できない。
- ト. イモガイ製ビーズ……イモガイの螺塔部を利用するもので、3点出土している。
- チ. 巻貝有孔製品……第36図5のホシダカラを素材としたもので、粗孔以外の加工痕は認められない。貝の模様が薄く残る。第38図5も貝の模様がうっすらと残る。貝種はクロフモドキと思われる。貝の肩部の一部を取り除いた資料で、貝輪か貝札を製作する途中の可能性もある。第39図及び第40図のゴホウラ製有孔製品については、多くの遺跡において出土例が知られている。
- リ. 用途不明品……第27図2・5、第28図1～3の4点で、それぞれ1点ずつの出土である。
第27図2はクロチョウガイ科の貝を短冊型に加工したものであるが、破損が著しいため、詳細は不明。同図5は、イモガイを利用してスプーン状に加工したものである。第28図1はイトマキボラを素材とし、体層部に2個の小孔を穿つ。同図2も同様、1個の小孔が穿孔されるスイショウガイである。同図3は、マクラガイ科あるいはイモガイ科の体層部を利用したスプーン状の製品で、出土例も少なく、用途不明である。

第3表 貝製品トレンチ別出土状況

出土場所 製品分類	H ト レン チ	I ト レン チ	Jトレンチ		Kトレンチ		Lトレンチ		M ト レン チ	不 明	小 計	試掘ピット		合 計
			包含部	攪乱部	包含部	攪乱部	包含部	攪乱部				12	13	
(イ)ホラガイ有孔製品										2	2			2
(ロ)ヤコウガイ製品	1				4			1			6			6
(ハ)ヤコウガイ蓋製品	1					1	1				3			3
(ニ)二枚貝有孔製品	13	16	7	6	13	1	5		2	4	67	1	1	69
(ホ)貝 輪	1	4	3	1	1		1			1	12			12
(ヘ)タカラガイ製品				1							1			1
(ト)イモガイ製ビーズ	1				1				1		3			3
(チ)巻貝有孔製品	1		1					4		1	7	1		8
(リ)用途不明品	3				2						5			5
合 計	21	20	11	8	21	2	11	1	3	8	106	2	1	109

第26図に対応する観察表

挿図 番号	出土場所	貝種	分類	観 察 事 項	縦×横 cm	孔 径 cm	重量 g
1	不 明	ホラガイ	(イ)	腹部の孔は大きめで、若干摩耗する。背面の孔は同図2と同様に穿孔されていたと思われる。	29.7×11.7	腹部 3.6×4.2	350
2	不 明	ホラガイ	(イ)	同図1に比べ腹部の孔は小さい。	27.3×10.5	腹部2×2.2 背面10.3× 8.2	475

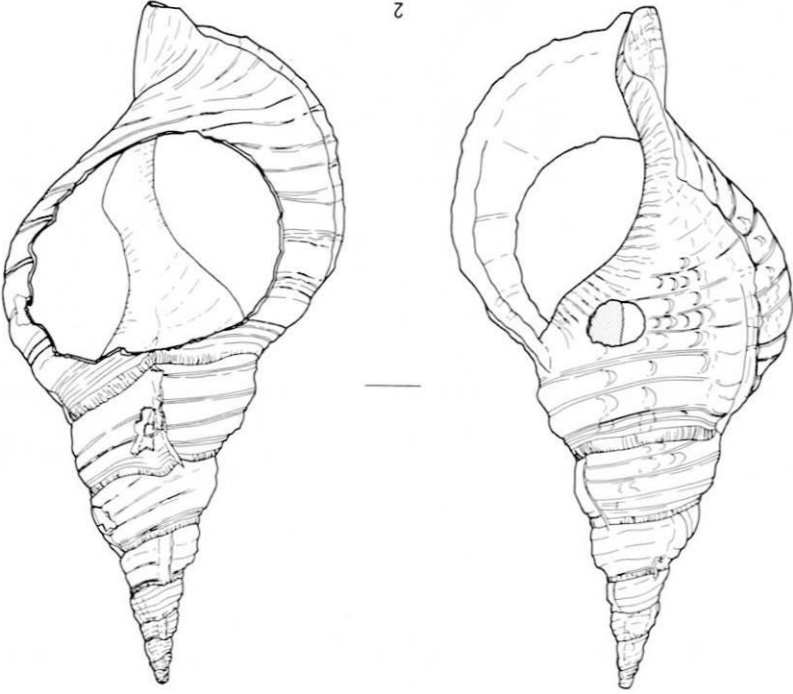


民俗事例「湯沸かし器」

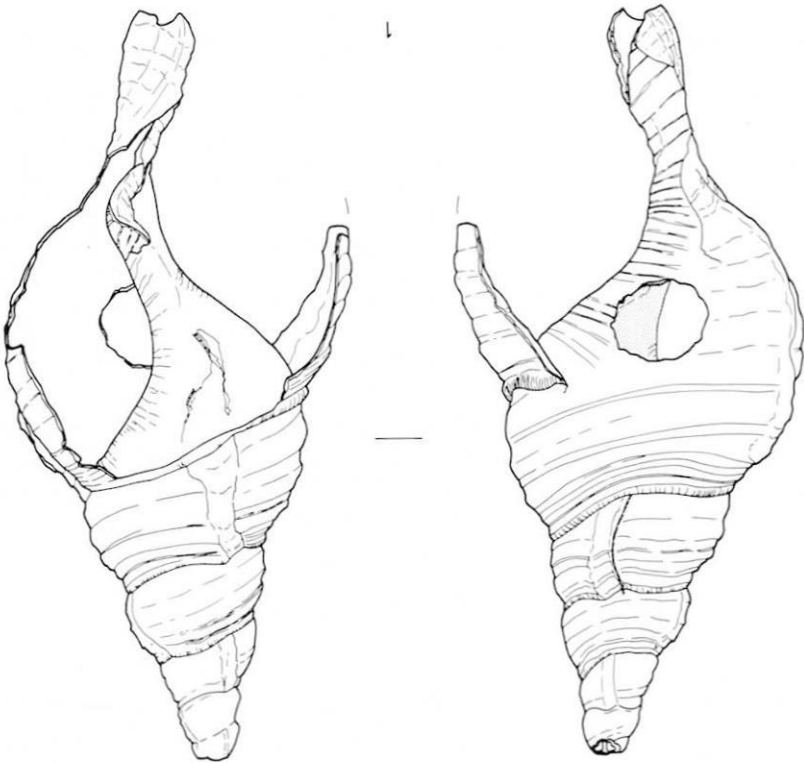
第26图 贝製品

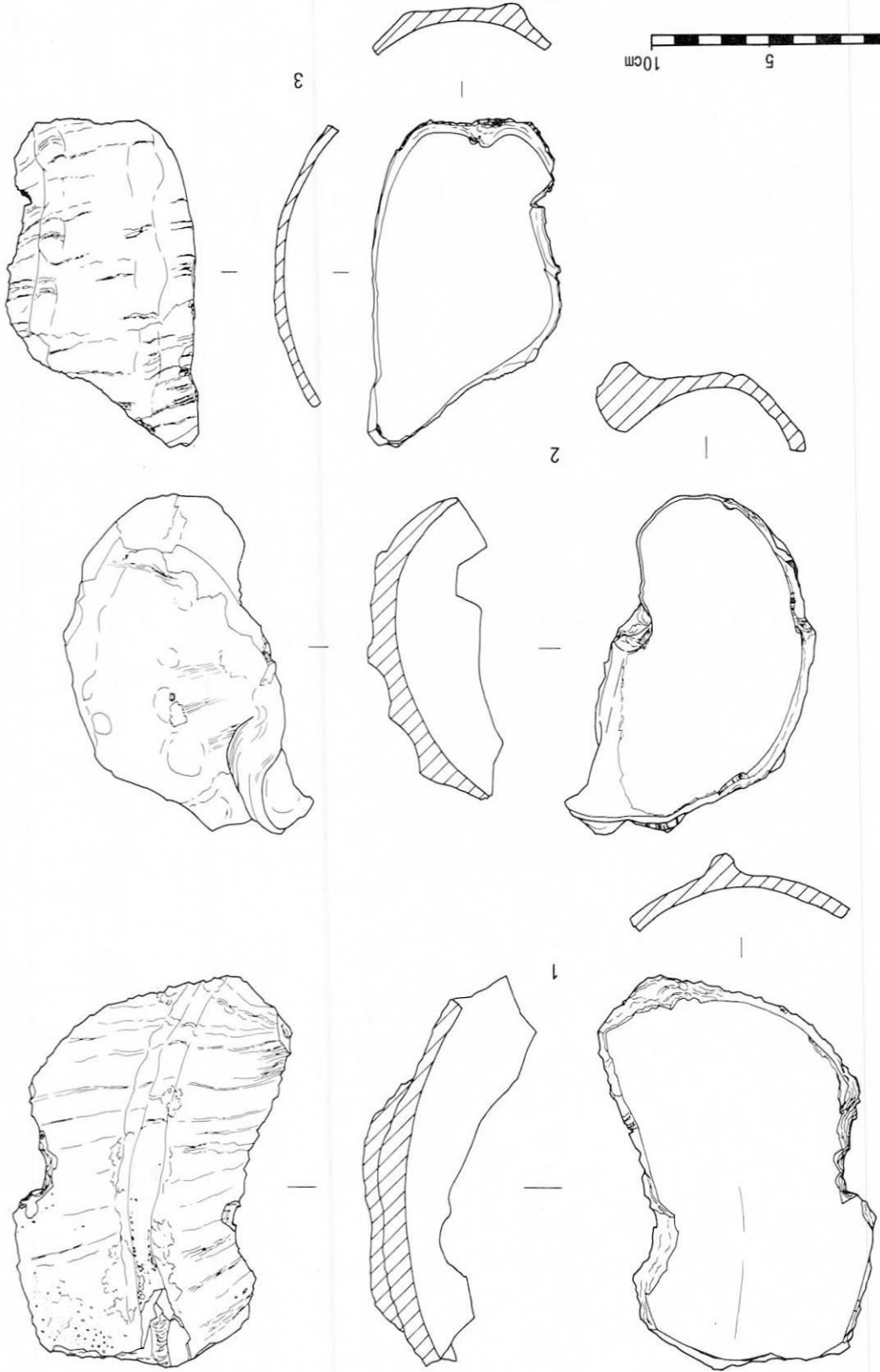


2



1





第28図 貝製品



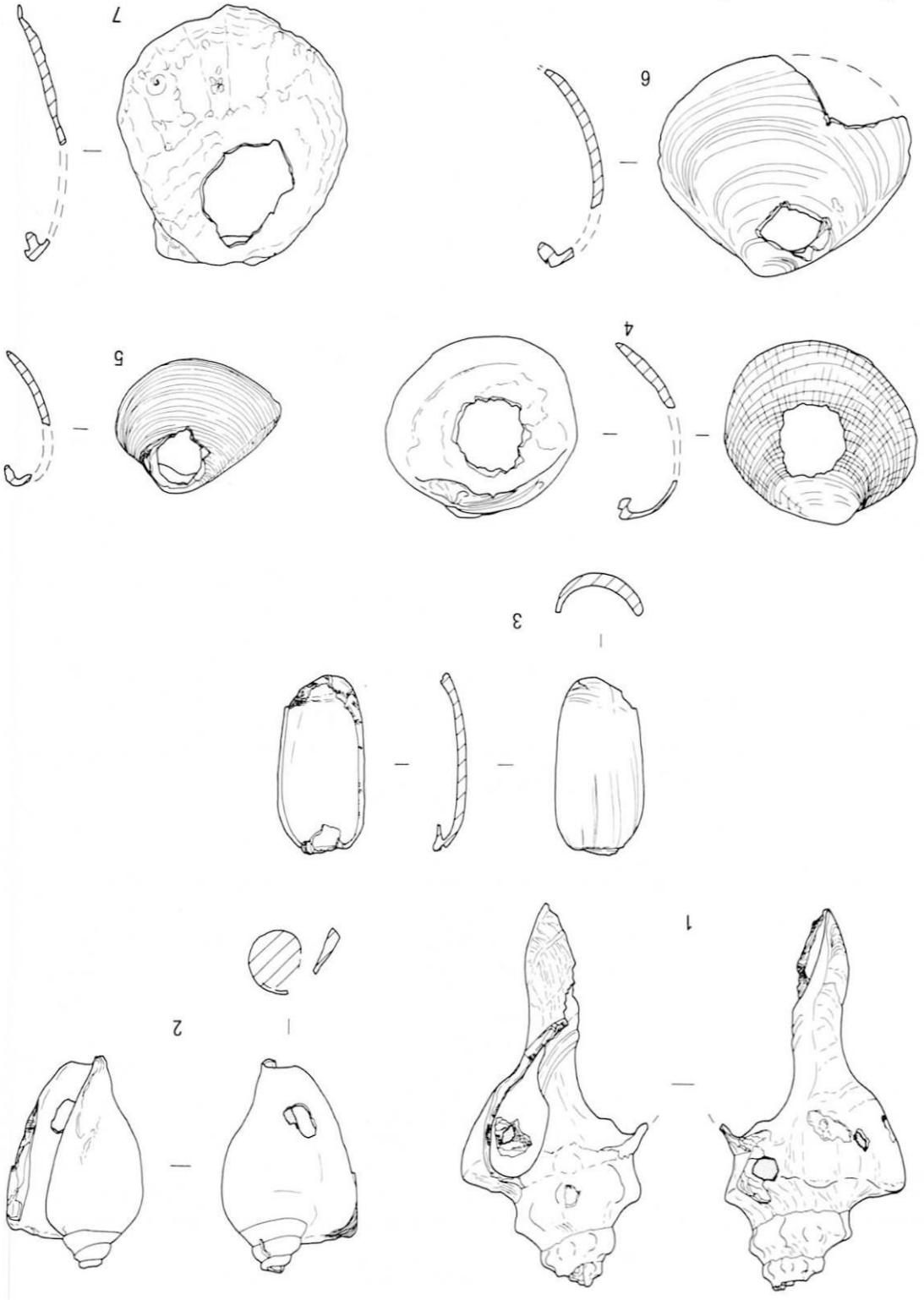
第27図に対応する観察表

挿図 番号	出土場所	貝種	分類	観 察 事 項	縦×横 cm	重量 g
1	K-99 貝集積	ヤコウガイ	(ロ)	ヤコウガイの体層部を利用した匙状の製品。平面形は長方形に近い整形がなされ、左右対象ではないが、両側に弱い抉りが施される。全体的に粗く切り取った状態だが、周縁部上部の一部に研磨面が存在する。	10.8×6.4	82
2	K-100 Ⅲ層	ヤコウガイ	ク	ヤコウガイの殻口附近を利用したもので、軸唇の一部が残る。研磨面はみられず、粗く切り取った状態だが、部分的に摩耗している。	10.1×6.1	100
3	K-98 貝集積下 Ⅲ層	ヤコウガイ	ク	ヤコウガイの体層部を利用する。周縁部右側及び上部に研磨面が残るが、左側にはみられない。結節部をみると、同図1・2に比べ小型の貝を使用している。	9.7×5.5	46

第28図に対応する観察表

挿図 番号	出土場所	貝種	分類	観 察 事 項	縦×横 cm	孔 径 cm	重量 g
1	K貝集積	ヤコウガイ	(ロ)	ヤコウガイの体層部を利用する。平面形は長方形を呈する。周縁部の右側及び下部に研磨面がみられる。背面の肋の部分の瘤が若干すられたような状態となっている。	9.5×4.5	—	40
2	K-100 貝集積白砂	不 明	(リ)	短冊形に加工された資料である。	12.6×4.3	—	45
3	L列ケーブ ル露出部分	ヤコウガイ	(ロ)	側面及び肋部分の瘤の部分に研磨痕がみられる。外皮のほとんどが剥がれ、貝の内側が露出し、光沢がみられる。	4.4×3.1	—	5
4	H-99 I層 20/30	ヤコウガイ	ク	平面形が方形を呈する。匙というよりも札の形に近い形状をなす。中央上部に小孔を穿ち、周縁部上面は抉りのような加工部がみられる。柄になるのかは不明。周縁部左側に研磨が施される。全面の外皮がはがれ、光沢を有する。	5.1×4	外径 1×0.8 内径 0.6×0.4	9
5	H-104 I層	スイショ ウガイ科	(リ)	貝殻の自然の窪みを利用して、スプーン状に加工した製品。貝の水管溝部分がつまめるような状態で残る。周縁部左側に研磨痕が残る。	7×4.1	—	25
6	H-107 II層 70	ヤコウガイ の蓋	(ハ)	周縁部の3箇所には剥離がみられるが、一部は摩耗し、打撃を受けた時期が変わるものと思われる。	8.2×7.5	—	175
7	L-97 貝集積	ク	ク	周縁部の1箇所にちょっとした剥離が認められるだけで、ほとんど原形を保持している。	6.3×6	—	84
8	K-98 I層 0/10	ク	ク	使用部分が多く、一部を残して周縁部のほとんどの部分に剥離がみられる。	6.1×5.4	—	69

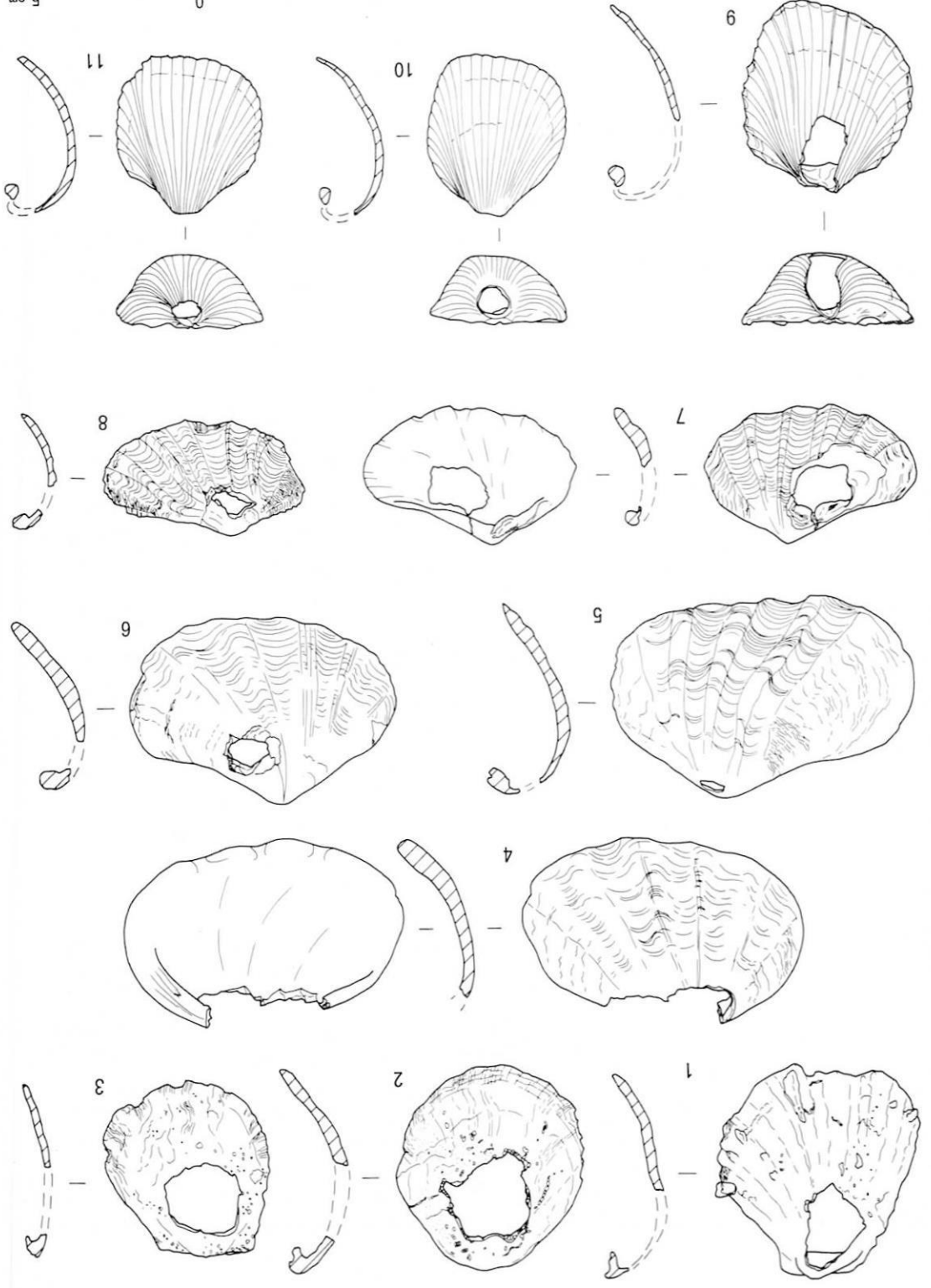
第29圖 貝製品



第29図に対応する観察表

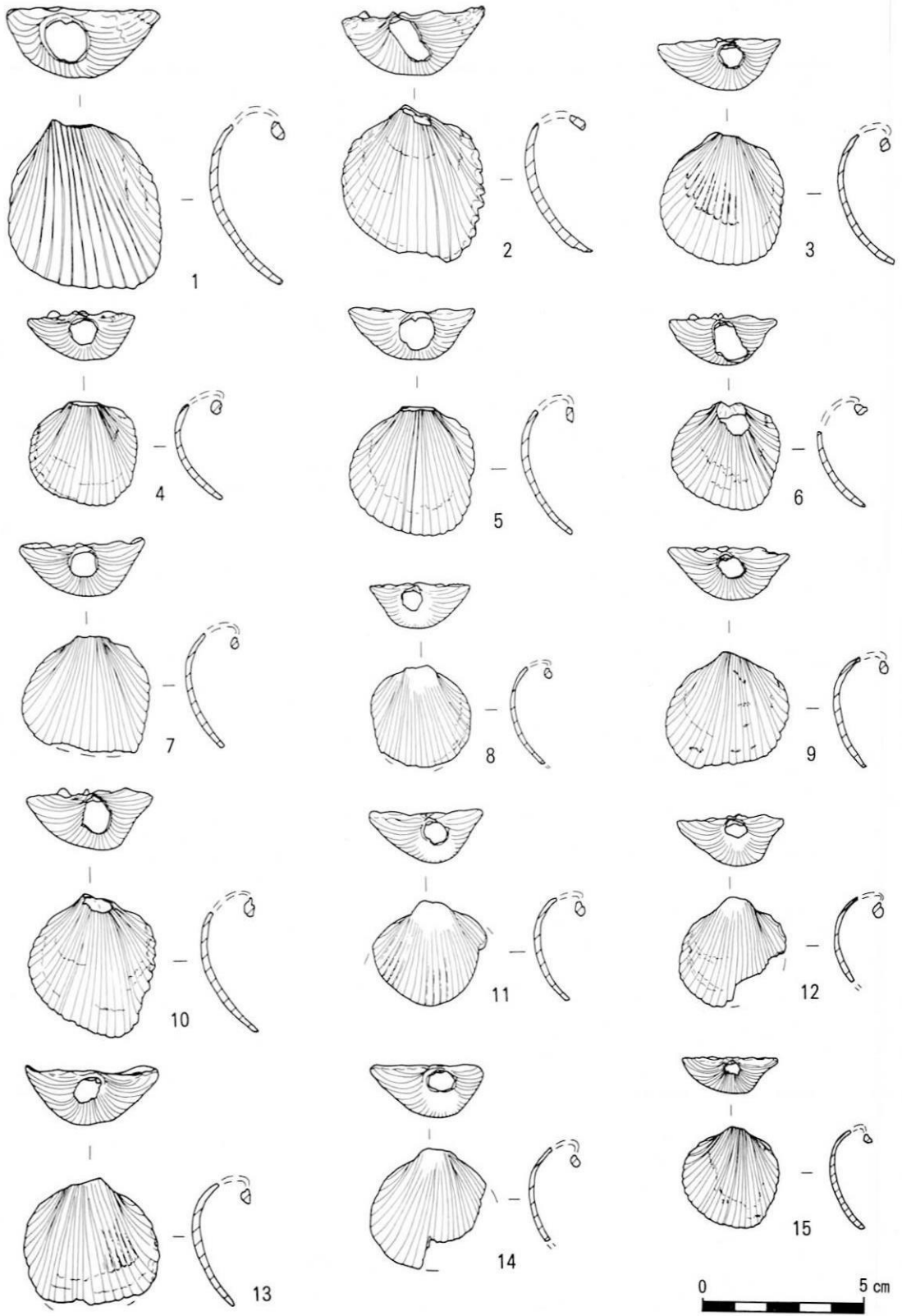
挿図 番号	出土場所	貝種	分類	観 察 事 項	縦×横 cm	孔 径 cm	重量 g
1	K-99 北側 II層	イトマキ ボラ	(リ)	貝の原形をほとんどとどめている製品。殻口及び殻頂部分が破損し、体層部の2箇所に粗孔を穿つ。用途は判然としない。	11.4×5.4	0.9×0.7 0.7×0.4	75
2	H-98・99 ためし掘り	サザナミ スイショウ ガイ	ク	外唇附近に粗孔を穿つ。小孔以外は加工痕はみられない。内側からの穿孔である。	6.3×4	1×0.9	26
3	H-104 I層北東隅	マクラガ イ科カイ モガイ科	ク	円筒形の形状を利用し、体層部を縦割りにしてスプーン状に形成している。肩部及び内部の軸の部分が若干残る。	5.3×2.6	—	10
4	K-100 貝集積白砂	ヌノメガイ	(ニ) 右殻	背面中央部に外側から穿孔される。他に加工痕はみられない。	5.5×5.7	1.5×2.2	19
5	不 明	チョウセン ハマグリ	ク 左殻	殻頂付近に内側から穿孔する。他の加工痕なし。	4.5×4.9	1.6×1.3	8
6	K-98 II層貝集積	シレナシ ジミ	(ニ)	背面上部にやや左よりに粗孔を穿つ。内側からの穿孔。腹縁の一部が破損する。	6.6×7.5	1.3×1.9	25
7	J-103 北側攪乱部 と白砂の境 目	ウミギク ガイ科	ク	背面上部にやや大きめの孔を穿つ。孔はやや左寄り、全体的に摩耗する。	7.7×6.9	3×2.6	27

第30圖 貝製品



第30図に対応する観察表

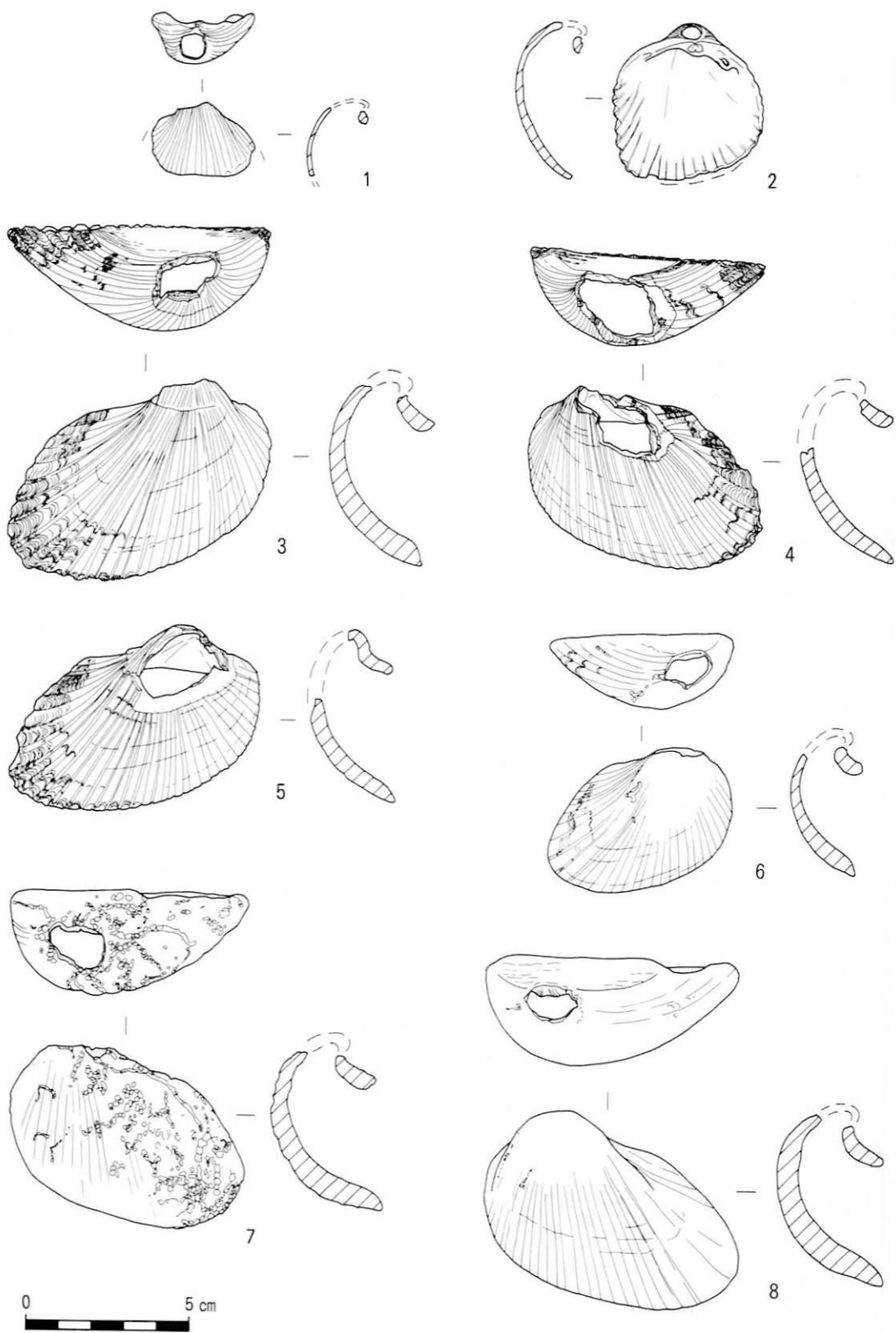
挿 図 番 号	出土場所	貝種	分類	観 察 事 項	縦×横 cm	孔 径 cm	重量 g
1	L-98 II層	ウミギク ガイ科	(ニ)	背面上部にやや大きめの粗孔を穿つ。孔は数回にわたって穿孔される	8.5×6	2.6×1.7	19
2	H-101 I層 砂利まじり	〃	〃	背面の上部3分の2に粗孔を穿つ。貝は全体的に風化している。	6.2×5.6	2.3×2.4	18.5
3	J-97 II層 攪乱部	〃	〃	No.2と同様。	5.3×5	2.1×2.1	9
4	I-108 II層 45/60	シャコガ イ科	(ニ) 左殻	外側から穿孔する際に、殻頂部は欠損したと思われる。貝は摩耗がいちじるしい。	4.9×8.4	—	41.5
5	I-101 貝集積	〃	〃	殻頂部に小孔を穿つ。一部を残して放射肋や成長脈が摩耗し、薄くなる。孔は外側からの打撃による穿孔。	5.9×9.2	0.7×0.9	51
6	I-108 II層 70/100	〃	〃 右殻	背面上部の孔は後方より穿孔されている。内側からの打撃によって穿孔される。全体的に摩耗する。	5.7×8.1	0.8×1.25	38
7	L-97 II層	〃	〃 左殻	後方よりの背面部にやや大きめの孔が穿たれる。内側からの穿孔で、孔部は摩耗している幼貝。	4.1×6.4	1.1×1.6	11
8	I-106 II層 40/60	〃	〃 右殻	内側からの打撃によって背面部に穿孔される。孔部の割れ口がするどく、雑である。幼貝。	3.5×6.1	0.6×1.2	10.5
9	I-105 南側 II層 0/30	カワラガイ	〃	殻頂部から背面に向かって楕円形状の孔を穿つ。孔部及び腹縁の一部が若干摩耗する。	5.8×5.1	2.3×1	19.5
10	K-99 II層 貝集積	〃	〃	殻頂部に円形の小孔を穿つ。全体的に摩耗する。	4.9×4.2	0.8×0.9	14
11	K-98 貝集積周辺 南西側	〃	〃	殻頂部に円形の小孔を穿つが、No.10より若干雑な穿孔である。	4.7×4.3	0.8×0.9	13.5



第31図 貝製品

第31図に対応する観察表

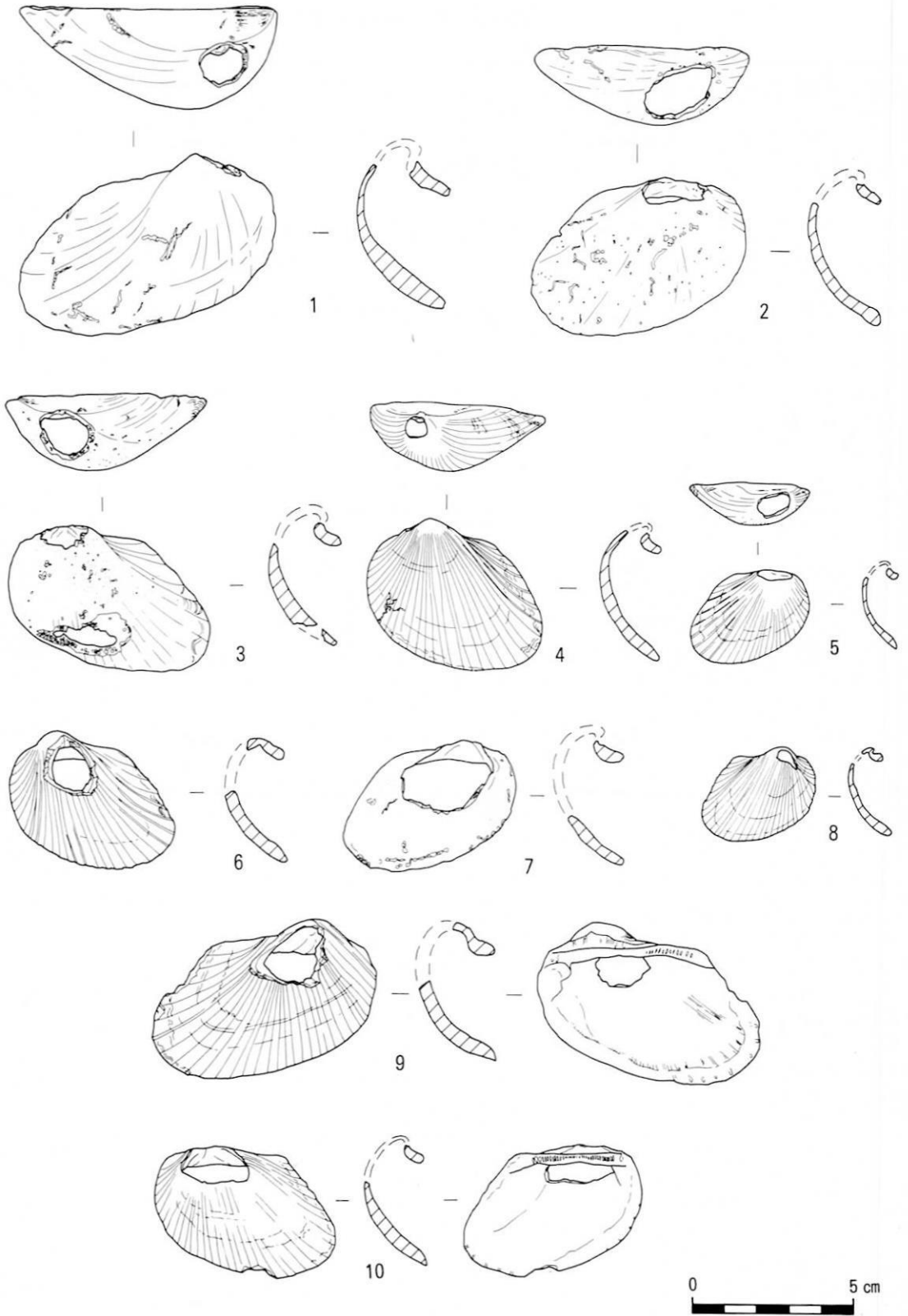
挿図 番号	出土場所	貝種	分類	観 察 事 項	縦×横 cm	孔 径 cm	重量 g
1	K-99 貝集積	カワラガイ	(二) 右殻	殻頂部にほぼ円形の孔を穿つ。全体的に摩耗する。	5.1×4.5	1.5×1.2	20
2	K-99 II層	ク	ク	殻頂部に楕円形の小孔が内側からの打撃によって穿たれる。腹縁部の一部が破損する。	4.5×4.4	1.5×0.8	11
3	J-102・103 東側攪乱部	ク	ク	殻頂部に円形の孔を穿つ。腹縁部が摩耗する。	4.1×3.3	0.9×0.8	7.5
4	J-97 II層 攪乱部	ク	ク	ク 腹縁部の一部が破損する。	3.3×3.3	0.9×0.8	5
5	I-101 20/40	ク	ク	殻頂部にやや大きめの円形の小孔を穿つ。腹縁部が摩耗する。	3.9×3.8	1.1×1	8
6	M-96 II層	ク	ク	殻頂部から背面部に向かって、形のくずれた楕円形状の粗孔を穿つ。腹縁部が摩耗する。	3.4×3.3	1.6×0.9	5
7	J-98 みぞ掘り	ク	ク	殻頂部に方形状の孔を穿つ。腹縁部が摩耗し、一部破損する。	3.6×3.9	0.9×0.8	7.5
8	ク	ク	ク 左殻	殻頂部に円形の粗孔を穿つ。腹縁部が摩耗し、一部破損する。孔周辺の放射肋が消えている。	3.6×3	0.7×0.6	4
9	L-98	ク	ク 右殻	殻頂部に小孔を穿つ。腹縁部が摩耗し、一部破損する。	3.1×3.7	0.9×0.7	7.5
10	M-97 貝集積	ク	ク	殻頂部に楕円形の孔を穿つ。後方の腹縁部のみ若干、摩耗がみられる。	4.4×3.9	1.4×0.9	8
11	I-100 I層 0/20	ク	ク	殻頂部に楕円形の小孔を穿つ。腹縁部が大きく破損し、貝全体が摩耗する。孔周辺の放射肋は消える。	3.2×3.5	0.8×0.7	6
12	J-102・103 東側攪乱部	ク	ク	殻頂部に小さな粗孔を穿つ。孔周辺の放射肋が消え、腹縁部が摩耗する。前方の一部が破損する。	3.4×3.3	0.8×0.6	4.5
13	H-99 II層 20/50	ク	ク 左殻	殻頂部にやや楕円形の小孔を穿つ。腹縁部が一部破損している上に、摩耗している。	3.4×4.1	1×0.7	10
14	不 明	ク	ク 右殻	ク	3.7×3.4	0.7×0.9	6.5
15	試掘ピット 12	ク	ク	殻頂部に小さな粗孔を穿つ。腹縁部は若干摩耗する。	3.1×2.9	0.5×0.5	3.5



第32図 貝製品

第32図に対応する観察表

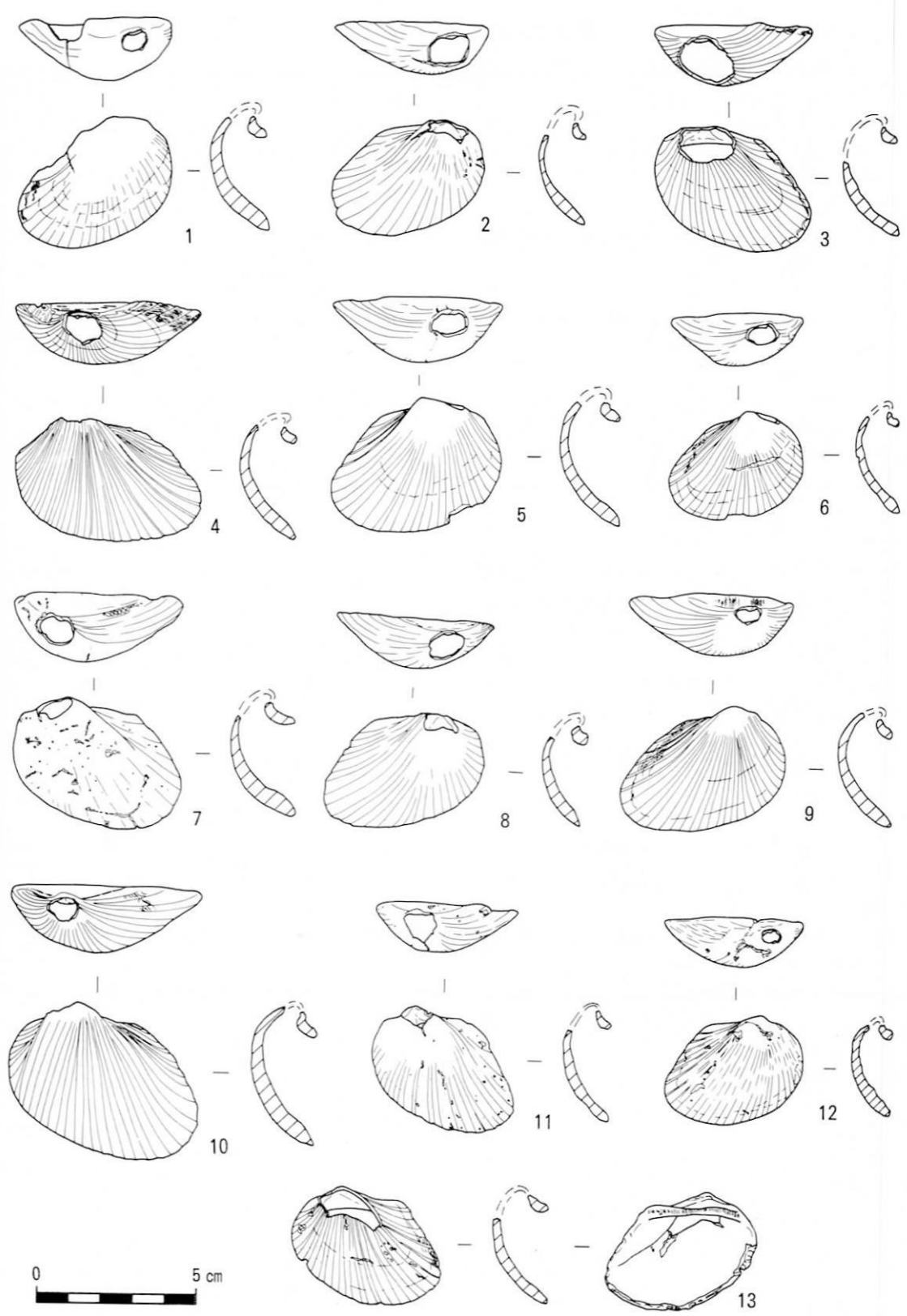
挿 番 号	出土場所	貝種	分類	観 察 事 項	縦×横 cm	孔 径 cm	重量 g
1	J-102・103 東側攪乱	カワラガイ	(二) 左殻	殻頂部にほぼ円形の孔を穿つ。腹縁部が大きく破損する。摩耗しているため放射肋が全体的に薄い。	2.2×3.1	1.1×0.8	4.5
2	L-98 II層	〃	〃 右殻	殻頂部に小さな円形の孔を穿つ。腹縁部が若干摩耗する。	4.7×4.5	0.7×0.7	13.5
3	不 明	リュウキュウサルボウ	〃 左殻	殻頂部に粗孔を穿つ。内側から数回の打撃によって穿孔される。	5.6×7.2	1.3×2.6	68
4	H-107 II層 25/40	〃	〃 右殻	殻頂部から背面近くまで大きめの粗孔を穿つ。内側からの打撃によって穿孔される。	4.3×6.7	2.6×2.3	42
5	H-106 II層 35/60	〃	〃 左殻	〃 孔周辺の一部がすれたようになり、放射肋が消える。	5.9×7	2.5×1.6	45
6	H-106 II層 60/90	〃	〃	殻頂部に方形状の粗孔を穿つ。貝全体が摩耗する。	4.2×5.2	1.1×1.4	25
7	I・J-103・104 攪乱部	〃	〃 右殻	〃 後方部分が虫食い状態になる。	5×6.2	1×1.7	65
8	K-101 II層 0/15	〃	〃	殻頂部に小孔を穿つ。貝全体が摩耗する。	5.6×7.3	0.9×1.7	79.5



第33図 貝製品

第33図に対応する観察表

挿図 番号	出土場所	貝種	分類	観 察 事 項	縦×横 cm	孔 径 cm	重量 g
1	L-97 II層 25/30	リュウキュウサルボウ	(ニ) 左殻	殻頂部に円形の孔を穿つ。腹縁部の一部が破損し、貝は風化している。	5×7.2	1.3×1.4	63.5
2	I-108 II層 70/100	〃	〃	殻頂部に楕円形状の粗孔を穿つ。風化がいちじるしい。	4.6×6.2	1.3×2.2	26.5
3	K-97 攪乱部分	〃	〃 右殻	殻頂部にほぼ円形の粗孔を穿つ。貝の風化がいちじるしい。	4.2×5.6	1.5×1.5	20
4	I-107 II層 5/30	〃	〃	殻頂部に円形の小孔を穿つ。孔付近の放射肋が消える。	4.5×5.2	0.7×0.7	19
5	K-98 II層	〃	〃 左殻	小さめの貝の殻頂部に楕円形の孔を穿つ。全体的に摩耗する。	2.7×3.4	0.7×1	4
6	K-100 II層	〃	〃 右殻	背面部に楕円形の粗孔を穿つ。内側からの打撃による穿孔。腹縁部が若干摩耗する。	4.1×4.7	1.7×1.5	16.5
7	I-97 II層 (攪乱) 35/55	〃	〃 左殻	殻頂部から背面にかけて、貝の3分の1程の大きな粗孔を穿つ。風化がいちじるしい。	3.7×4.8	2.2×3	10.5
8	H-99 II層 80/110	〃	〃	殻頂部に小さな粗孔を穿つ。腹縁部が若干摩耗する。	2.7×3.1	0.5×0.7	4.5
9	H-99 II層 50/80	〃	〃	背面付近に楕円形の粗孔を穿つ。全体的に摩耗し、腹縁部の一部が破損している。	4.4×6.4	2.6×1.1	39.5
10	K-101 II層 0/15	〃	〃 右殻	殻頂部に大きめの粗孔を穿つ。風化がいちじるしい。	3.8×5.2	1.2×2.3	15

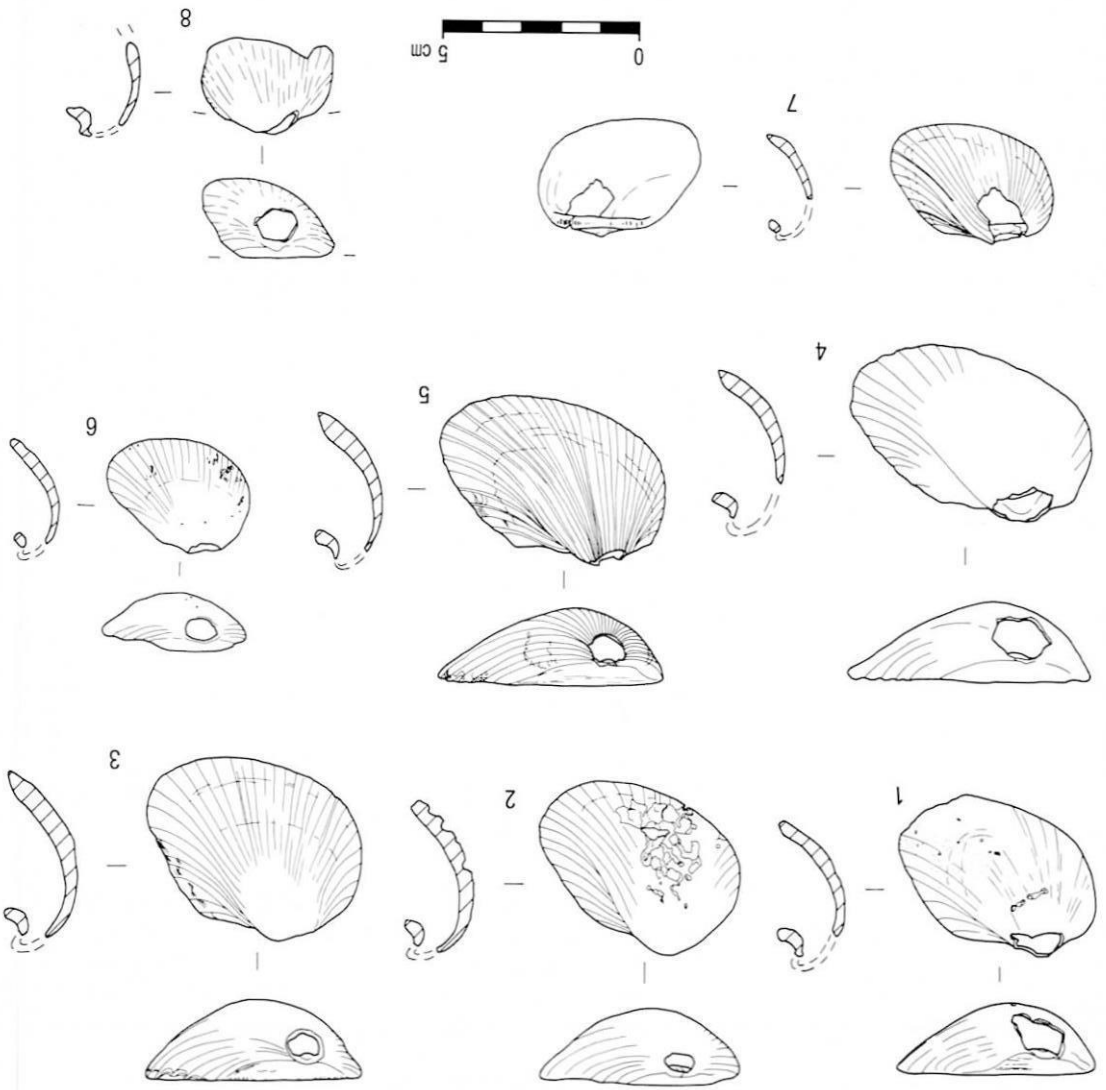


第34図 貝製品

第34図に対応する観察表

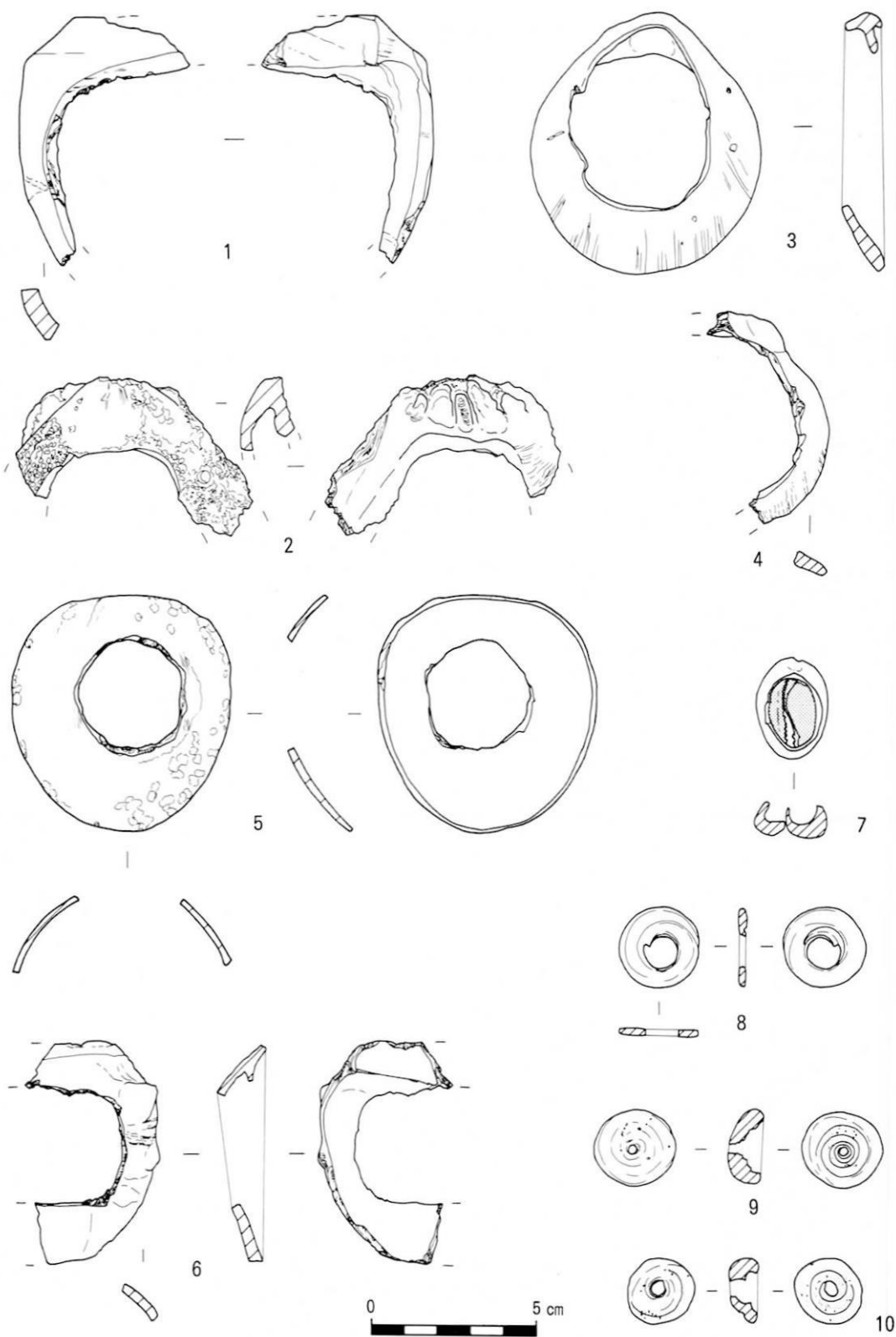
挿図 番号	出土場所	貝種	分類	観察事項	縦×横 cm	孔径 cm	重量 g
1	H-104 II層	リュウキュウサルボウ	(ニ) 左殻	殻頂部に小孔を穿つ。全体が摩耗し、腹縁の一部が破損する。	3.8×4.2	0.7×0.9	15.5
2	I-105南側 II層 0/30	ク	ク	殻頂部に方形の孔を穿つ。若干風化している。	3.4×4.5	1×1.2	9.5
3	J-101 II層	ク	ク 右殻	ク	3.1×4.4	1.6×1.7	12.5
4	J-100 II層 0/10	ク	ク	殻頂部に楕円形の孔を穿つ。	3.8×5.4	0.9×1.2	18.5
5	J-97 I層 0/5	ク	ク 左殻	ク 全体的に摩耗し、背面部の放射肋が消える。腹縁部の一部が破損する。	4.1×5	0.8×1.3	20
6	I-108 II層 70/100	ク	ク	ク	3.3×3.9	0.7×0.8	9
7	ク	ク	ク 左殻	殻頂部にやや円形の粗孔を穿つ。風化がいちじるしい。	3.8×5	1.2×1.3	21
8	K-101 II層	ク	ク 左殻	殻頂部に雑な孔を穿つ。若干摩耗し、部分的に放射肋が消える。	3×4.5	1×1.3	10.5
9	J-97 II層 5/15	ク	ク	殻頂部に小孔を穿つ。若干摩耗する。	3.7×4.6	0.6×0.8	18
10	H-101 II層 砂利まじり	ク	ク 右殻	ク	4.4×5.4	0.8×1	25
11	I-100 III層	ク	ク	殻頂部に粗孔を穿つ。摩耗がいちじるしく、殻の厚みが薄い。	3.3×3.9	1.1×1	8
12	試掘ビット 13	ク	ク 左殻	殻頂部に小さな粗孔を穿つ。部分的に摩耗し、虫食いの状態がみられる。	3.2×3.9	0.5×0.7	10
13	H-108 II層60以下	ク	ク 右殻	殻頂部から背面にかけて穿孔する。部分的に虫食い状態がみられる。	3.5×4.3	1.1×2.2	10.5

第35图 贝製品



第35図に対応する観察表

挿図 番号	出土場所	貝種	分類	観 察 事 項	縦×横 cm	孔 径 cm	重量 g
1	K-99 北側 II層	リュウキュ ウサルボウ	(ニ) 右殻	殻頂部に方形に近い粗孔を穿つ。全体的に摩耗し、また風化している。	3.6×4.5	1×1.3	11.5
2	H-101 II層 砂利まじり	ク	ク	ク	4.1×4.6	0.6×0.9	15
3	I-105 II層 60/90	ク	ク	殻頂部に楕円形の小孔を穿つ。若干摩耗し、孔周辺は放射肋が消えている。	4.4×5	0.8×1.1	24.5
4	J-101 II層	ク	ク	殻頂部に大きめの円形の孔を穿つ。全体が摩耗する。	4×5.7	1.4×1.6	18
5	L-98 II層	ク	ク	殻頂部にほぼ円形を呈する孔を穿つ。	3.9×5.2	0.8×1	20
6	I-106 II層 60/80	ク	ク	小形の貝で殻頂部に小孔を穿つ。全体的に摩耗し、孔付近は放射肋が消える。	2.8×3.4	0.6×0.8	5
7	H-103 II層	ク	ク	殻頂部から背面にかけて長方形の粗孔を穿つ。摩耗がいちじるしい。	2.9×3.9	1.6×0.9	6
8	K-100 II層	ク	ク	殻頂部に楕円形の孔を穿つ。破損がいちじるしく、半分以上が破損する。	2.4×3.3	0.7×1.1	6



第36図 貝製品

第36図に対応する観察表

挿 番 号	出土場所	貝種	分類	観 察 事 項	縦×横 cm	孔 径 cm	重量 g
1	J-101 II層	ゴホウラ	(ホ)	ゴホウラの背面部を利用しており、内面に螺塔部を若干残す。内外面とも丁寧な研磨を施している部分及び敲打調整のままの部分が見られる。	—	—	23
2	I-102 I層	ウミギク ガイ科	ク	背面部を打ち欠き、環状に外縁部を残すが、破損部分が大きい。ため、完成形は不明。貝の虫食い状態がいちじるしい。	—	—	29.8
3	I-103 III層 東側	ク	ク	全形の伺える製品である。貝の摩耗がいちじるしく、貝も歪んだ状態となる。内側から穿孔されるが、丁寧な作りではない。	7.8×6.9	5.4×4.2	30.5
4	J-102 II層 西側	ク	ク	No.3に比べ小さめの貝を利用する。内側からの打撃による穿孔で、製作途中に破棄されたものと思われる。	—	—	5.8
5	J-101 貝集積周辺 III層	ホシダカラ	(チ)	背面中央部に円形の孔を穿つ。他に加工痕はみられない。数回丁寧な敲打によって穿孔されるが、研磨痕はみられない。	7.2×6.6	3.3×3.1	18.4
6	I-97 II層 (攪乱) 35/35	スイショ ウガイ科	(ホ)	No.1と同様、背面部を利用し、内面に螺塔部を残す。研磨痕はみられず、敲打整形のみである。	6.7×—	3.6×—	12.2
7	J-97 II層 攪乱部	ハナマル ユキ ?	(ヘ)	背面中央部を打欠きによって除去した製品である。孔の周縁はすどなく、若干丸みをもつ。	3×2.1	2.3×1.7	5.2
8	M-96 II層	イモガイ 科 ?	(ト)	丁寧に磨かれた製品で、貝の原形をほとんど残していない。内面に若干、螺旋状の隆起が残る。	2.4×2.4	1×1.05	1.8
9	M-96 II層 80/110	ク	ク	貝の螺塔部を利用するもので、全面的に研磨が施されるが、光沢はない。内面に螺旋状の隆起が残る。	2.3×2.4	0.3×0.3	6.4
10	K-98 貝集 積中央部	ク	ク	No.9に比べ研磨調整が雑で、縫合線が部分的に残る。内面に螺旋状の隆起が残る。	2×2	0.5×0.45	3.6



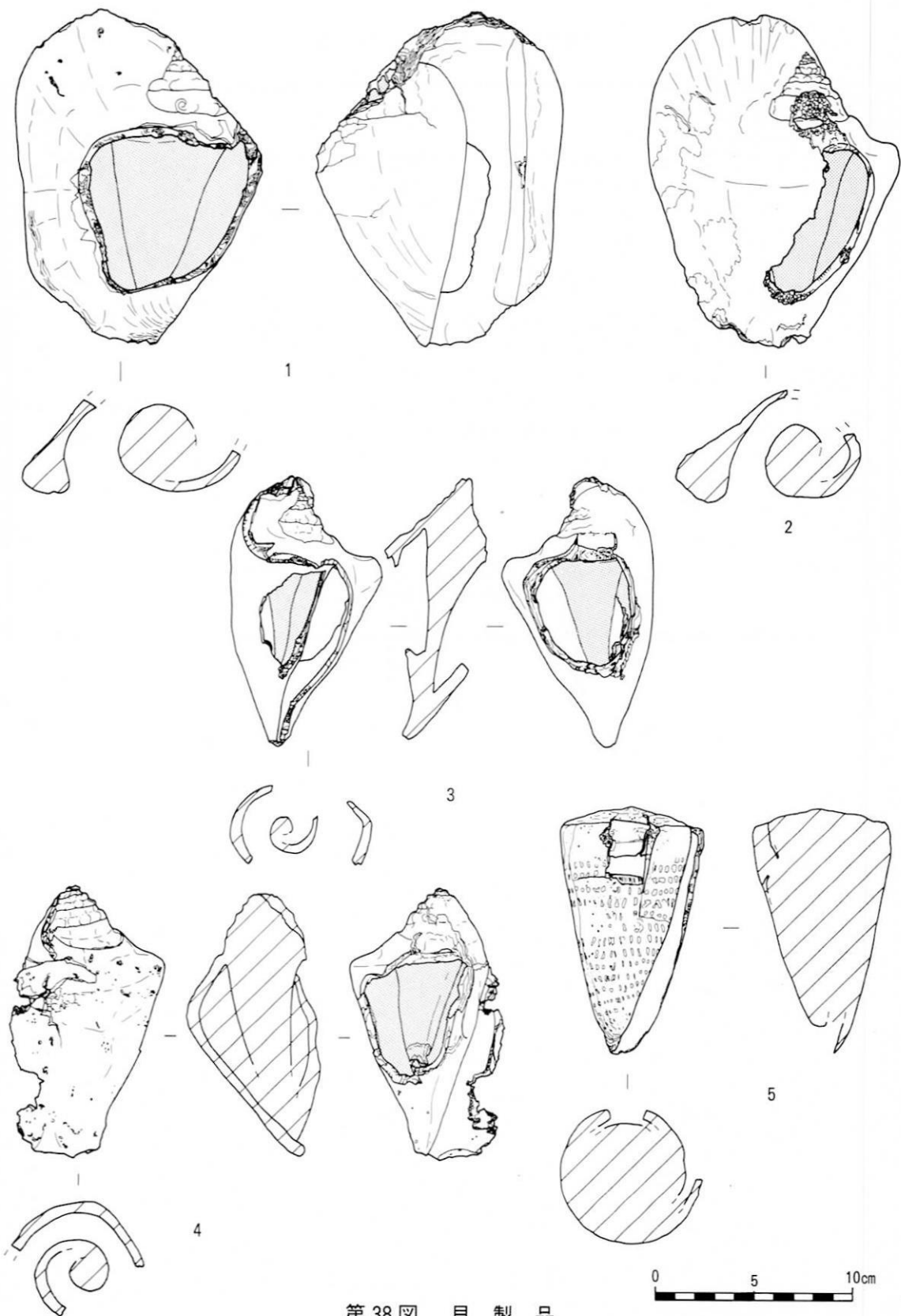
民俗事例「貝の重り（貝錘）」



第37図 貝製品

第37図に対応する観察表

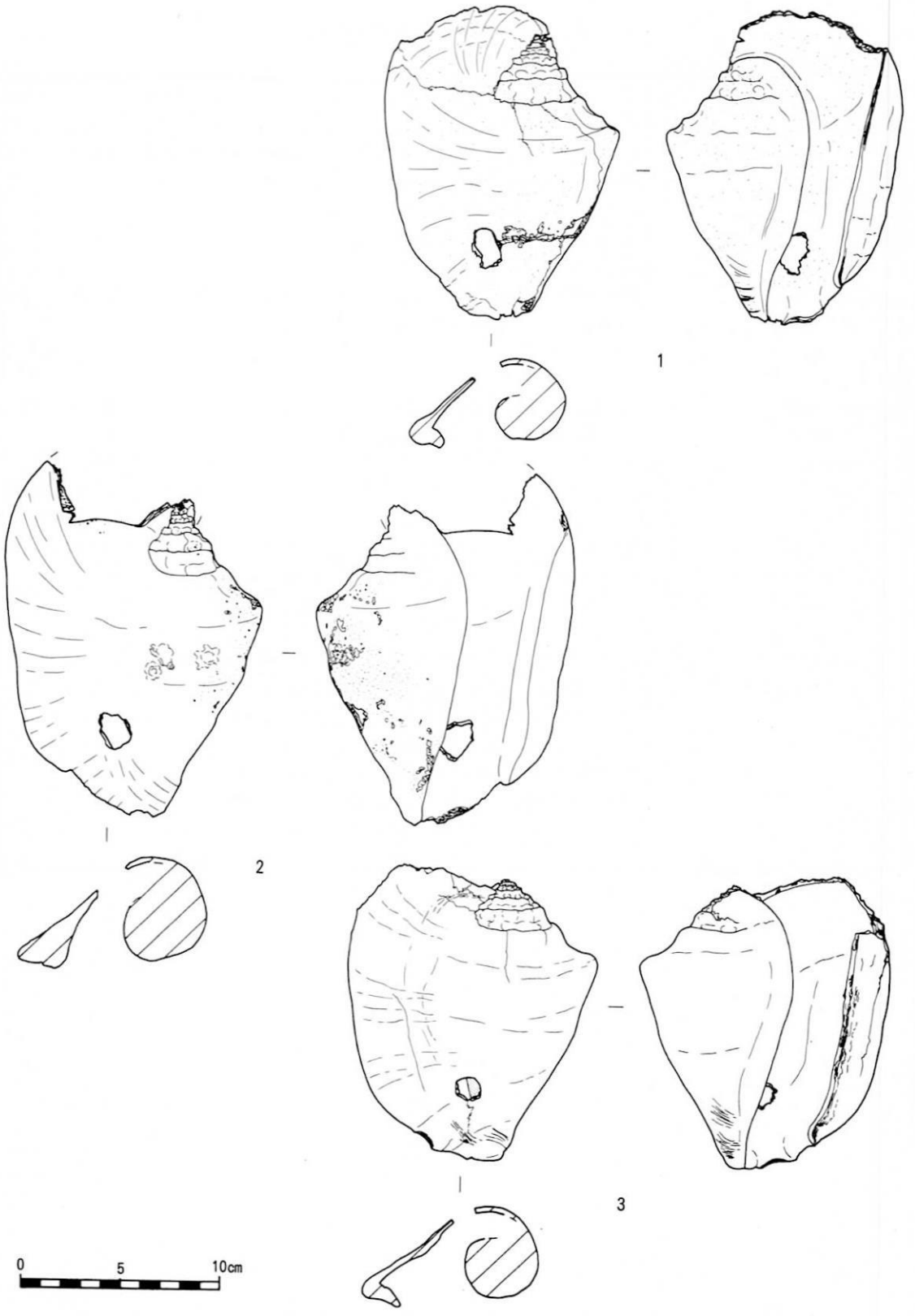
挿 番 号	出土場所	貝種	分類	観 察 事 項	縦×横 cm	孔 径 cm	重量 g
1	不 明	ゴホウラ	(ホ)	貝輪を製作する過程の資料と思われる。外唇部及び背面、殻軸を打割調整によって除去するが螺塔部は残る。研磨面はみられない。部分的に虫食いがみられ、素材自体は良質ではないと思われる。	14.9×8	10.9×6.9	179
2	L-98 II層	ク	ク	No.1と同様、製作過程の一端をうかがい知ることができる。外唇部や背面殻軸また螺塔部の一部も除去される。殻軸部分は打割調整のみであるが、背面のカットには研磨面がみられる。	12.5×6.4	8.2×5.8	150
3	J-99 II層 みぞ掘り	ク	ク	No.1・2に比べ小形の貝を利用する。外唇部分は擦り切った痕が残り、螺塔部及び殻軸もほとんど打割によって除去されている。研磨面は見られない。 * 3点とも肩部の突起が残り、大原貝塚出土のゴホウラ製貝輪の形態分類をみるとAタイプと同様と思われる。	9×5	表孔 — ×4.1 裏孔 3.1×3.2	65.5



第38図 貝製品

第38図に対応する観察表

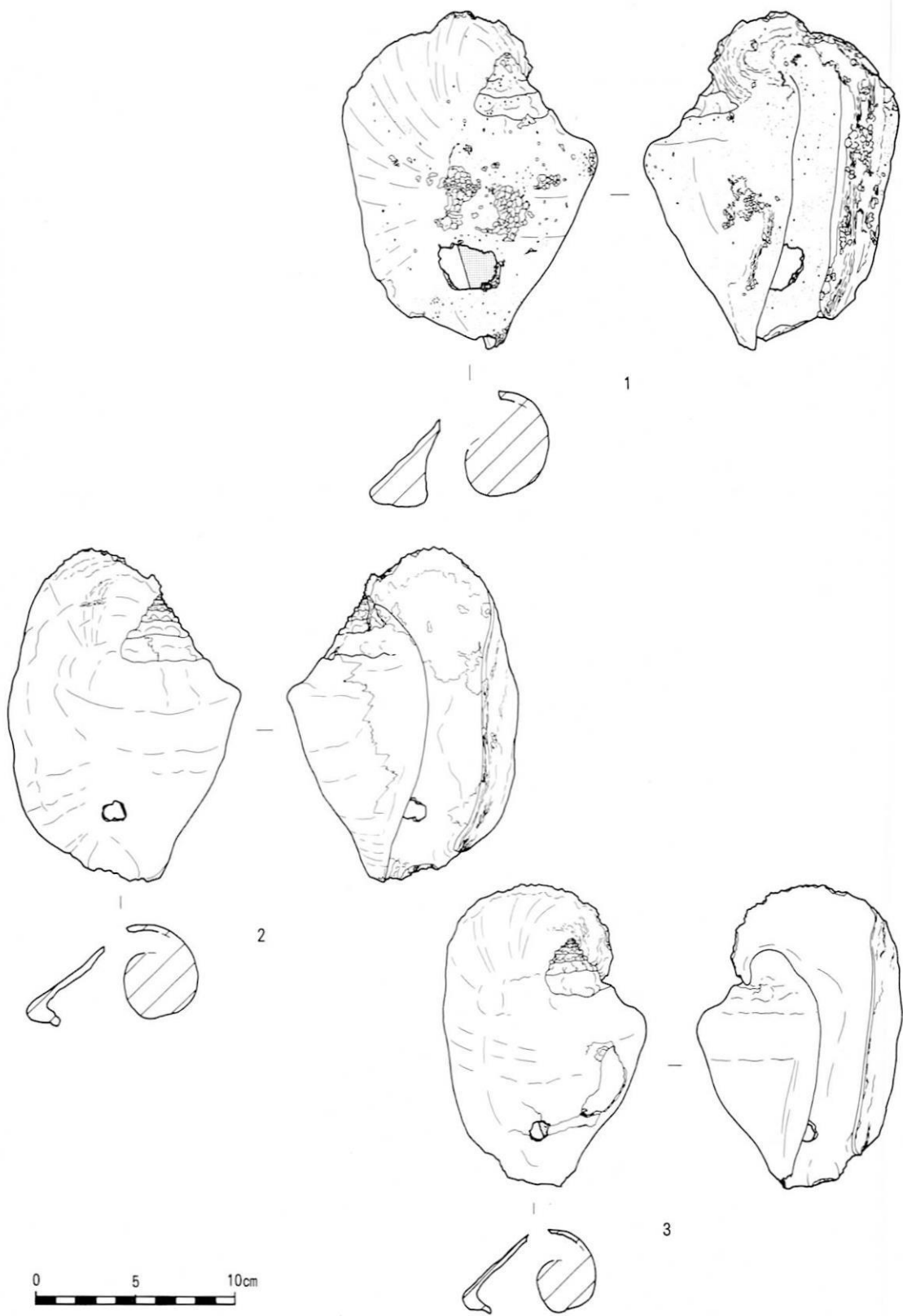
挿図 番号	出土場所	貝種	分類	観 察 事 項	縦×横 cm	孔 径 cm	重量 g
1	H-105 II層東北隅	ゴホウラ	(ホ)	背面部を打割によって除去する。また螺塔の一部及び外唇の一部も打割による整形がなされているが、中途半端に終わっており、貝輪製作途中で破棄されたと思われる。研磨痕はみられない。肩部の突起も半分除去される。	16.2×12.2	8.2×9.1	577
2	I-102 I層西側	ク	ク	背面部を打割により除去するが、途中で破棄したと思われる。研磨痕はみられず、肩部の突起は残る。素材の貝は虫食いが見られ、良質ではない。	16.6×12.6	8.5×2.6	689.5
3	K-98 II層 貝集積 南側斜面	ク	ク	外唇部が除去され、背面及び腹面部を円形状に除去したものである。研磨面はみられず、打割整形のみが施される。肩部の突起は残る。	13.6×7.2	表孔 6.9×4.1 裏孔 6.2×5.5	207
4	J-98 II層 攪乱部	ク	ク	外唇部が除去される。背面には加工痕はみられず、腹面部のみに打割調整が施される。研磨面はみられない。素材はアバタ状になり古く、脆い感じを受ける。肩部の突起は残る。	13.2×7	5.8×4.9	240.5
5	試掘ピット 12	クロフモ ドキ ?	(チ)	イモガイの体層上部の一部及び中心軸を残して、その周辺の殻軸が除去される。除去された痕の一部に擦り切り痕が残り、さらに縦・横位に切断しようとした痕が残る。研磨痕はみられない。(チ)に分類しているが、貝輪を製作する目的で、切り込みを入れた可能性もある。貝輪の範疇に入るとすると、輪切りにする段階で破損したため破棄されたものと思われる。また、他の用途で貝札(かいさつ)が作られる可能性もある。	12.9×7.2	3.2×2.3	295



第39図 貝製品

第39図に対応する観察表

挿図 番号	出土場所	貝種	分類	観 察 事 項	縦×横 cm	孔 径 cm	重量 g
1	L-96 北側 貝集積 (遺構?)	ゴホウラ	(チ)	螺背面の前溝付近に粗孔を有し、殻頂付近の外唇部も破損する。他に加工痕はみられない。素材は全体的に脆く、全面に細かいアバタがみられ、背面下部は自然孔がみられる。	15.5×11.6	2.1×1.6	250
2	H-98-99 アタリ 重機による ためし掘り	々	々	No.1と同様、螺背面の前溝付近にやや円形の粗孔が穿たれる。孔は外側からの打撃によって穿孔される。他に加工痕はみられない。腹面部は虫食い状態がひどく孔があいている。	15.9×12.8	2×2	524
3	L-96 北側 貝集積 (遺構?)	々	々	螺背面のさい孔部寄りに小孔が穿たれる。また殻頂付近の外唇部も除去される。貝の模様がうっすらと残る。	14×12.6	1.3×1.2	426



第40図 貝製品

第40図に対応する観察表

挿図 番号	出土場所	貝種	分類	観 察 事 項	縦×横 cm	孔 径 cm	重量 g
1	不 明	ゴホウラ	(チ)	螺背面の前溝付近にやや大きめの粗孔を穿つ。殻頂付近の外唇部も破損し、素材の虫食いがいちじるしく脆い。	16.7×12.4	2.2×3.4	513
2	L-96 北側 貝集積 (遺構?)	ク	ク	№1と同様、螺背面の前溝付近に穿孔される。孔はひょうたん形の小孔で、外側からの打撃による。殻頂付近の外唇部も破損する。腹面部に貝の模様がうっすらと残る。	16.7×11.6	0.8×1.5	327
3	ク	ク	ク	螺背面の前溝付近に小孔及び肩部突起付近に大きめの粗孔を穿つ。殻頂付近の外唇部はわずかに破損し、腹面部に貝の模様が残る。同図1・2の過程から第38図1などに加工する過程の可能性もある。	15.1×10.2	1.1×0.9 3.6×1.7	240

5. 食料残滓

検出された食料残滓は、貝殻・魚骨・獣骨等の動物遺存体で、最も多く検出されたのは貝類であった。獣骨では、イノシシの犬歯や大たい骨・上腕骨などが検出され、さらにジュゴンの肋骨もみられた。

(1) 貝類遺存体

本貝塚において得られた貝の総数は、完形貝が73,179点、破片28,915点で、合計で102,094点である。全体の内訳は第6表①～④に示したとおりで、各グリット別、J・K・Lトレンチに関しては貝集積部と攪乱部を分けて集計した。

貝種をみると、全体で44科229種となっており、その中で海産貝が215種（89.6%）、淡水・河川貝が7種（0.8%）、陸産貝が7種（1.7%）となっている。また腹足綱（巻貝）と斧足綱（二枚貝）では前者が19.5%、後者が80.5%と圧倒的に斧足綱が多く出土している。

他にパイプウニの刺やカニ類のハサミ等が若干出土している。

今回の調査地区をみると、ほとんど破壊され、貝集積のみが検出された。攪乱部分からも若干の貝の出土はみられるが、ほとんどがこの貝集積部分から検出され、さらにK-98が最も多く出土している。

棲息地別にみると、グリット別の出方は第5表のようになっている。陸産貝の出土は7種で全体の1.7%となっており、同時代の遺跡や貝塚に比べると若干少ない。7種の中で最も多いのはオキナワヤマタニシの959個体で、続いて527個体のパンダナマイマイである。これらの陸産貝は各グリットにおいて全体的に散見でき、食用とは考えづらく、有機物の溜まった貝だまりに集まってきたものか、あるいは他に何らかの理由によって自然堆積したものと考えられる。

淡水・河川産貝も稀少で、本貝塚の西側に流れる小さな小川からの採取と思われるが、最も多くみられるカバクチカノコの量も505個体、シレナシジミ232個体で、食用にするにはあまりにも少ない出土となっている。

貝類の最も主体となる海産貝は、中でも浅海産の貝が多く69%を占める。それは貝塚付近の海岸は約700m程の近い沖合いにブシナヒシとよばれるリーフが発達しており、リーフ内は砂浜が広がり遠浅となっているため、貝類の出土状況からもわかるように、部瀬名貝塚人たちはそのリーフやリーフ内で貝を採取していたのであろう。

主体となる貝の出方は第4表のようになる。多いものから10種の貝を抜き出し、各トレンチでの出土状況をパーセントで算出した。最も多く出土した上位3種のアラスジケマンガイ、チョウセンハマグリ、ヌノメガイは、現在でも潮干狩りの場合の食用種としては重要な貝であるが、アラスジケマンガイは貝の殻が厚く身が小さいため、多く採取しなければ

ばならなかったと思われる。サラサバティは5~10cm前後のものが最も多くみられた。また、ヒレジャコ・ヒメジャコについても5cm以下の小さいものから40cm以上あるものまで大きさにばらつきがめだつた。アンボンクロザメは大きさにばらつきはみられず、肩幅が7cm前後のものが一般的であった。貝製品を作成するために、意図的に採取したのかは判別不可能だが、貝輪を作成する段階のものが出土している(第38図5)。これらの大型貝は貝集積部の上面ではあまり出土せず、西側の傾斜面や貝集積層の下部で多く出土している。意図的ではなく、砂地であるために重量のある貝殻が下部へ沈み込んでいった可能性もある。

マガキガイについては、現在でも一般的に食されている美味な貝で、砂地などに普通にみられる。L・Mトレンチ出土の数点は火のあつた痕がみられた。クロチョウガイは食用より真珠の母体としてよく知られる。貝塚人たちは内面の美しい真珠層に魅せられて採取したのだろうか。完形貝に比べ、破片が多く出土している。

この10種以外にもチョウセンサザエ・ヤコウガイ・イボアナゴウ・オオベッコウガサガイなど第41図の模式図のように、多くの採取の難しい、波当たりの強い場所の貝も出土しており、部瀬名貝塚人たちは、海の恵みを十分に利用し、生活の糧として生きていたのであろう。

第4表 貝種別出土状況

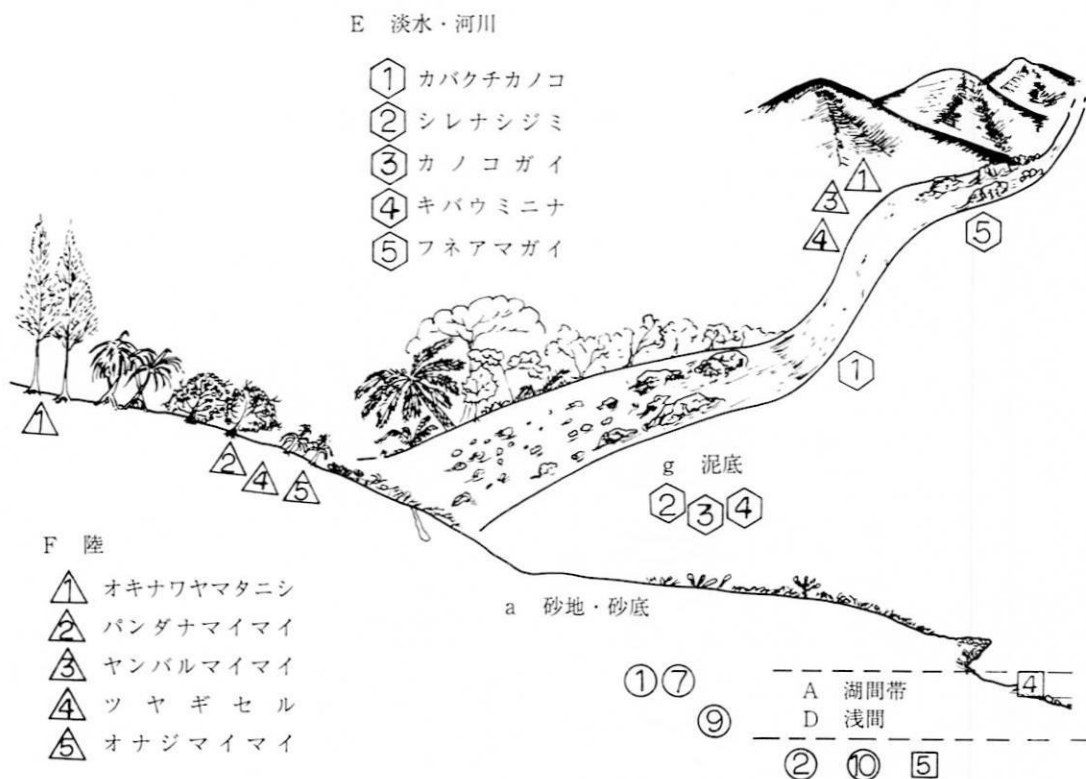
地区 貝種	H ト レン チ 個 (%)	I ト レン チ 個 (%)	J		K		L		M	O	P	全体数 (個)
			包含部	攪乱部	包含部	攪乱部	包含部	攪乱部				
アラスジケマンガイ	1,468 (2.7)	2,154 (3.9)	6,593 (12.2)	1,037 (1.9)	20,960 (38.8)	269 (0.4)	17,729 (32.8)	1,319 (2.4)	2,332 (4.3)	108 (0.2)	4 (0.01)	53,774
チョウセンハマグリ	74 (0.8)	314 (3.4)	1,094 (11.8)	57 (0.6)	3,965 (43.1)	28 (0.3)	3,161 (34.4)	234 (2.5)	245 (2.7)	23 (0.3)	1 (0.01)	9,196
ヌメノガイ	245 (7.4)	302 (9.1)	482 (14.5)	75 (2.3)	1,305 (39.3)	53 (1.6)	667 (20.1)	38 (1.1)	128 (3.9)	20 (0.6)	4 (0.1)	3,319
サラサバティ	337 (12.8)	605 (23)	319 (12.1)	98 (3.7)	661 (25)	71 (2.7)	383 (14.5)	44 (1.7)	79 (3)	33 (1.3)	4 (0.2)	2,634
マガキガイ	322 (15.2)	395 (18.7)	194 (9.2)	55 (2.6)	551 (26)	31 (1.5)	376 (17.8)	39 (1.8)	80 (3.8)	60 (2.8)	9 (0.4)	2,112
クロチョウガイ	19 (1)	67 (3.4)	595 (29.7)	41 (2.1)	1,001 (50.1)	6 (0.3)	211 (10.5)	10 (0.5)	48 (2.4)	0	0	1,998
アンボンクロザメ	124 (8.8)	254 (18)	152 (10.8)	57 (4.1)	351 (25)	44 (3.1)	256 (18.2)	55 (3.9)	75 (5.3)	23 (1.6)	17 (1.2)	1,408
ヒレジャコ	86 (6.6)	174 (13.3)	153 (11.7)	28 (2.1)	474 (36.3)	26 (2)	259 (19.8)	37 (2.8)	56 (4.3)	10 (0.8)	2 (0.2)	1,305
ヒメジャコ	124 (10.6)	152 (13)	171 (14.7)	36 (3.1)	320 (27.5)	36 (3.1)	231 (19.8)	34 (2.9)	48 (4.1)	11 (0.9)	2 (0.2)	1,165
リュウキュウマスオガイ	79 (6.9)	81 (7.1)	106 (9.3)	67 (5.8)	359 (31.3)	20 (1.7)	350 (30.5)	19 (1.7)	61 (5.3)	2 (0.2)	2 (0.2)	1,146
合計	2,878	4,498	9,859	1,551	29,947	584	23,623	1,829	3,152	291	45	78,257

[個体数の算出]

- ① 腹足綱（巻貝）→ 完形貝や殻頂部を有する破片は3分の2以上残在しているものを1個体とした。
- ② 斧足綱（二枚貝）→ 完形貝や殻頂部を有する破片は3分の2以上残在しているものを1個体とした。なお、左殻と右殻に分類せず、全個体数を記す。
- ③ 貝製品の数量は、食料残滓には含まれていない。

[棲息場所]

- | | |
|---------|---------|
| A 潮間帯 | a 砂地・砂底 |
| B 潮間帯付近 | b 細砂底 |
| C 潮間帯下 | c 砂礫底 |
| D 浅海 | d 岩 礫 |
| E 淡水・河川 | e 岩 礁 |
| F 陸 産 | f サンゴ礁 |
| | g 泥 底 |



第41図 貝類棲息地分布模式図

第5表 貝棲息地別比較表

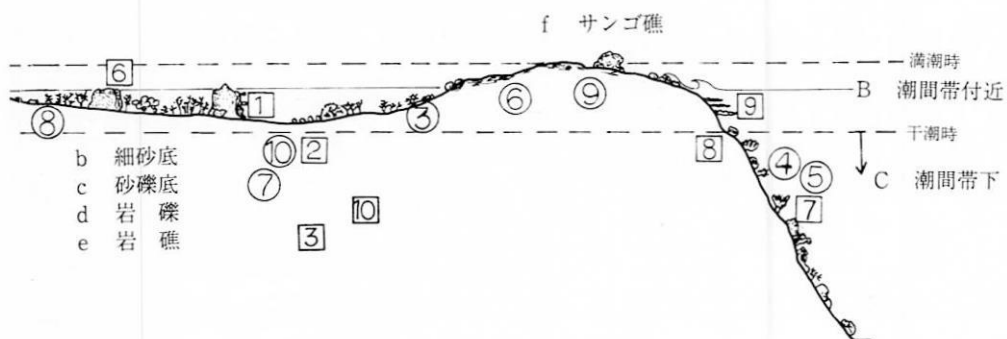
	海 産 貝							不明		
	A	B		C	D	E	F			
H	19.2	7.5	12.1		42.5	1.3	3.5	13.9		
I	18.3	8.6	11.9		44.1	1.1	2.3	13.6		
J	包含部	8.5	3.2	9.8		71.1		0.6	1.1	5.7
	攪乱部	15.2	4.6	10		50.1	1.4	5.7		13
K	包含部	7.7	2.5	6.9		73.7		0.8	1.9	6.4
	攪乱部	20.6	7.9	14.7		39.2	0.4	2.6		14.6
L	包含部	7	2.1	4.3		79.9		0.4	0.9	5.4
	攪乱部	8.6	2.4	6.3		68.5	0.5	0.4		13.3
M	11.4	2.4	7.3		63.3	1.5	1.7		12.4	
O	25.7		6.8	14.7		32.9	1.7	0.7		17.5
P	31.9		5.7	23		14.8				24.6
表採	10.5	5.3		52.6						31.6
試12	14.1	5.7	9.5		51.1	0.5	0.5			18.6
試13	19.9	8.6	9.2		44.8	0.7	3.1			13.7
試16	28.6		9.5	4.7	28.6					28.6
全体	9.7	3.4	7.5		69		0.8	1.7		7.9

二枚貝

- ① アラスジケマンガイ
- ② チョウセンハマグリ
- ③ スノメガイ
- ④ クロチョウガイ
- ⑤ ヒレジャコ
- ⑥ ヒメジャコ
- ⑦ リュウキュウマスオ
- ⑧ エガイ
- ⑨ シヤゴウ
- ⑩ ホソスジナミガイ

巻貝

- ① サラサバテイ
- ② マガキガイ
- ③ アンボンクロザメ
- ④ アマオブネ
- ⑤ スイショウガイ
- ⑥ オオベッコウガサガイ
- ⑦ チョウセンサザエのフタ
- ⑧ ホシダカラ
- ⑨ クマノコガイ
- ⑩ オニノツノガイ



第6表 貝殻集計表①

出土場所 種別	Hトレンチ		Iトレンチ		Jトレンチ				Kトレンチ				Lトレンチ			
	完形	破片	完形	破片	包含部		攪乱部		包含部		攪乱部		包含部		攪乱部	
					完形	破片	完形	破片	完形	破片	完形	破片	完形	破片	完形	破片
斧足網																
イソハマグリ	69		68		25		15	1	93	3	9	4	34	2	3	
チョウセンハマグリ	57	17	223	91	701	393	27	30	2,348	1,617	14	14	1,256	1,905	100	134
シテナシジミ	16	4	13	16	16	12	8	9	33	30			20	23	7	1
オキシジミ	1	2	2	2												
ヒメツキガイ	44	2	93	22	36	12	21	1	127	36	3		83	15	7	
ホソスジイナミガイ	86	2	122	1	66		23		159	3	8		87	1	13	5
アラスジケマンガイ	1,402	66	2,060	94	6,218	375	900	137	18,873	2,087	226	43	16,337	1,392	1,140	179
ケマンガイ	1		2						1				2			
メンガイ	13	3	19	7		5	3	5	20	33		1	9	10	1	1
ヌノメガイ	163	82	174	128	239	243	39	36	497	808	31	22	250	417	19	19
エガイ	99	1	103	10	93	8	19	1	229	9	19	2	149	11	16	2
カリガネエガイ	24		15		7		1		58		1		35		1	
カワラガイ	101	2	100	14	42	3	13	1	101	10	5		71	12	3	
ザルガイ													1			
リュウキュウザルガイ	78	6	60	9	38	2	18	4	94	11	4	1	50	4	3	1
リュウキュウザルボウ	67	9	72	6	20		7	2	44	16	11	2	28	6	10	6
リュウキュウマスオガイ	62	17	61	20	72	34	27	40	240	119	11	9	220	130	12	7
マスオガイ	5		8		2				16				9	1	1	1
リュウキュウシラトリ	27	5	35	19	31	8	6	2	53	33	5	2	40	17	2	4
ニッコウガイ	2		5		3				1				13	1		
ヒメニッコウガイ	2		2		2		1	1	5				6	1		
クロチョウガイ	8	11	22	45	81	514	8	33	212	789	3	3	57	154	3	7
ウニメンガイ	19	4	26	11	22	7	10	6	44	41	15	5	23	12	6	1
ウミギク	16	1	6	8	4	1	2	1	13	11	2	2	11		1	
ヒメジャコ	112	12	144	8	162	9	28	8	293	27	31	5	203	28	25	9
ヒレジャコ	64	22	138	36	141	12	17	11	400	74	19	7	232	27	28	9
シヤゴウ	21	78	27	68	43	36	2	17	47	96	3	14	60	109	2	37
シラナミ	10	1	17	1	23		2		40		2		19	1		
チイロメンガイ					1											
サメザラ	8	3	6	10	5	2	2	1	15	19	2	3	6	3	1	2
ハマグリ	7		8	1	4	1	2	1	18	2	1		5	3		
リュウキュウバカガイ	4	1	8	1	12				31	9			13		2	
カブラツキガイ			1		8				1				1	1	1	
リュウキュウナミノコガイ			1		1											
オオタカノハ											1			2		
マルオミナエシ	2			1	1		1		14				1			
ムラサキガイ									1							
モチズキザラ									2				3	1	2	
スダレモシオガイ			1										3	1		
ウラキツキガイ	2		2		1				1							
チサラガイ	1															
クジャクガイ													1			
ソメワケグリ							1									
リュウキュウアサリ									2	1						
サラサガイ									1							
オトコエシ									1							
スダレハマグリ													2	2		
カノコアサリ	1															
ヒメイナミガイ									1							
オイノカガミ													2			
ダンドクメンガイ			1													
マルスダレガイ			1													
マルスダレガイ科			1													
リュウキュウマスオ科																
イタヤガイ科				1										2		
ウグイスガイ科		10		8						8				7		3
カワラガイ科		5				3								8		1
ウミギク科	13	33	6	14	4	21		8	9	43		1	6	20		4
ザルガイ科		15				21			9	34		4		22		1
イタボガキ科			1		1			1	1	19		3		1		2
シャコガイ科	5	298	8	454	13	229	7	144	15	798		85	3	633	1	185
ニッコウガイ科		1														
バカガイ科			1													
小計	2,612	713	3,662	1,131	8,137	1,952	1,210	510	24,154	6,786	426	232	19,351	4,985	1,410	621

Mトレンチ		Oトレンチ		Pトレンチ		表 採		12ビット		13ビット		16ビット		合 計		生息場所
完形	破片	完形	破片	完形	破片	完形	破片	完形	破片	完形	破片	完形	破片	完形	破片	
12		11		2				5		7	9			353	19	Aa
123	122	21	2	1				1		1	11			4,873	4,336	Da
11	7	1	2					1	1		1			126	106	Eg
														3	4	Ag
11	3				1			5	1	1	2			431	95	Da
22	1	6						4		4	3	2		602	16	Da
1,865	467	100	9	4		5	5	131	34	48	19			49,309	4,907	Da
					1			2	7	2		1		6	0	Aa
								2	7	2				70	73	Df
37	91	10	10	3	1			3	13	2	25		2	1,467	1,897	Da
53	1	8		1				7	2	1				797	47	Ad
4		1												147	0	Ad
12	3	2		2				2		1	1			455	46	Da
			2											1	2	Da
11		1		1				3		3	2			364	40	Cc
3	1	10	3						2		1			272	54	Da
38	23	2		1	1			1	9		3			747	412	Ac
1								1						43	2	Bg
7	3	2	1						2	1	2			209	98	Da
1														25	1	Da
														18	2	Ba
12	36								1		4			406	1,597	Ce
3	1	6	3	1	1									175	92	Ce
2		2	1		1									59	26	Ae
46	2	10	1	2				2						1,058	109	Aaf
42	14	7	3	2				3	12		1			1,093	228	Cf
11	33	2	7		5		1	2	2		4			220	507	Daf
8	1			1				1						123	4	Af
														1	0	C
1	1	1							2		2			47	48	Db
														45	8	ADag
4		1												75	11	Dag
														12	1	Bbe
														2	0	Da
														1	2	Cd
												1		20	1	Da
														1	0	
														7	1	Beb
														4	1	Cag
														6	0	BCc
1														2	0	Cd
														1	0	Ae
														1	0	Da
														2	1	Da
														1	0	Da
														1	0	C
														2	2	Da
														1	0	Db
														1	0	
														2	0	Db
														1	0	Ce
														1	0	
														1	0	
														0	2	
														0	1	
														0	36	
		1												0	18	
2	9		1		2			1						41	156	
	2													0	132	
	2													1	30	
	258		62		20		2		29		10		1	52	3,208	
														0	1	
														1	0	
2,343	1,082	204	107	21	33	5	8	175	117	71	100	4	3	63,785	18,380	

第6表 貝殻集計表②

出土場所 種別	Hトレンチ		Iトレンチ		Jトレンチ				Kトレンチ				Lトレンチ			
	完形	破片	完形	破片	包含部		攪乱部		包含部		攪乱部		包含部		攪乱部	
					完形	破片	完形	破片	完形	破片	完形	破片	完形	破片	完形	破片
腹足綱																
サソリガイ		4							1	2				4		
クモガイ	7	13	3	21	4	23	6	10	11	48	3	7	7	24	1	1
スイジガイ	1	3	7	4					1	5	9			5		1
サラサバテ	60	277	128	477	79	240	13	85	127	534	24	47	97	286	4	40
ギンタカハマ	2	2	2	2	1	4		3	1	6			2	13		1
ニシキウス	3	3	5	11	2	7		6	15	80	3		4	26		1
ベニシリダカ	5	5	6	15	4	7	1	4	4	10			3	7	1	2
チョウセンサザエ	7	29	16	64	3	13	6	9	4	32		8	4	37	1	4
ク のふた	41	3	62	1	55	2	32	1	126	9	14		161	22	15	
オニコブシ		2	2											1		
オニツノガイ	60	8	75	12	21	2	13	3	51	19	2		34	9	12	1
ゴホウラ	7	4	12	8	5	3			11	3		2	9	2		
コゲニナ			1						1				2			
キバウミニナ	1	1	1		5		2	1						1		
カバクチカノコ	34	14	24	22	16	17	7	9	67	174	1	3	27	37	2	3
クマノコガイ	24	6	16	7	16	18	4	4	41	126	4	1	31	63	1	6
カンギク	14	1	16	7	2	8	8		38	14	2	2	14	5	1	
オホッコウガサガイ	9	8	21	20	38	33	7	14	137	87	11	3	99	64	5	10
クロザメモドキ	1				2	1			2	2			1			1
ヤナギシボリイモ					2				1		1		1			
アンボンクロザメ	42	82	48	206	33	119	5	52	87	264	15	29	78	178	6	49
マガキガイ	285	37	334	61	172	22	47	8	502	49	21	10	317	59	34	5
ホラガイ		9	1	27		3		5	3	24		1	2	9		2
チトセボラ	2	2	5		1				2	4						
イトマキボラ	15	27	18	49	3	21	2	11	6	59	2	3	3	40	2	5
ガンゼキボラ	2		4									1	1			
ホシダカラ	13	34	15	58	6	48	2	24	45	83	6	15	28	110	3	31
シロフシタケ			1							1						
ハナマルユキ		1	3		2				4	8			1	2		
ゴマフイモ	1				1				3	1				1		
アツソデガイ					1											
アマオブネ	60	17	119	38	76	26	66	21	289	74	21		159	53	9	7
オオマルアマオブネ	22	9	9	5	20	9	3		43	9	2		32	11	3	3
スイショウガイ	126	11	151	10	128	14	28	6	261	22	37		192	24	20	4
オキワシダミガイ	3		8		7	3	2		37	4			13	2	1	
オキカバイモガイ	2								3	2	1			1		
ヤコウガイ		3		10		3		2	3	16				19		5
ク のふた	1		1	1		1			1	4				1		
テングガイ		1		1					2	2				1		
マダライモガイ	16	3	12	1	9	1	4		25	1	5		35	2	2	
リュウキュウアマガイ	1		1		3		3		8				4	1		
コシダカサザエ	2		2		4		1		26	2	1		5			
ロウイロトミガイ	9	4	8		7	1	2		15	5	1		18			
オニコブシ	1				1				3	3				1		1
ツルイシ	1		6	1	1				3	1			4	1		
ネジマガキガイ	1		2						3		1					
ツノツレイシガイ	1								6				2			
ナツメガイ	2															
ナガニシ	1															
ラクダガイ	2	4	2	1		1	1		1	1						
オハグロガイ	2				1				1				1			
ムラクモダカラ	11	10	5	6	4	14	1	2	11	25	1	5	7	22	1	
ハナピラタカラ	6	1	4		2		2		4		1	1				
ゴマフニナ					3		1		8					3		
トウガタカニモリ			1											3		
コシダカアマガイ	1	1	2		2				6	4			1			
ジュズカケサザエ	1		1													
サラサモドキ	2			1					3	1			2	2		
イモフデ			1													
ゴマフダマ	2	1	3	1	1				12				4			
マルベッコウバイ			1				2		3	1			1			
モクノハナガイ					1											
カバフダカラ	1										1					
コモンイモガイ	1		1						1				1			
クロミナシガイ			2		1		1		3	2	1			1		
レイシガイ	2		3						2	1			1	1		
シロナルトボラ	1		1						1			1				
サヤガタイモガイ			1		1		1		1			1				1
カバミナシ			2	2	1				2	2						
キイロダカラ									1							
ダカベダマシ									2							

Mトレンチ		Oトレンチ		Pトレンチ		表 採		12ビット		13ビット		16ビット		合 計		生息場所
完形	破片	完形	破片	完形	破片	完形	破片	完形	破片	完形	破片	完形	破片	完形	破片	
														1	10	Cd
1	2	1				3								44	152	Ca
1		1	1											15	24	Cd
16	63	14	19	2	2			1	17	1	22		2	566	2,111	Bf
	2													8	33	Be
2	11	1	4							2				37	149	Ce
1			1					1						26	51	Ce
1	15	4	10	2	3			1	2		2			49	228	Ce
58	1	2						3		1	2			570	41	
1														4	2	Df
10	5	5	4	4	1			1		1	1			289	65	Ce
4			1					1						49	23	Ca
														4	0	Af
1														10	3	Eg
22	18	5	2									1		205	300	E
5	3	1	1	1				4	1	2				150	236	Bd
11	5	1	4											107	46	De
21	25	3	3											351	267	Ae
														6	4	Da
		1												6	0	Ce
14	61	2	21	2	15			2	10	2	6			336	1,092	Ae
78	2	56	4	8	1			9		15	11	5	1	1,883	270	ACb
	4	3	1					1	2					10	87	Ce
2		1		1										14	6	Be
5	18	2						2						60	233	Ae
3														11	0	De
4	57		4	1	1			1	2		3			124	470	Ce
														1	1	
2		1												13	11	Ade
														5	2	Ae
														1	0	Cd
58	24	15	1	1	2			4	3	4				881	266	Ad
19	4													153	50	Cc
38	8	11		6				6	1	2	2			1,006	102	Ca
4	1		1	1										76	11	A~Cd
			1										1	7	4	Ce
	1													3	59	De
														4	7	
	1													2	7	Dd
6		1												115	8	Be
2														22	1	Ae
3	1													44	3	Bd
8	1	1												69	11	Dag
														7	3	Ae
		1		1										17	3	
3														10	0	Cd
		1	1											10	1	B
		1												3	0	C
														1	0	C
														6	7	Cf
1		1												7	0	Ad
2	5		2					2						45	91	Ce
3								1						23	2	Af
1														16	0	Ae
1		1												6	0	Ac
2														14	5	Ce
														2	0	Ce
		1												8	4	A
														1	0	Aac
														22	2	A
5														12	1	Cd
														1	0	
	2													2	2	Bd
														4	0	Ae
1			1											9	4	Ag
														8	2	Ad
														3	1	Cf
								1						6	0	Ae
	1													5	5	Ae
1						2								4	0	A
														2	0	

第 6 表 貝 殻 集 計 表 ③

出土場所 種別	Hトレンチ		Iトレンチ		Jトレンチ				Kトレンチ				Lトレンチ			
	完形	破片	完形	破片	包含部		攪乱部		包含部		攪乱部		包含部		攪乱部	
					完形	破片	完形	破片	完形	破片	完形	破片	完形	破片	完形	破片
腹足綱																
フシツガイ			1				1									
イボアナゴウ	1					2		2		3				5		
シロマダライモ														1		
ウミニナ							1							1		
カザリカニモリ												1				
レイシガイダマシモドキ												1				
ノシガイ												1				
キッコウダカラ																
ニシキニナ																
ヒダトリガイ								1								1
ヨフバイモドキ			1											1		
ハナムシロ						1				4						
ハチジョウダカラ	1						1									
リュウテン	1															
クロフモドキ	2					1										
イボシマイモ	1		4					1								
コオニツノガイ			2													
スジグロホラダマシ			1					1		1				2		1
ミツカドボラ	2		5							2				1		
サラサミナシ			1	1						1					4	
クロアワビ				1						1						
オハダグロモドキ										1	1					
バライロセンジュガイ	1															
コオリレヨフバイ	1															
コマダライモ	1															
アカシマミナシ	1															1
キバアマガイ	1	1	2							1				1		
ヤクシマダカラ		2	1			1	2	2	4					1	2	
マルサザエ																
スジグロニシキニナ										1						
フネアマガイ			1	2						1						
カノコガイ			1	3	4	1				1	5			1	2	
マドモチウミニナ										1						
ニシキアマオブネ								1		1				1		
ミカドミナシ				1		1				1						
リスガイ	3		4			4		1	1	18	4			8	1	1
クワノミカニモリ	1	1	1							2						
ソデガイ															1	
ハナダタミ							1	2		3				1		
クロカラマツ	1									1						
アカイガレイシ	1															
クチムラサキダカラ			1											1		
アツムシロ								5		1						
イワカワトキワガイ	1		1					1						1		
ジュセイラ	2		1	1												
チュウクワノミカニモリ			1													
シャチホコカニモリ	1															
オトメイモ	1															
ハラダカラ										1						
ムカシタモト	1		1							1					2	
オオゾウガイ	1	1												1		
コモシダカラ	1		1					1								
ニシキミナシ			1	2												
ツノマタ			1													
アンボイナガイ		1	1	1												
ヨメガカサ			1													
ナツメガイモドキ			2					1		1						
イボダカラ								1								
スソカケガイ																1
ウズラタマキビ						2										
ヒナツル												1		1		
リュウキウワノマタ								1								
ウノアシ																1
キクノハナガイ										1						1
タケノコカニモリ																
ピロウレイシガイダマシ																
カノコダカラ						1	1								1	
ヒメゴホウラ																
ホソスジテツボラ	1													1	1	
オオベソスガイ						1				1						
ルリガイ						1										
ヤキイモ				2				1								
ウミウサギ								1								
マツバガイ								1								
ヨコワカニモリ																
小計	28	7	37	14	18	7	24	4	49	13	4	0	37	14	5	0

Mトレンチ		Oトレンチ		Pトレンチ		表 採		12ビット		13ビット		16ビット		合 計		生息場所
完形	破片	完形	破片	完形	破片	完形	破片	完形	破片	完形	破片	完形	破片	完形	破片	
														2	0	Ce
1														11	3	Be
														1	0	C
														1	1	Ac
														1	0	Ca
														1	0	Ae
														1	0	Ad
	1													0	1	Cf
1														1	0	D
														2	0	Cd
														2	0	Ba
														5	0	Cb
														1	1	Ce
														1	0	A
														3	0	Ae
	1													5	2	Ce
														5	0	Ce
														4	0	Cd
1														10	0	Ce
	1													2	7	Be
														1	1	De
														1	1	a
														1	0	C
														1	0	
1														2	0	Cd
														2	0	C
														5	2	Ae
		1												9	7	Ce
2														2	0	D
	1													1	1	De
														3	4	Ed
6	4													17	14	E
														2	0	AEG
														3	0	Ad
														0	2	Dd
2		3	5		1					1	3			46	14	Ca
														4	1	De
														0	1	C
1														7	1	C
														2	0	C
														2	0	D
														1	0	Ae
1														8	0	D
														4	0	Ca
														3	1	Ce
														2	0	Bc
														1	0	
														1	0	C
														1	2	B
														3	0	Cd
														1	1	Ce
														3	0	Be
														1	3	C
														1	0	
														1	2	Ce
														1	0	Ae
														5	0	Ad
														1	0	Cf
														1	0	Ae
														2	0	AEc
														2	0	Cb
														1	0	Ce
														1	0	e
														2	0	Ae
1														1	0	Da
														1	0	Be
														1	1	Cd
														1	1	Ce
														1	0	Ce
														2	0	Ce
														1	0	
														1	2	C
														1	0	f
														1	0	Ae
														1	0	Ba
17	8	6	7	2	1	1	0	0	0	1	3	0	0	229	77	

第 6 表 貝 殻 集 計 表 ④

出土場所 種別	Hトレンチ		Iトレンチ		Jトレンチ				Kトレンチ				Lトレンチ			
	完形	破片	完形	破片	包含部		攪乱部		包含部		攪乱部		包含部		攪乱部	
					完形	破片	完形	破片	完形	破片	完形	破片	完形	破片	完形	破片
腹足綱																
キヌカツギ					1											
スジイモ																1
ツヤギセル	1		2				10		1		2		7			
イトカケツクシ																
ウシアシ																
ジュドウマクラ																
オナジマイマイ									11	7						
パンダナマイマイ	30	20	34	10	26	16	42	23	155	45	3	5	46	30		1
ヤンバルマイマイ	50	14	47	13	1	2	1		59	17			15	3		
オキナワヤマタニシ	68	4	70	8	72	13	66	4	389	30	16	1	125	16	9	
イハヤマトモマイマイ											2					
カプトサンゴヤドリ																
シロアンボイナ																
シオボラ			1													
ミウニツノガイ	1		4		1											
タガヤサンミナシ				1												
ホシキヌタ																
イボフトコロ								1						1		
ケズメカノコ									1							
キンチャクギセル	1									1						
カヤノミカニモリ										1						
イトマキミヤシロ	1															
イシダミアマオブネ												1				
トウダカハマズト										1						
カヤノミガイ														1		
ハシナガツノブエ								1								
スクミウズラ																
シマベッコウバイ			1												1	
オリイレヨフバイ																1
イボヨフバイ							1									
ヒメヨフバイ					1									1		
カスリシマベッコウバイ	1															
アジロイモ			1													
ツノレイシ			1													
イガカノコガイ										1						
ムシロガイ			1													
コウダカカラマツ										1						
タケノコカワニナ			1													
ネコガイ				1												
ツタノハガイ			1													
ホソコモンマクラ	1															
トミガイ			1													
キイロツノマタモドキ			1													
シュモクアオリ											2					2
ツタノハ科		4		6		13		1		13		1		16		2
ニシキウズ科		27		34		23		11		65		2		43		2
イモガイ科	2	12	1	23	1	13	1	9		12		6		19		8
アマオブネ科		2		11		18	2	3		72		1		42		24
ダカラガイ科		15	3	28		17		8	1	54		5	2	63	1	
ソデガイ科	1	54		93		47		17	2	256		2	2	125		28
マクラガイ科																1
アッキガイ科						1				3	1	1		1		1
クモガイ科				5		7										3
フジツガイ科				1												
オニツノガイ科				1			1	1								
イトマキボラ科		2		6				2		9		2				6
ミミガイ科		1	1	2		2				10						2
タマガイ科				4										1		6
スイショウガイ科										2						
フジツガイ科				7						7						
カラマツガイ科				7						3						7
オキニシ科										1						
ウミニナ科														1		
フデガイ科			1													
Conus Omaria	1		4						2					1		
不明	2	200	1	225	2	179			75	23	763		23		272	50
小計	160	355	177	486	105	351	125	155	650	1,369	25	49	203	658	11	116
合計	3,718	1,715	5,052	2,781	9,007	2,974	1,632	950	26,941	9,998	638	419	21,010	6,803	1,552	920

Mトレンチ		Oトレンチ		Pトレンチ		表 採		12ビット		13ビット		16ビット		合 計		生息場所
完形	破片	完形	破片	完形	破片	完形	破片	完形	破片	完形	破片	完形	破片	完形	破片	
														1	0	De
														0	1	Cb
								2						25	0	F
										1				1	0	Da
										1				1	0	
								1						1	0	Cb
														11	7	F
28	3	1						4	1	2	2			371	156	F
								1						174	49	F
39	6	2	1					15			5			871	88	F
														2	0	
1														1	0	D
		1												1	0	C
														1	0	De
														6	0	
														0	1	De
1														1	0	B
														2	0	
														1	0	
														1	0	F
														1	0	Dd
														1	0	C
														1	0	e
														1	0	
														1	0	Dag
														0	1	
		1					1							2	0	
														1	1	
														1	0	
														1	0	
														2	0	
														1	0	
														1	0	
														1	0	
														1	0	
														1	0	
														1	0	Ae
														1	0	
														0	1	
														1	0	Ce
														1	0	
														1	0	
														0	4	C
														0	59	
	3													0	229	
	19		2							1				7	112	
	5			1	1			1		3			1	5	178	
	2							2		3	1			7	203	
	6							1		3		3		5	695	
	38		20		2					3		6		4		
														0	1	
														1	7	
	1													0	21	
	6													0	1	
														1	2	
			1		1					3				0	32	
														1	18	
	1													3	10	
														0	13	
	6													0	17	
														0	7	
														0	1	
														2	0	
														1	0	
														8	0	
		141	1	13	2					6		16		31	1,963	
70	237	6	37	3	4	1	2	25	23	5	32	1	4	1,567	3,877	
2,851	1,668	354	238	56	66	9	10	241	178	107	185	11	10	73,179	28,914	

(2) 脊椎動物遺存体

本貝塚の動物骨は、リュウキュウイノシシ（以下イノシシと略記）とジュゴン、そして多数のブダイ科を中心とする魚類と少数の甲殻類であった。本稿では、筆者の専門である獣骨について記載する。

まず、動物種はイノシシとジュゴンの2種であった。出土骨と歯については表に分類・整理して示した。イノシシの個体数は左下顎第3後臼歯（ヒトの智歯または親知らずに相当）が4本区別できたので4個体分と、またジュゴンは1個体分と判断した。性比に関して、イノシシでは左下顎犬歯が3本出土して「無根歯」なので、「雄・3例」は確実であり、全例が雄である可能性もある。無根歯とはゾウの牙（第2切歯）、ネズミ類の第1切歯のように一生涯伸張する性質を有する歯のことで、イノシシの「原始的な」一面として指摘されている。しかし、雌のイノシシにおける犬歯は「有根歯」であり、萌出後は磨滅するのみなのであるが、その程度により年齢の推定も可能である。

左下顎犬歯が1本出土し、欠けた部位もなくほぼ正常に近い状態であった（写真1）。多くの民族・部族が雄の犬歯をアクセサリーや小型のナイフの代替物として、今日でも利用している。この遺跡の人々は犬歯の利用に関心がなかったようである。ジュゴンは頭頂骨の隆起の少ない点より雄ジュゴンの標本と比較して「雌」と判断した。今回の出土骨の出現状態は、骨蓋では下顎骨に片寄って出土している。また、前・後肢の末梢骨（前肢では手根骨・中手骨・指骨）などがまったくない。ジュゴンでまともなのは肋骨のみである。これらはこの遺跡の人為的破壊の程度の大きかったことを反映していると考えられた。



写真7 ジュゴンの骨出土状況 (K-98)

第7表 哺乳類・出土骨のまとめ

部位	イノシシ	ジュゴン
頭蓋	<p>右 下 顎 犬 歯 2</p> <p>左 下 顎 犬 歯 3</p> <p>右下顎第2前臼歯 1</p> <p>右下顎第3前臼歯 1</p> <p>右下顎第4前臼歯 1</p> <p>左下顎第2前臼歯 1</p> <p>左下顎第4前臼歯 2</p> <p>右下顎第2後臼歯 1</p> <p>右上顎第2後臼歯 2</p> <p>右下顎第3後臼歯 3</p> <p>左下顎第1後臼歯 2</p> <p>左下顎第2後臼歯 3</p> <p>左下顎第3後臼歯 4</p> <p>右 下 顎 骨 2</p> <p>左 下 顎 骨 3</p> <p>下顎骨 (破片) 4</p> <p>右下顎骨吻端部(破片) 1</p> <p>鼻骨 (破片) 1</p>	<p>頭 頂 骨 1</p> <p>6</p> <p>15</p>
脊椎	<p>肋 骨 破 片 1</p>	<p>右第8肋骨 1</p> <p>左第16肋骨 1</p>
前肢	<p>右上腕骨遠位端 1</p> <p>右尺骨骨幹(破片) 1</p>	
後肢	<p>左大腿骨骨幹部 1</p>	



写真1
イノシシ、左下顎犬歯

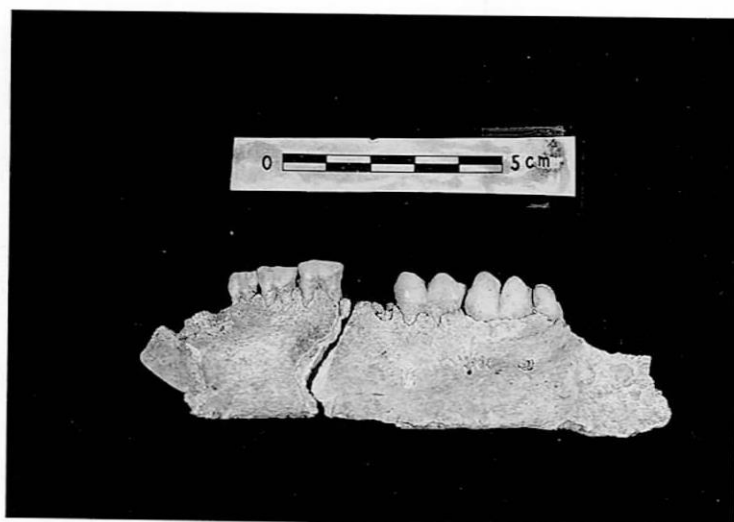


写真2
イノシシ、右下顎体



写真3
イノシシ、右上腕骨

写真8 脊椎動物遺存体

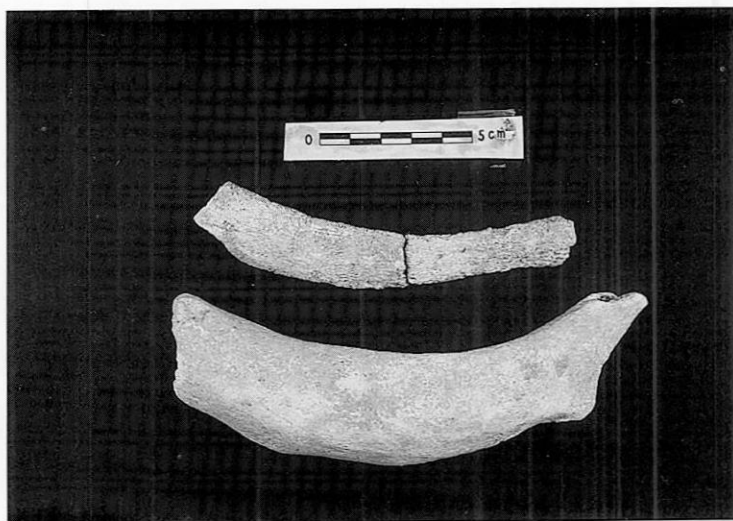


写真4

ジュゴン

左第16肋骨(上)

右第8肋骨(下)

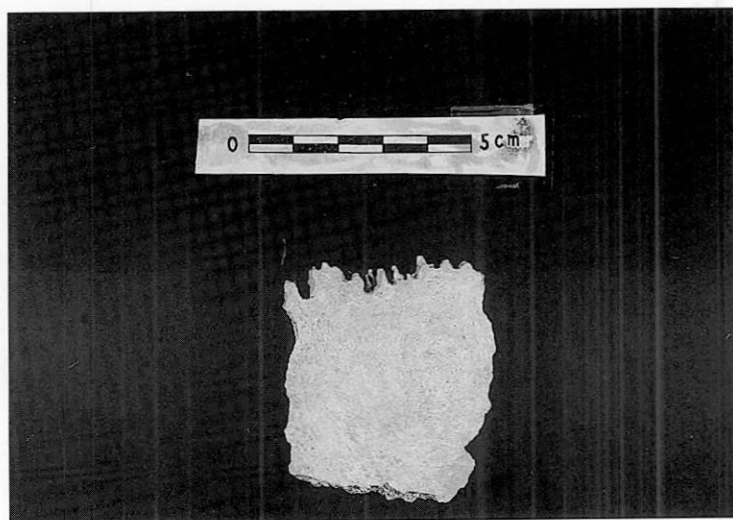


写真5

ジュゴン 頭頂骨

写真9 脊椎動物遺存体

IV 調査の成果と課題

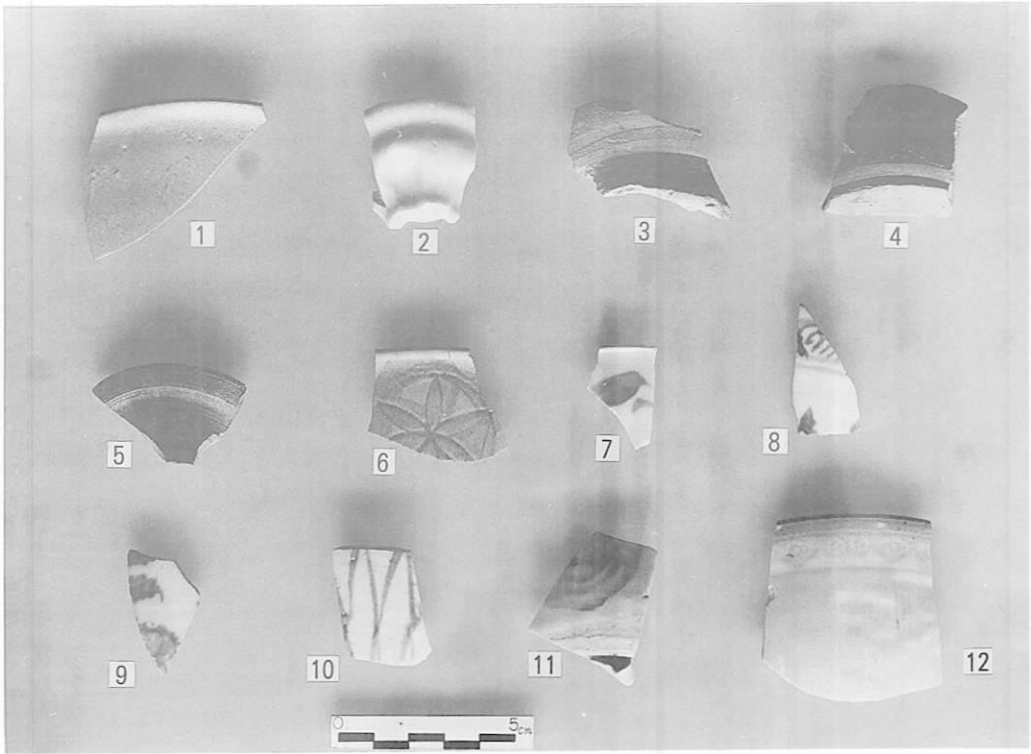
部瀬名貝塚は、部瀬名岬に含まれる臨海砂丘地に形成された貝塚で、南西部に東シナ海、背後に丘陵地が迫るといふ山原特有の立地を示している。

今回の調査は、すでに述べたようにプセナリゾート開発に伴う緊急発掘調査で、旧海中公園内のほとんどがアスファルトに覆われた部分が調査対象地であった。

アスファルト及び客土の部分を取り除くと、遺物包含層が確認され、掘り下げるにしたがい遺物が豊富に出土するようになった。土器の大半は、大形の甕や鉢形土器で、稀に小形の土器も見られたが、器種は乏しかった。底部では、沖縄貝塚時代後期の遺跡からよく出土する乳房状尖底が最も多く出土した。土器の文様については、無文土器が主体をなしているが、曲線文や弧文を施したものや凸帯文を有する土器も出土している。また、断面三角形の凸帯を施す弥生系の土器の胴部が出土しており、九州との関わりも示唆されている。自然遺物については、大量の貝類及びジュゴンやイノシシの骨が出土しており、貝塚人たちの食生活を垣間見ることができた。

今回の調査地では、沖縄貝塚時代後期の遺物や多量の貝類を含む包含層の確認はできたものの、その上部及び周辺で採砂による大規模な破壊を受けていることがわかり、遺跡の広がりや住居跡は発見することができなかった。

部瀬名貝塚は今回調査した海岸側の他、国道58号線を隔てた山裾まで、その広がりが予想されている。本報告は、プセナリゾート開発にかかる範囲のみの調査で、貝塚全体の調査ではない。今後、機会をあらため遺跡全体を把握する調査を行っていきたいと思う。



(表)

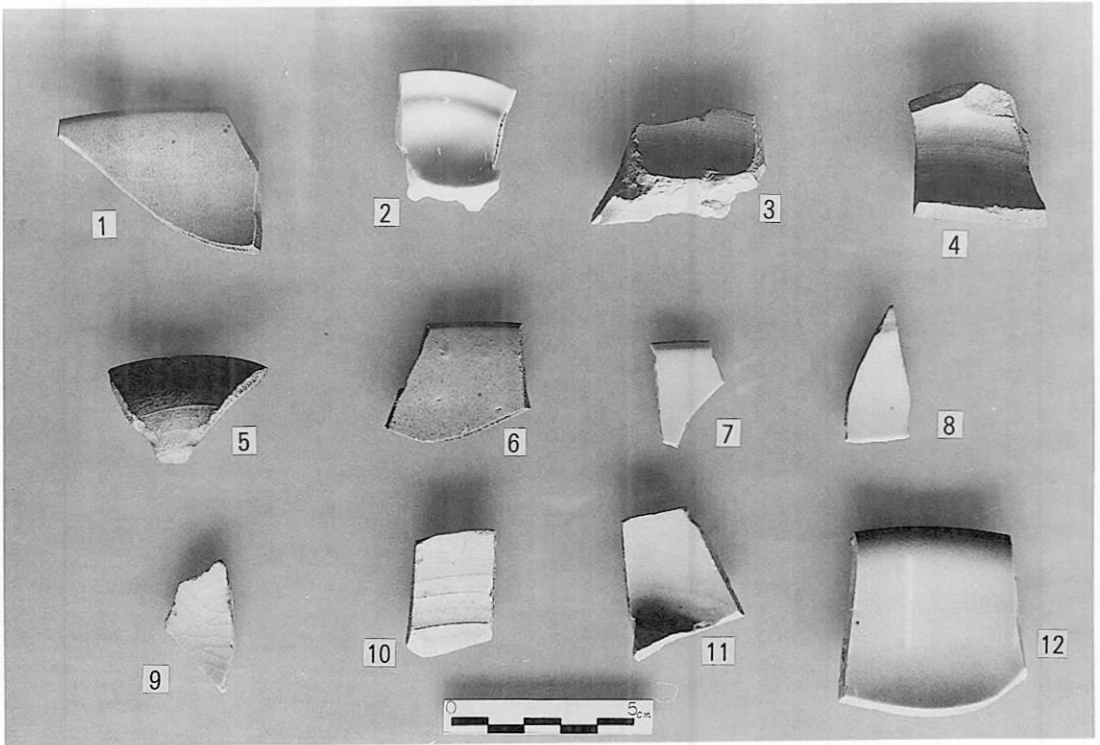


写真10 陶磁器表裏面



写真11 石器表裏面

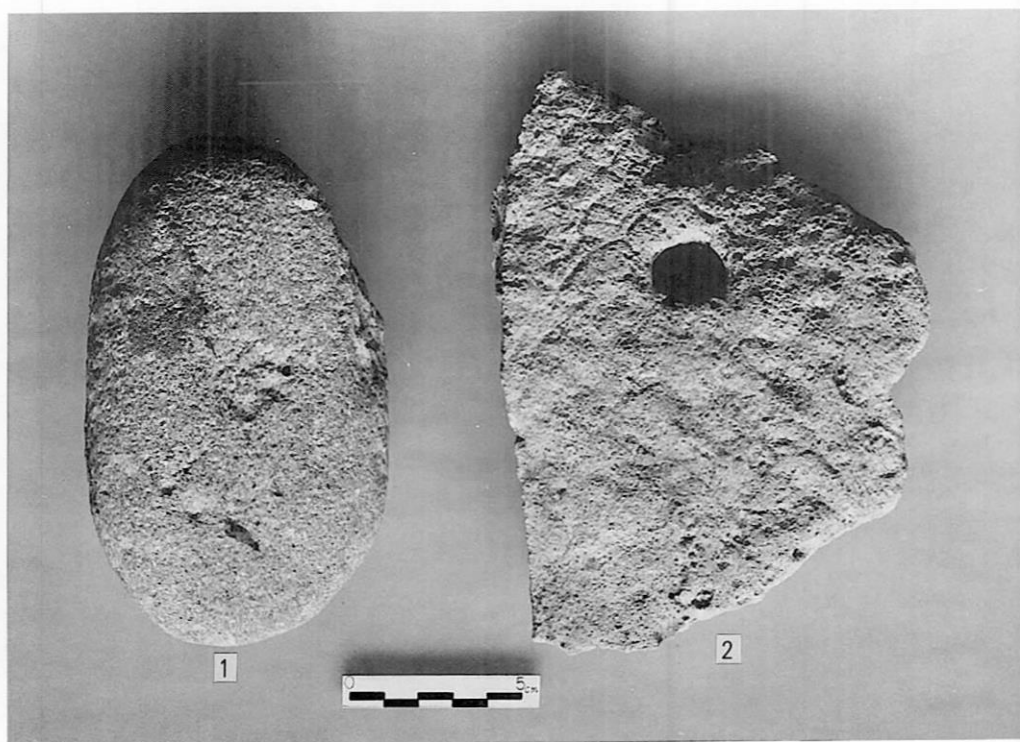
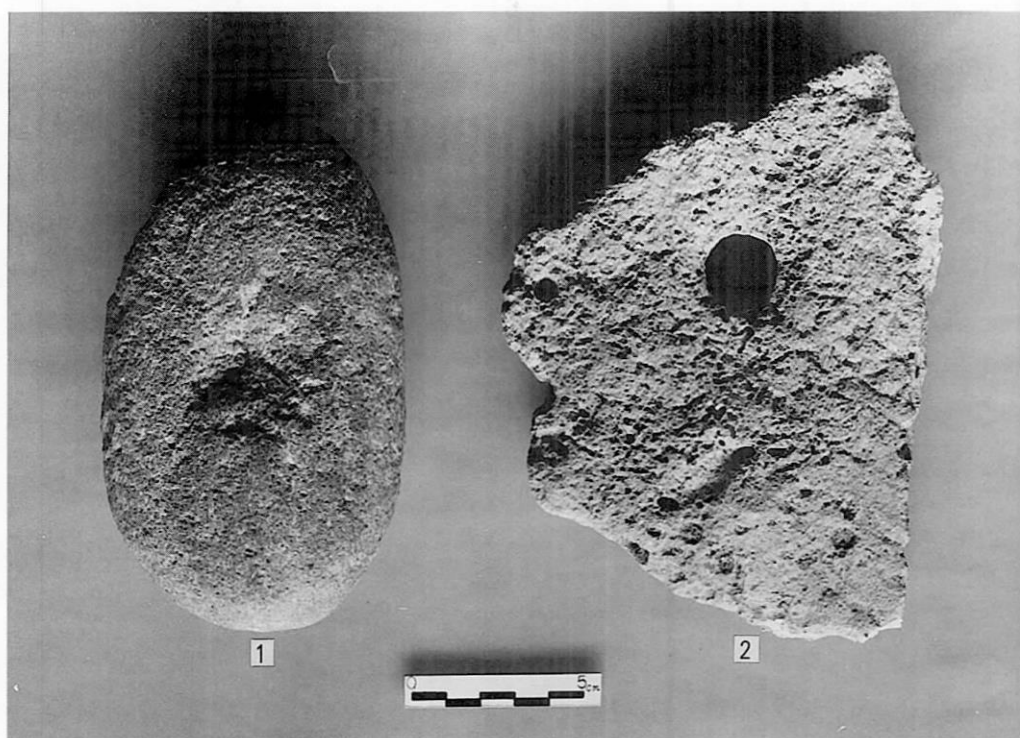
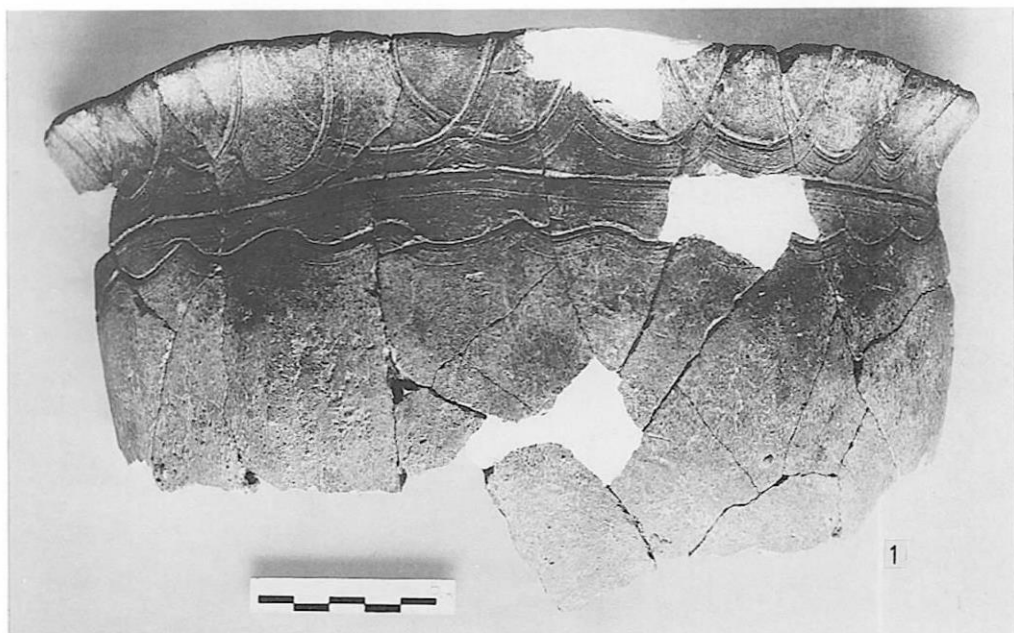


写真12 石器表裏面



(表)

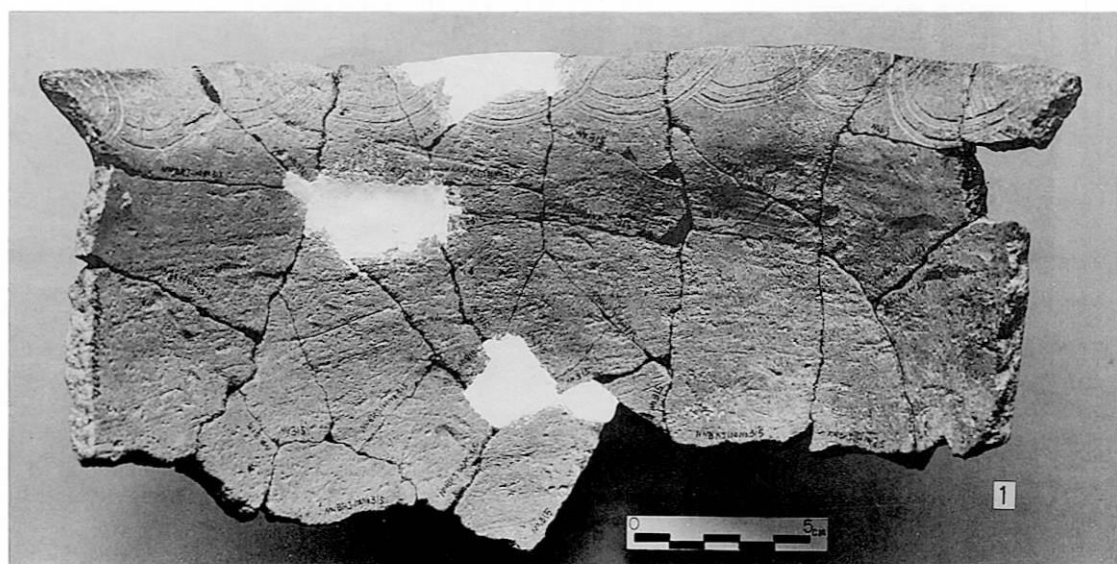
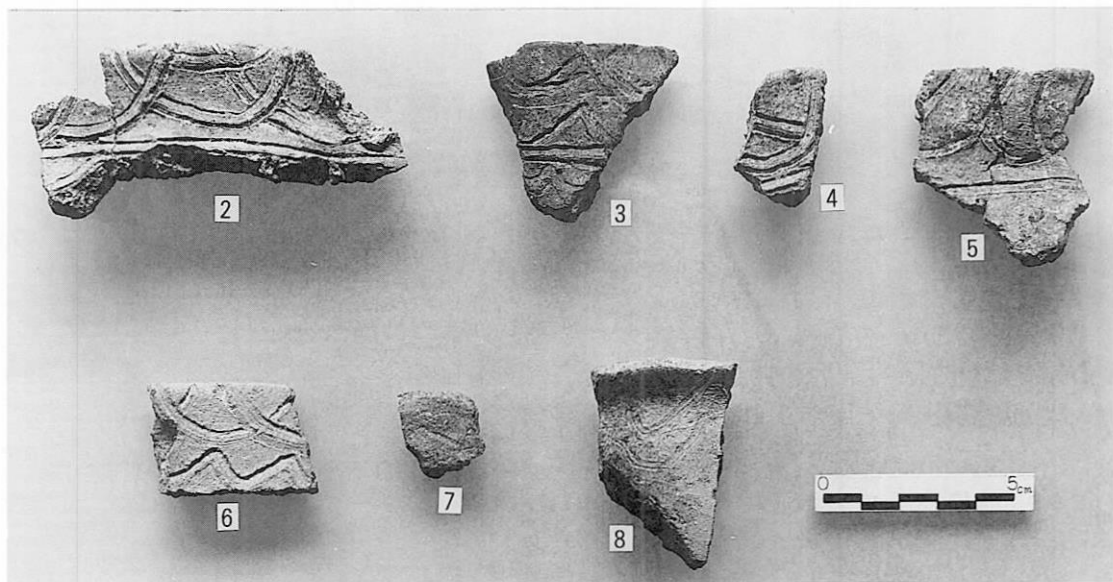


写真13 土器有文口縁表裏面



(表)

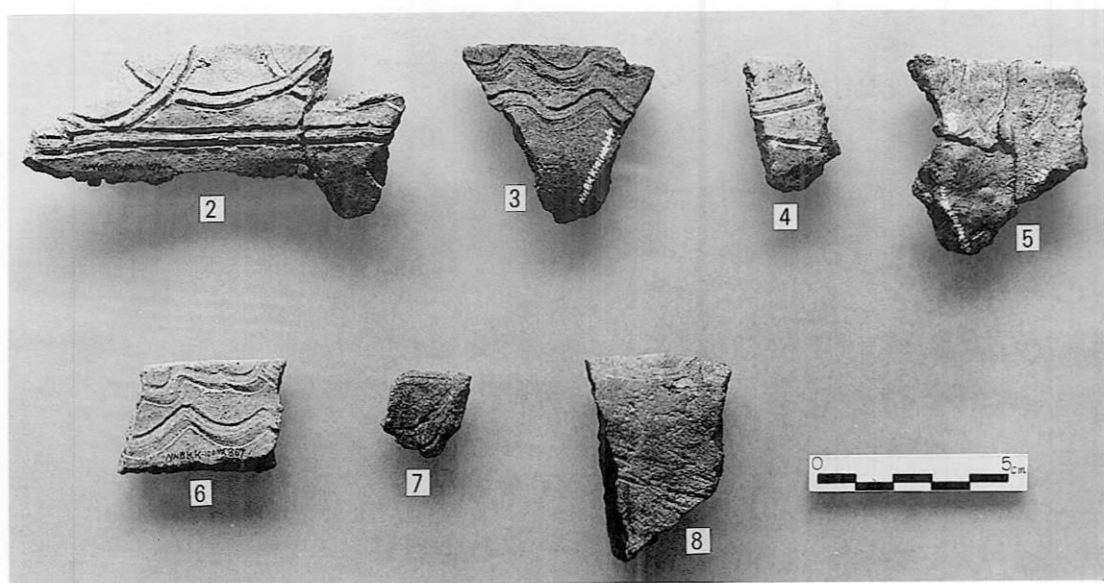
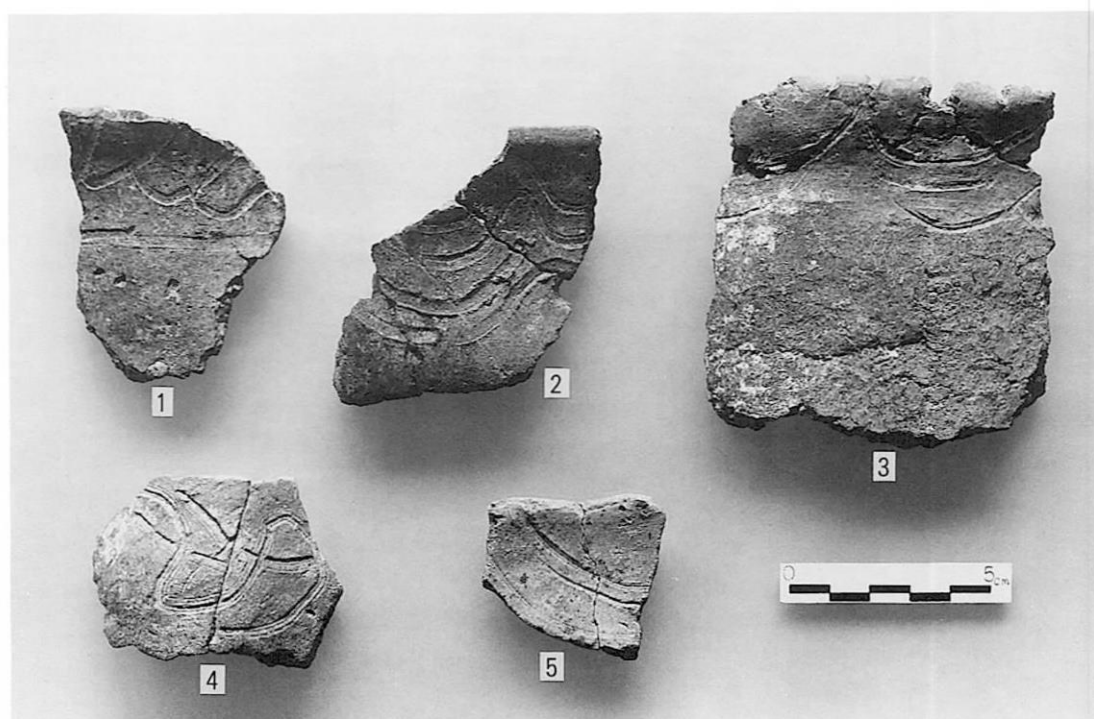


写真14 土器有文口縁表裏面



(表)

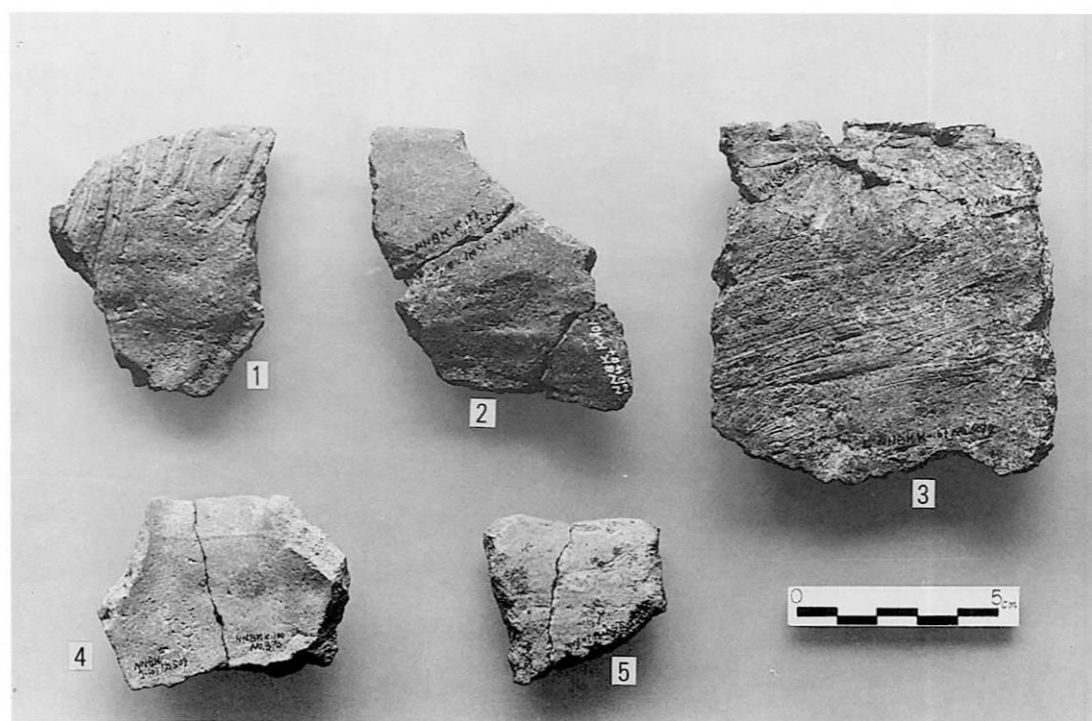
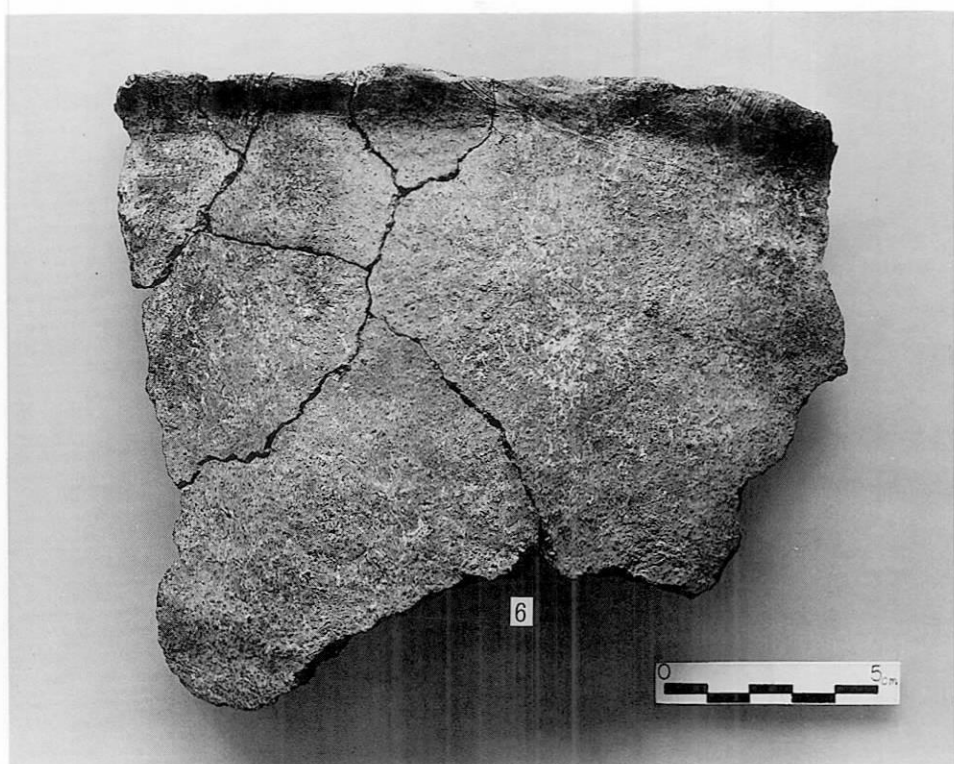


写真15 土器有文口縁表裏面



(表)



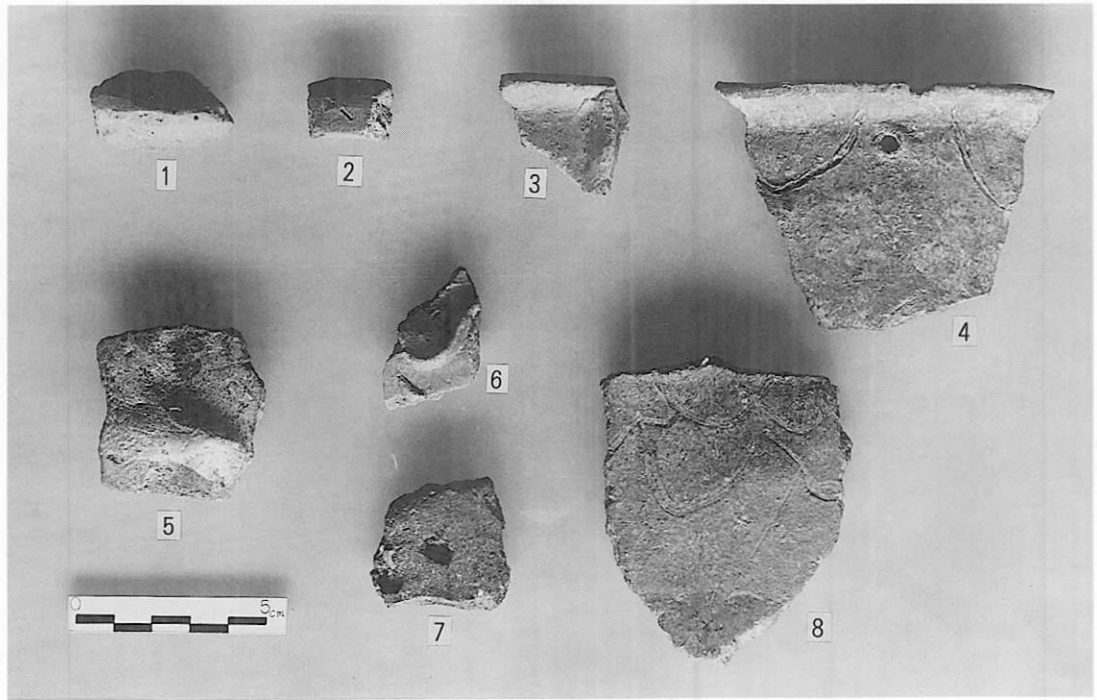
写真16 土器有文口縁表裏面



(表)



写真17 土器有文口縁表裏面



(表)

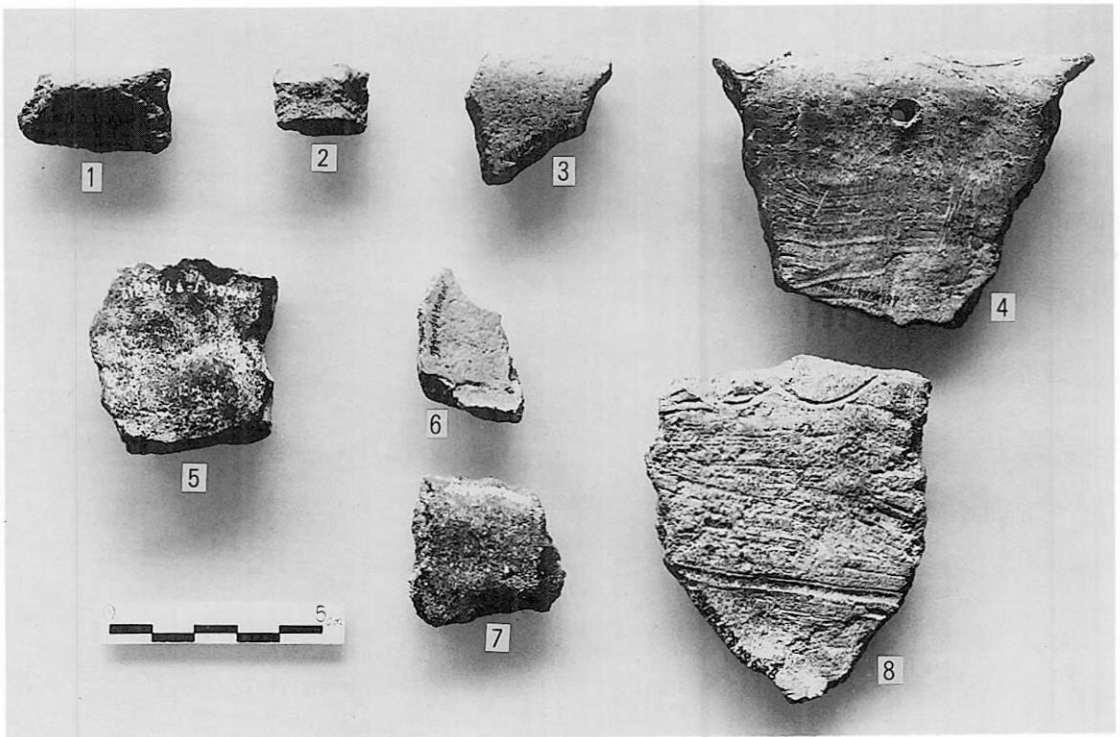
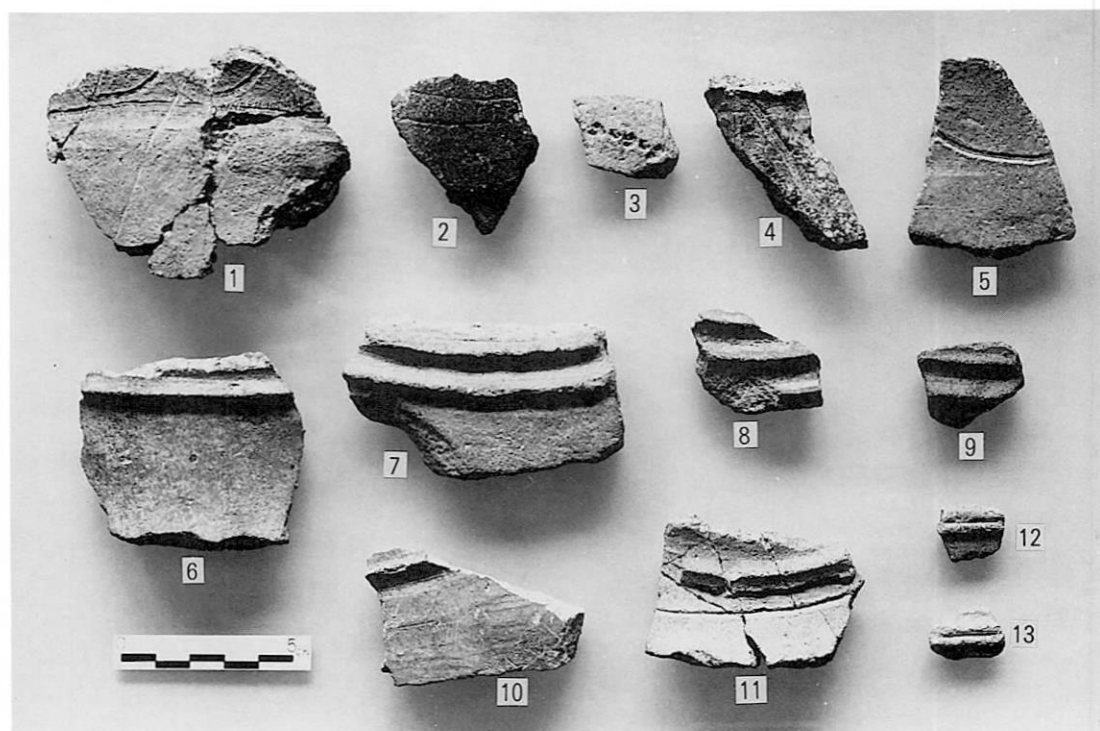


写真18 土器有文口縁・胴部表裏面



(表)

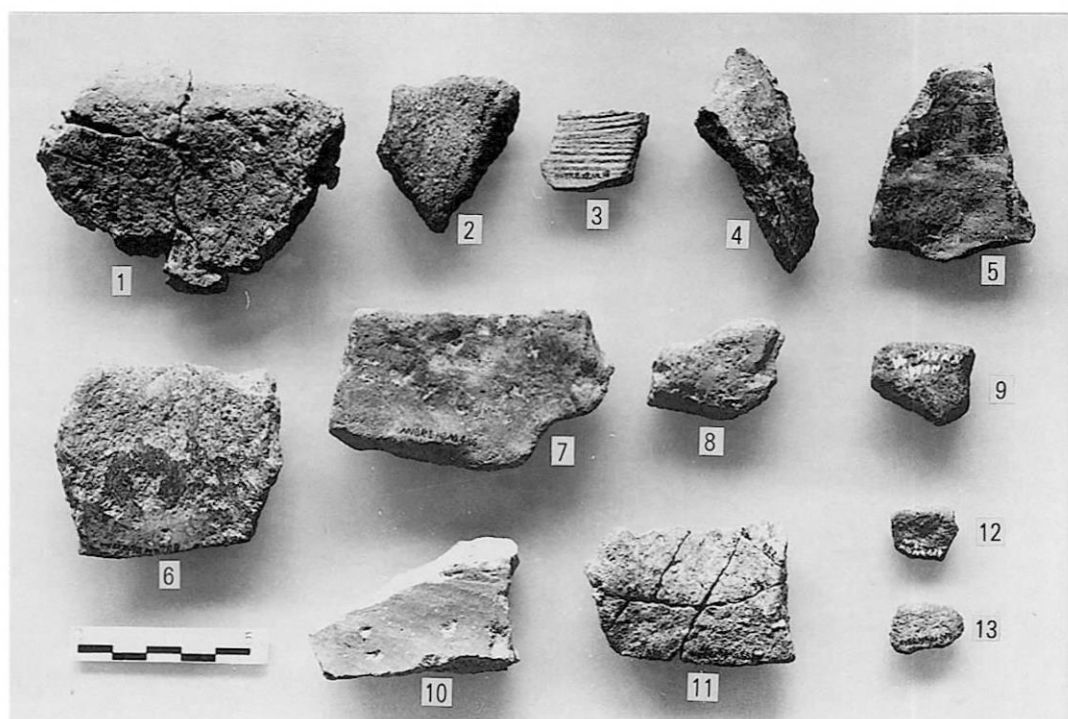
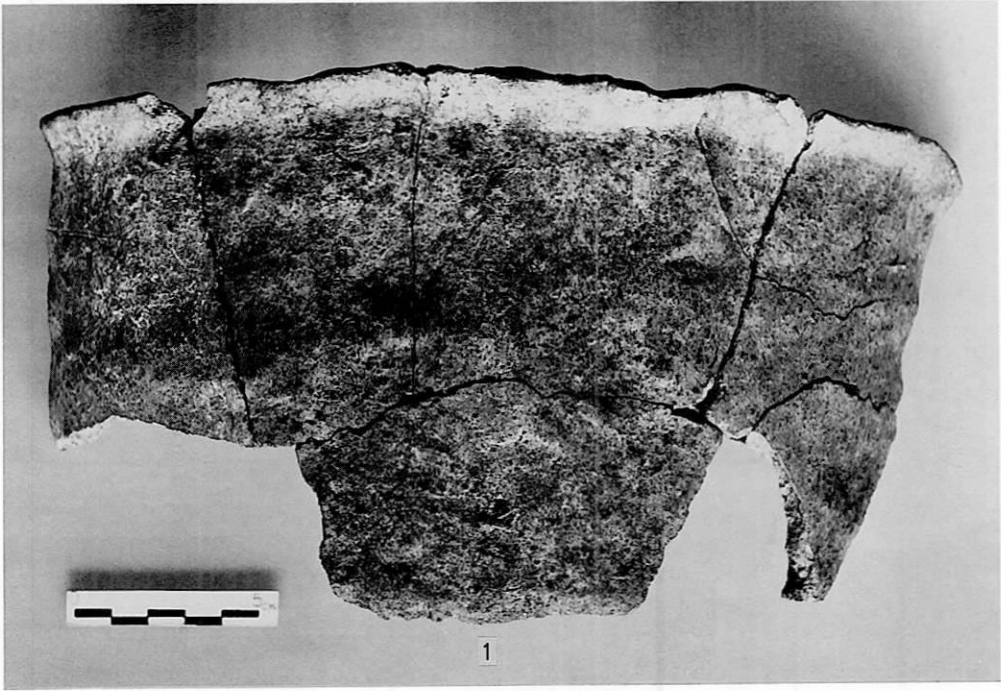


写真19 土器有文胴部表裏面



(表)

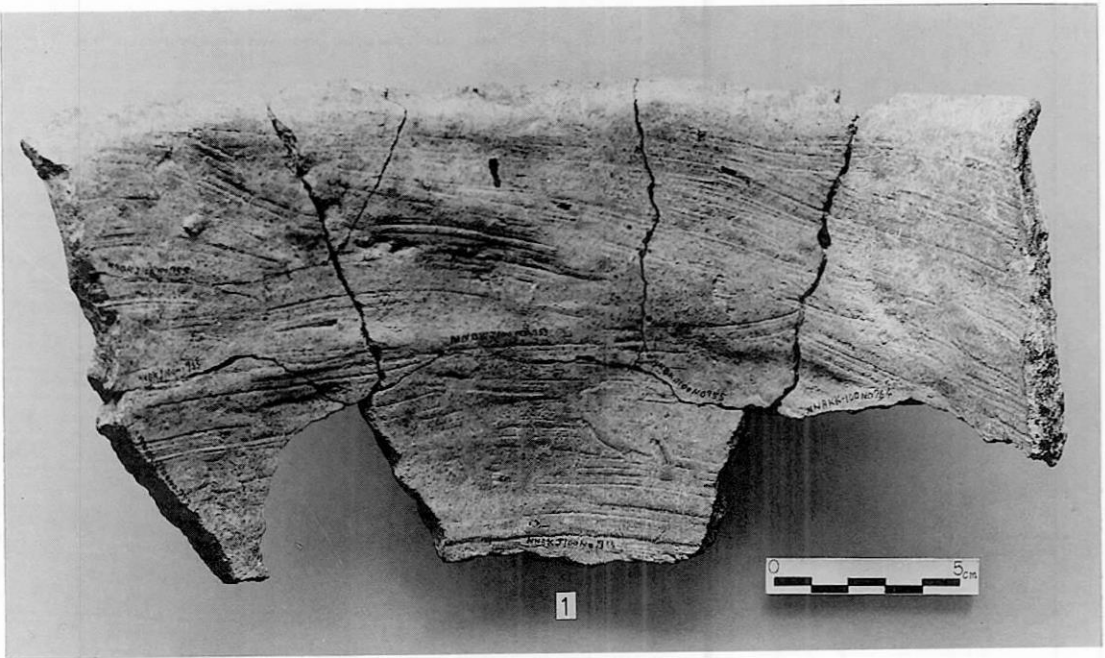


写真20 土器無文口縁表裏面

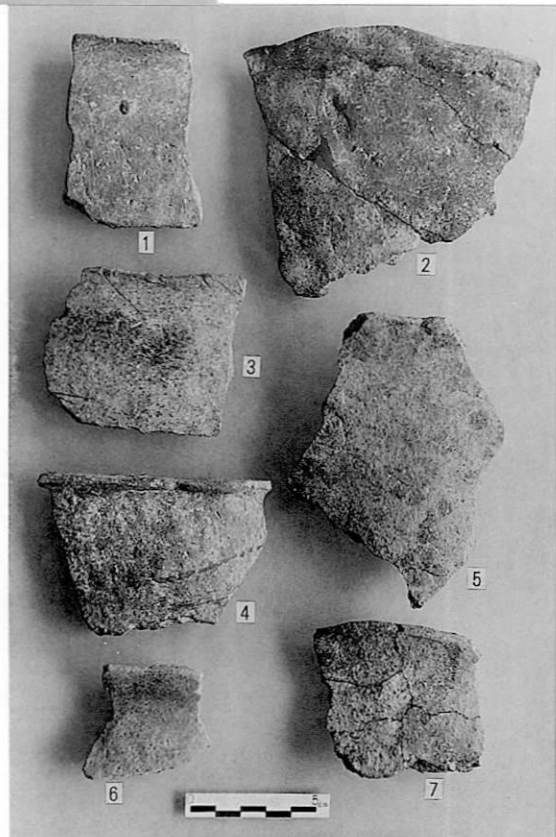
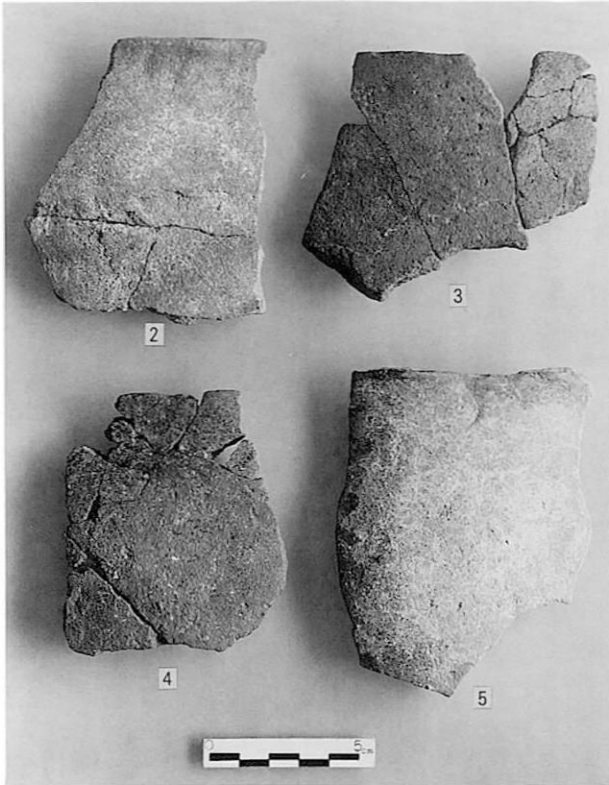


写真21 土器無文口縁

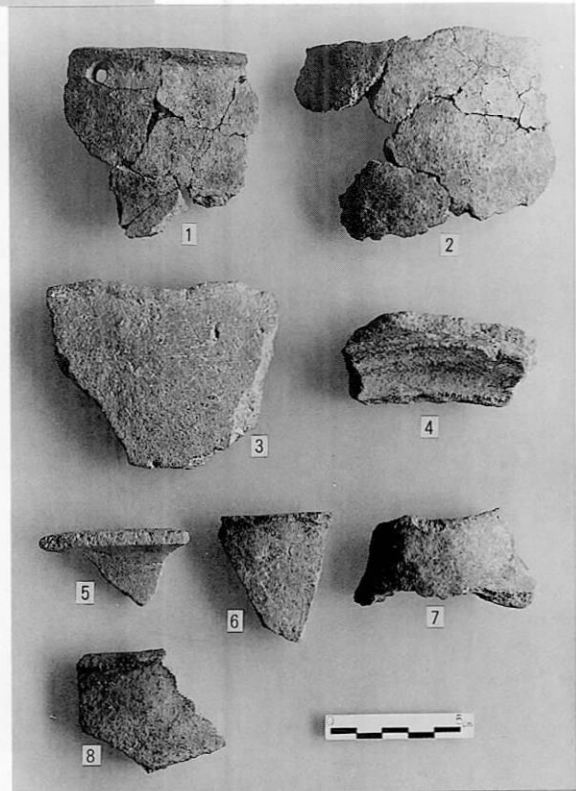
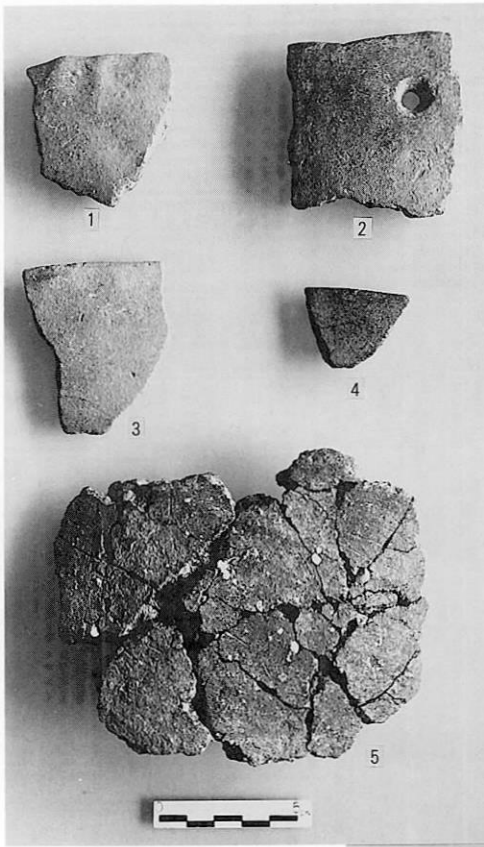
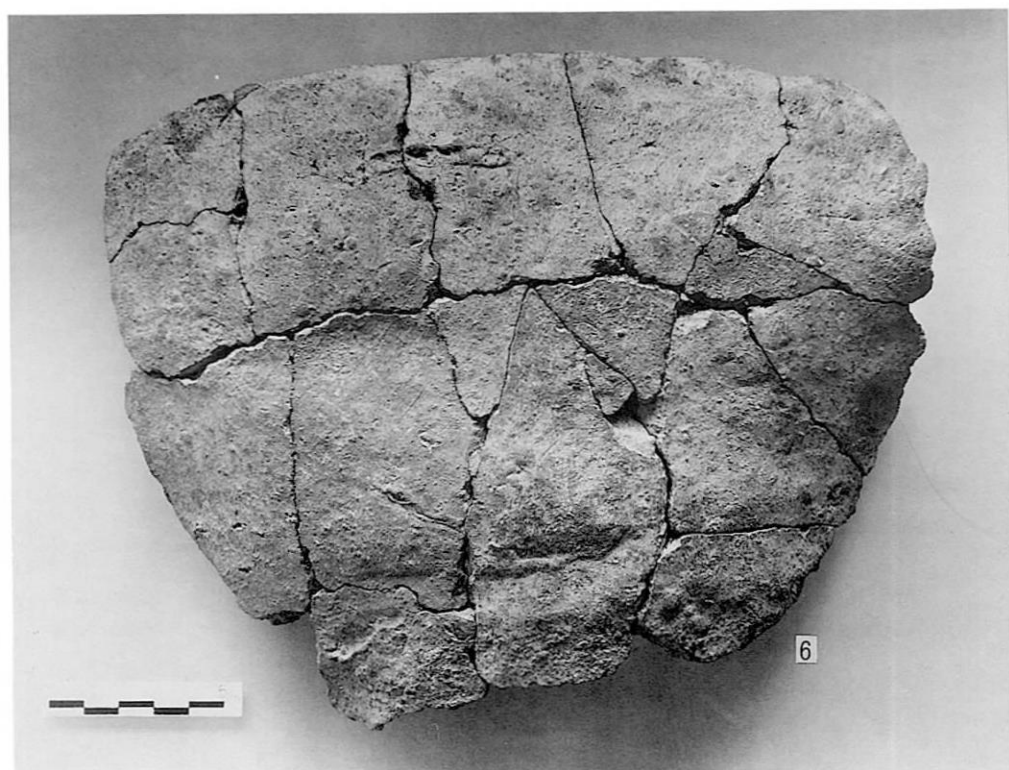


写真22 土器無文口縁



(表)

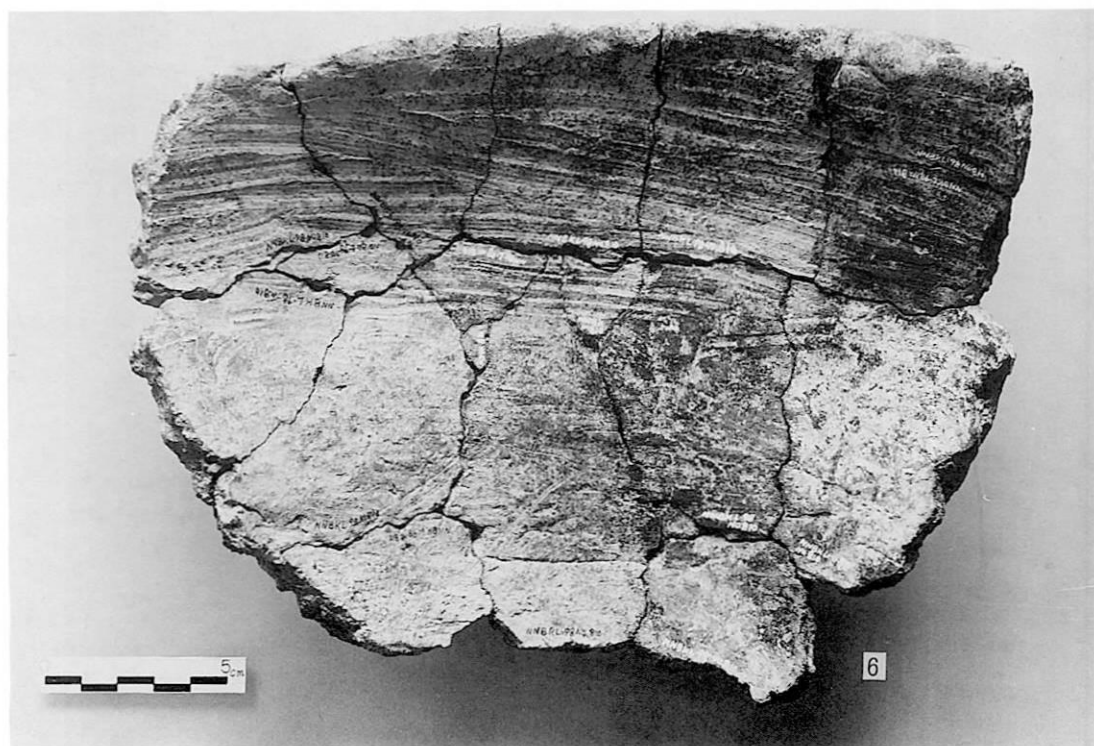


写真23 土器無文口縁表裏面

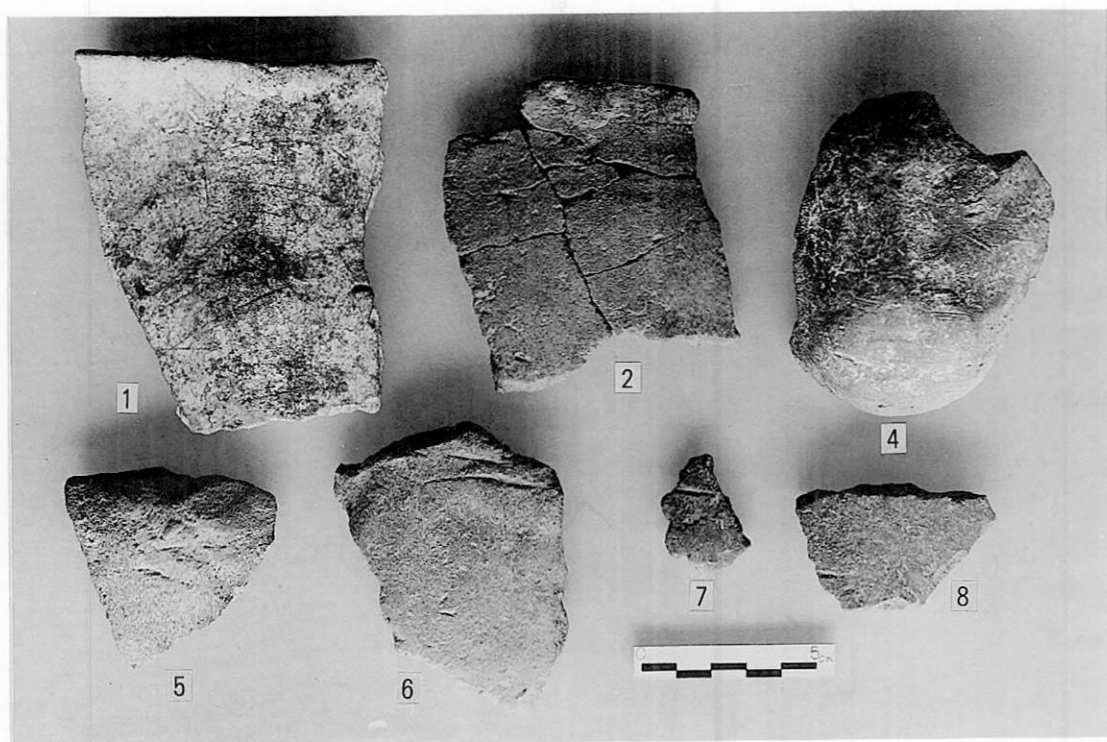


写真24 土器無文口縁・胴部

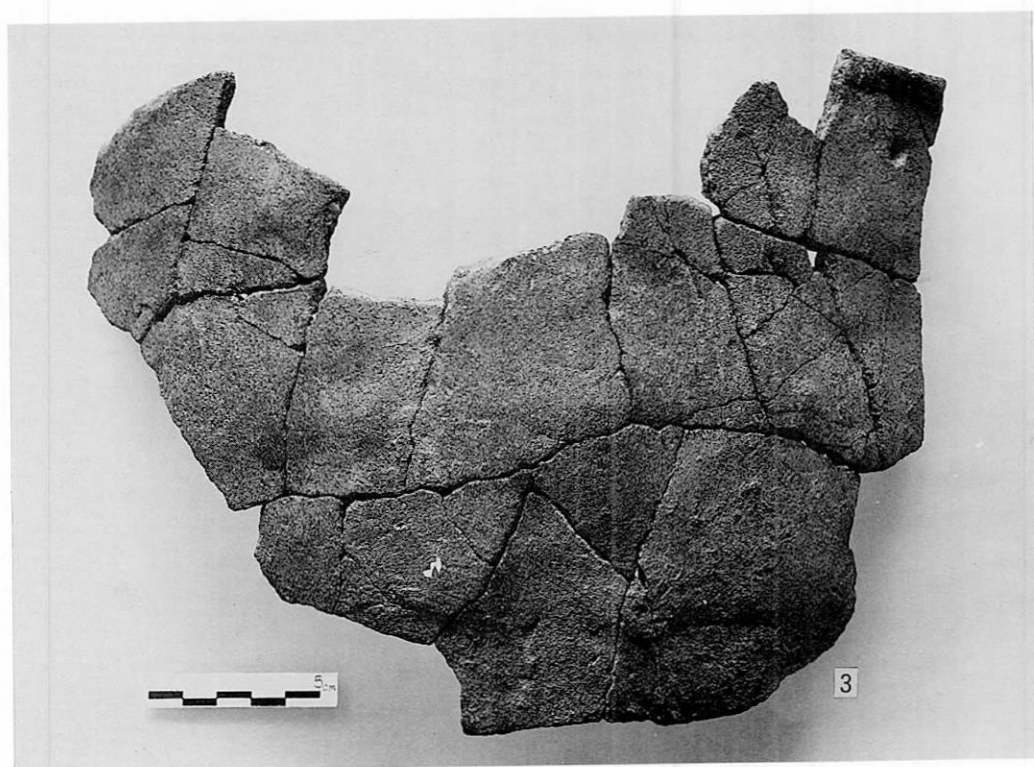


写真25 土器無文口縁

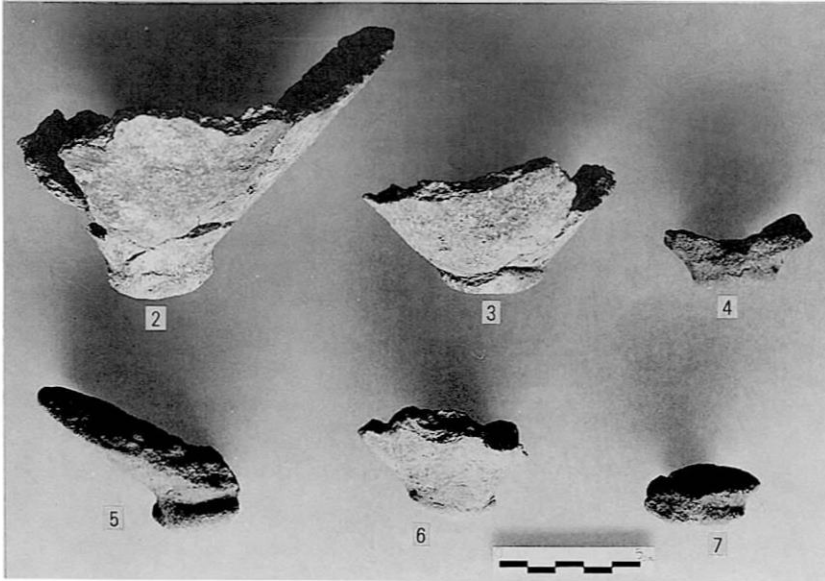
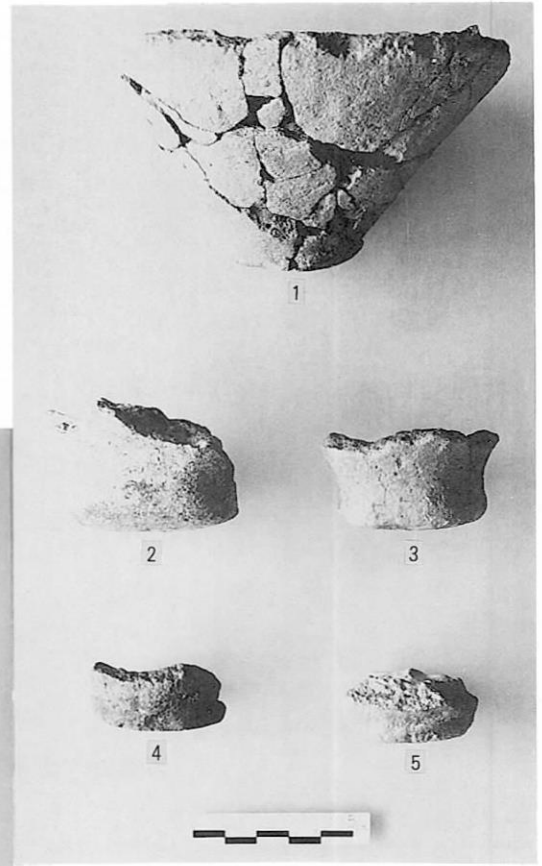
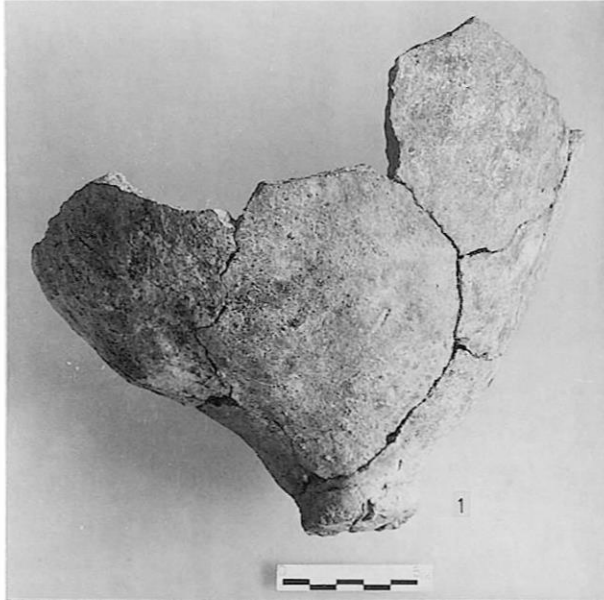


写真26 土器底部

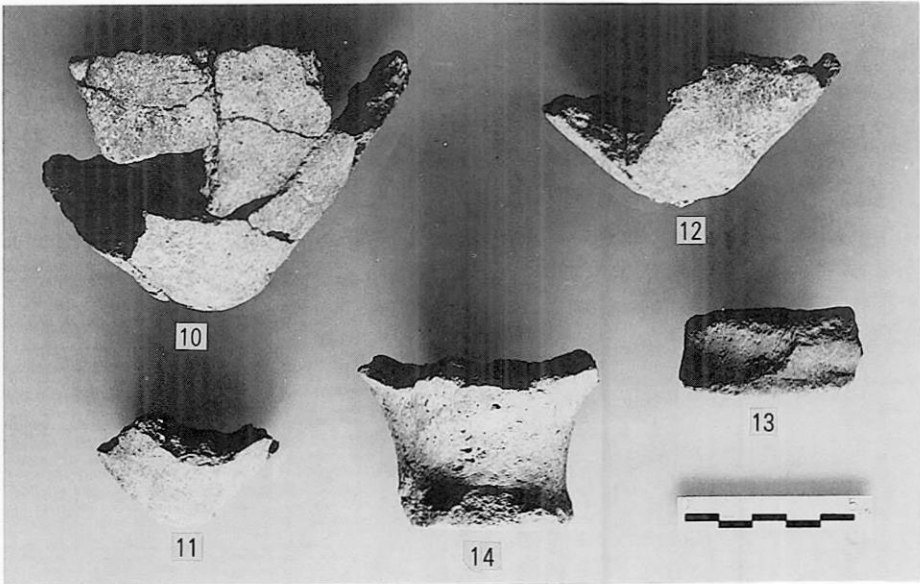
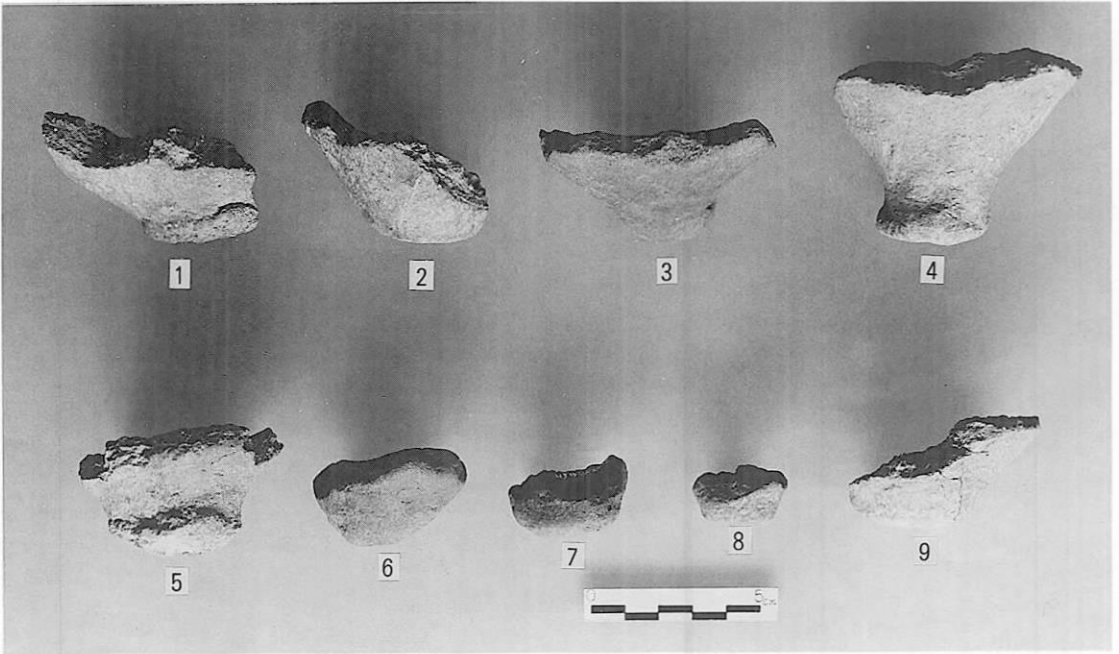


写真27 土器底部

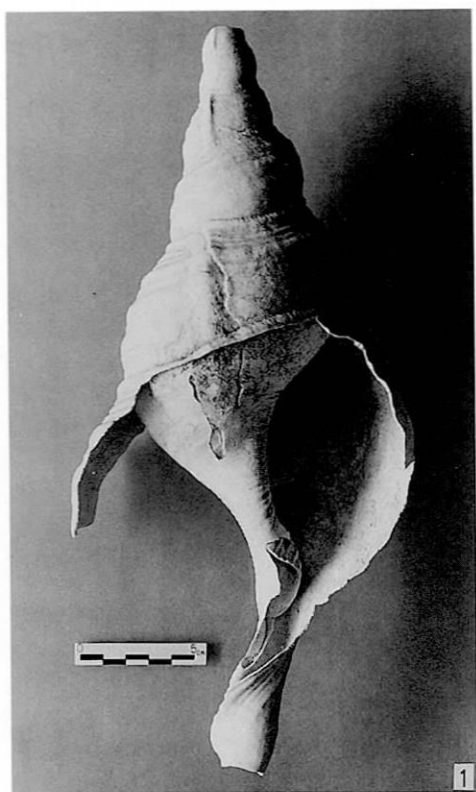


写真 28 貝 製 品

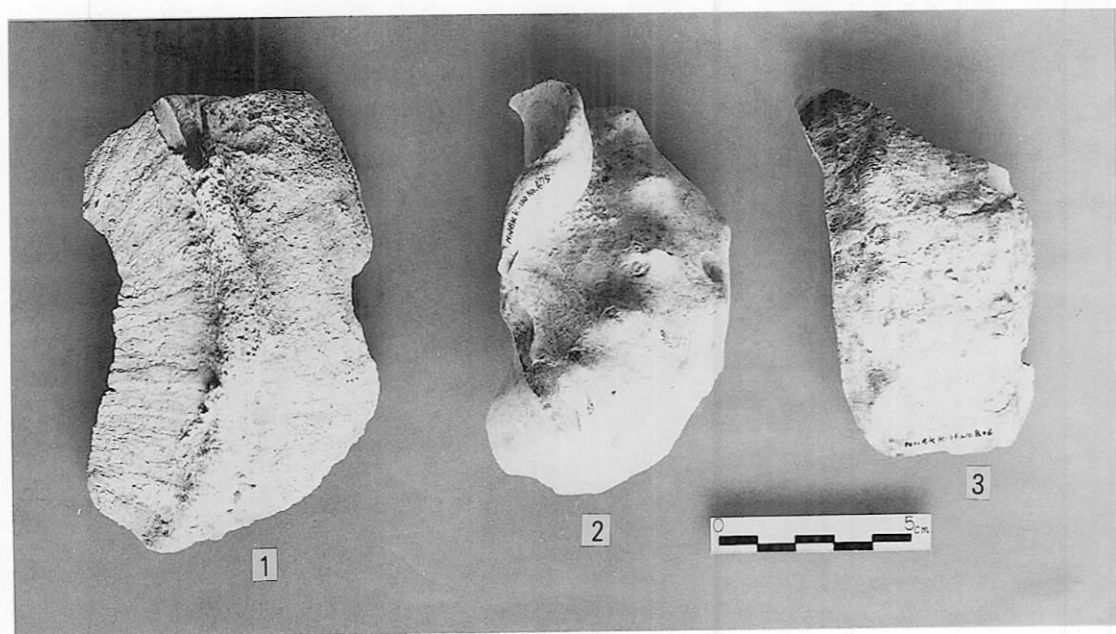
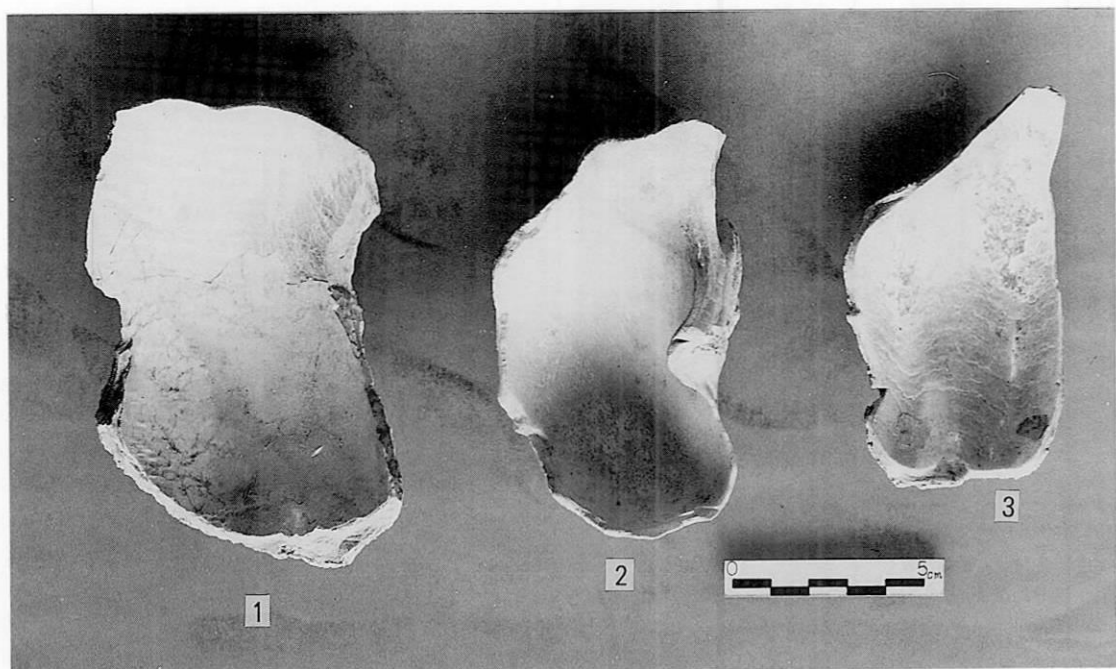


写真 29 貝 製 品

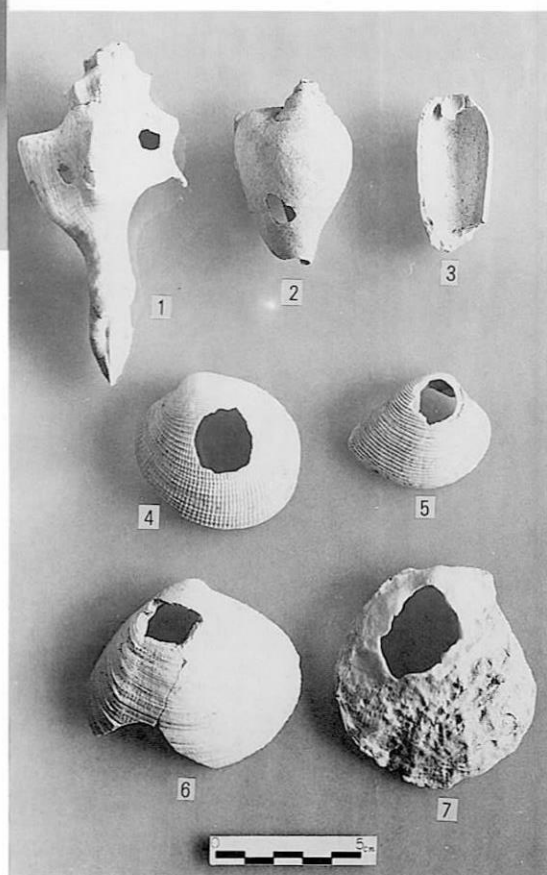
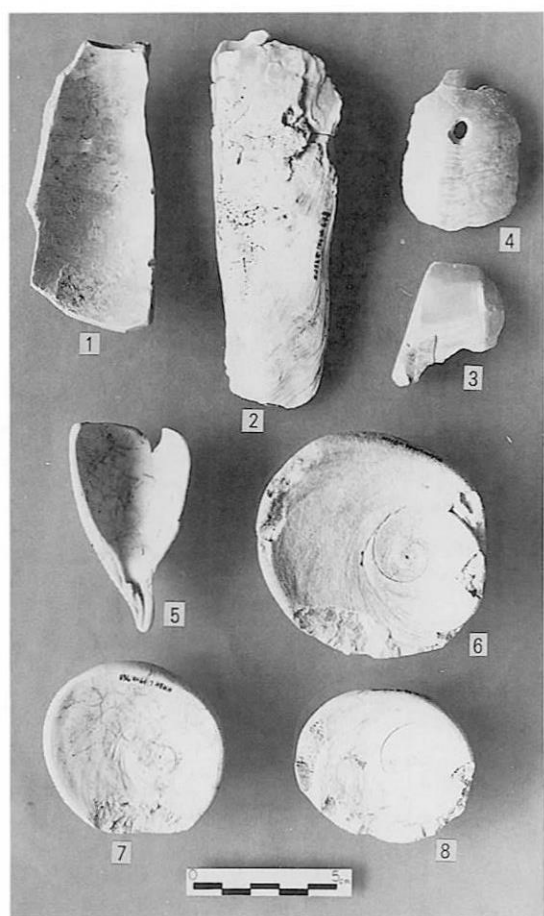


写真30 貝製品

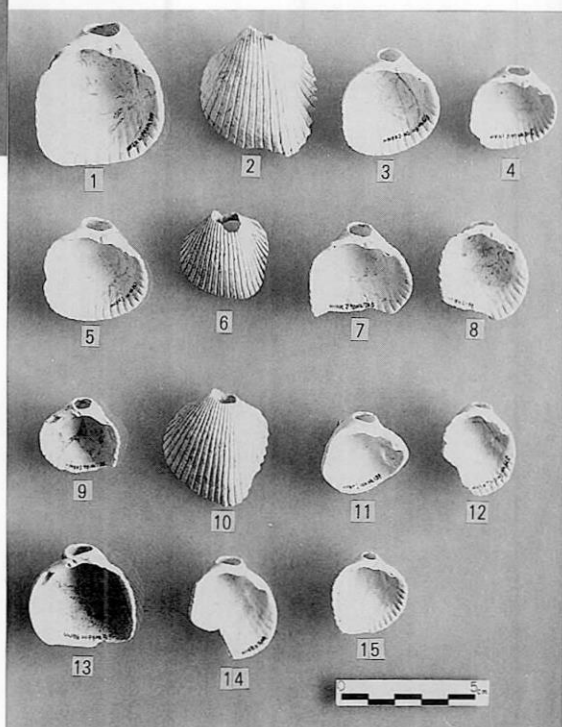
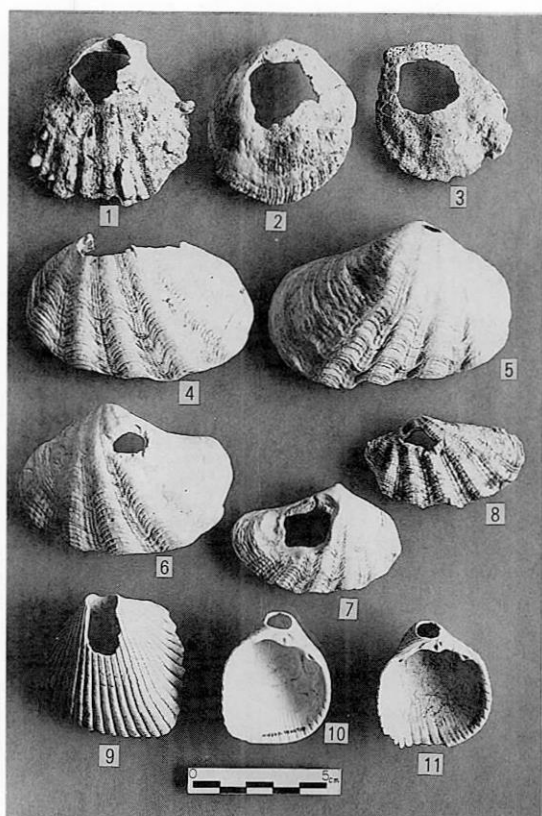


写真31 貝製品

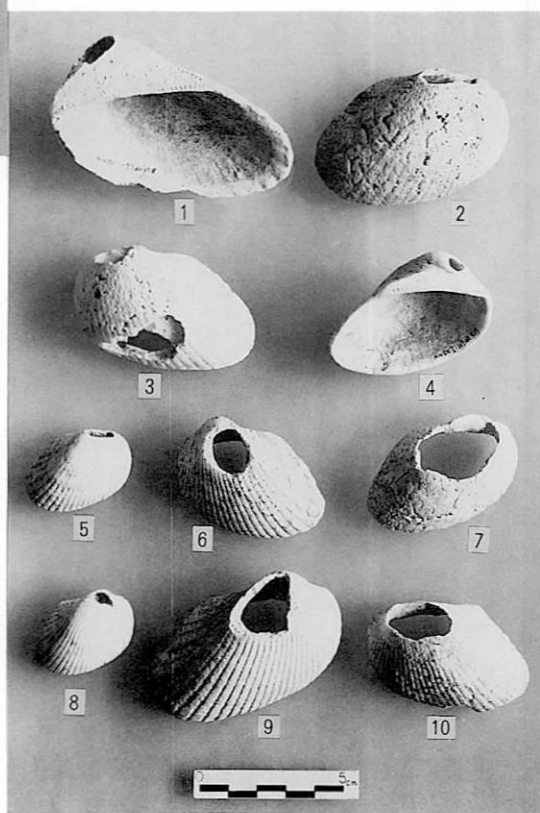
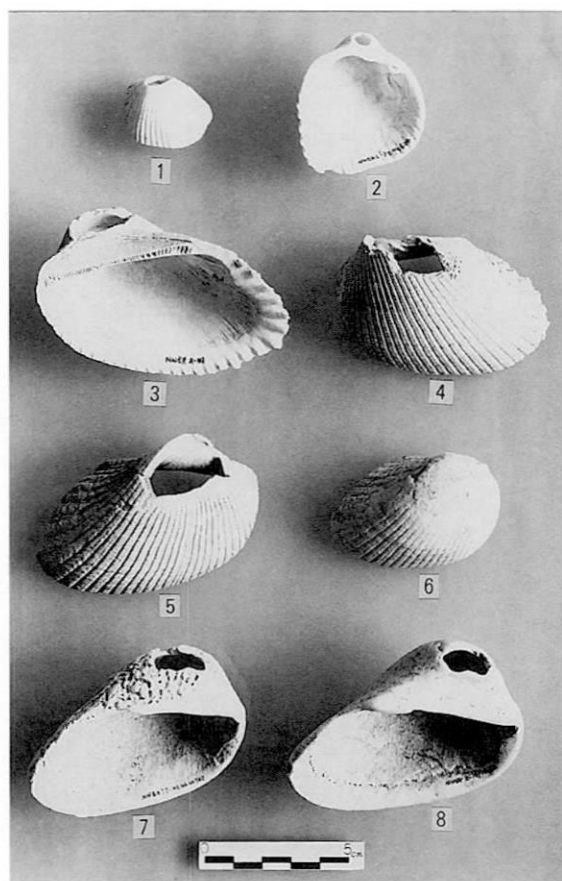


写真32 貝製品

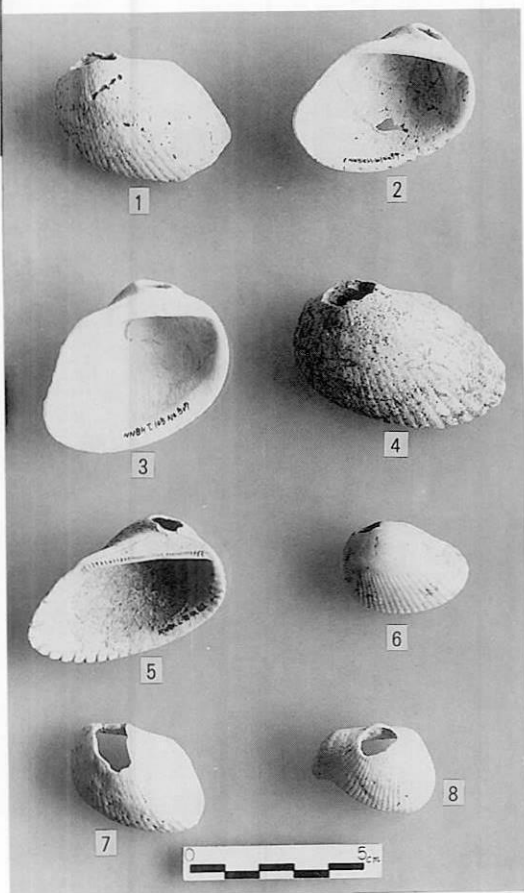
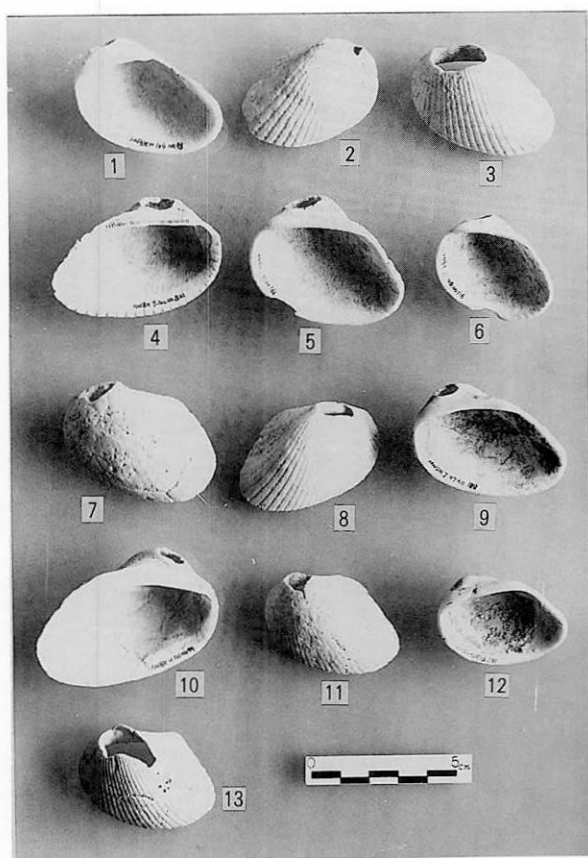
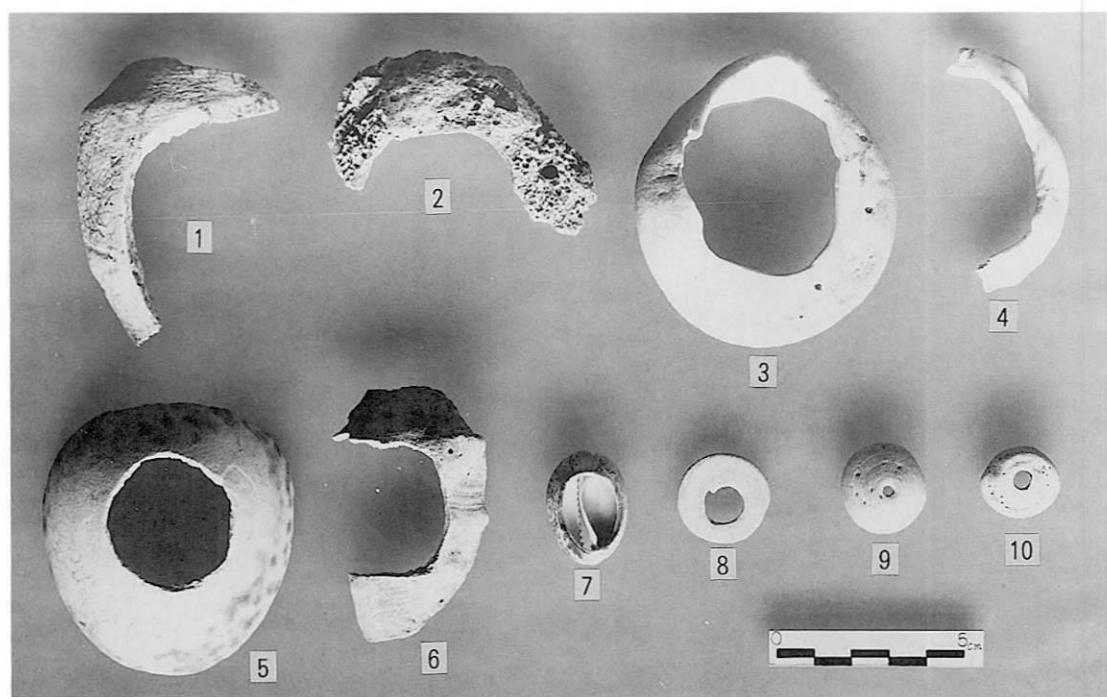


写真 33 貝 製 品



(表)

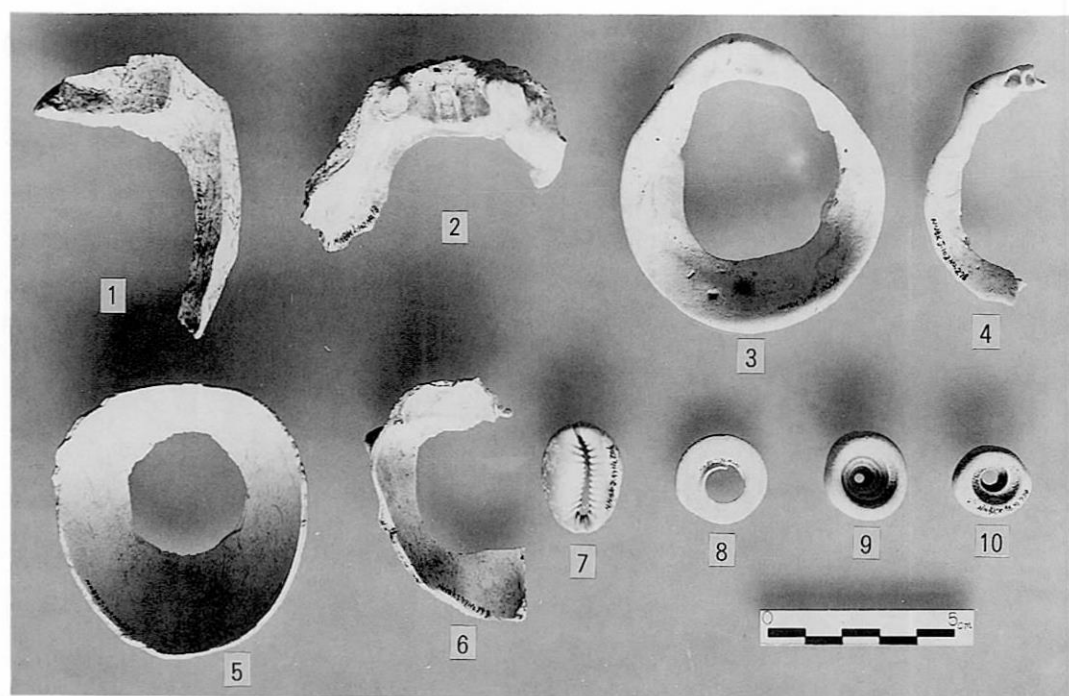
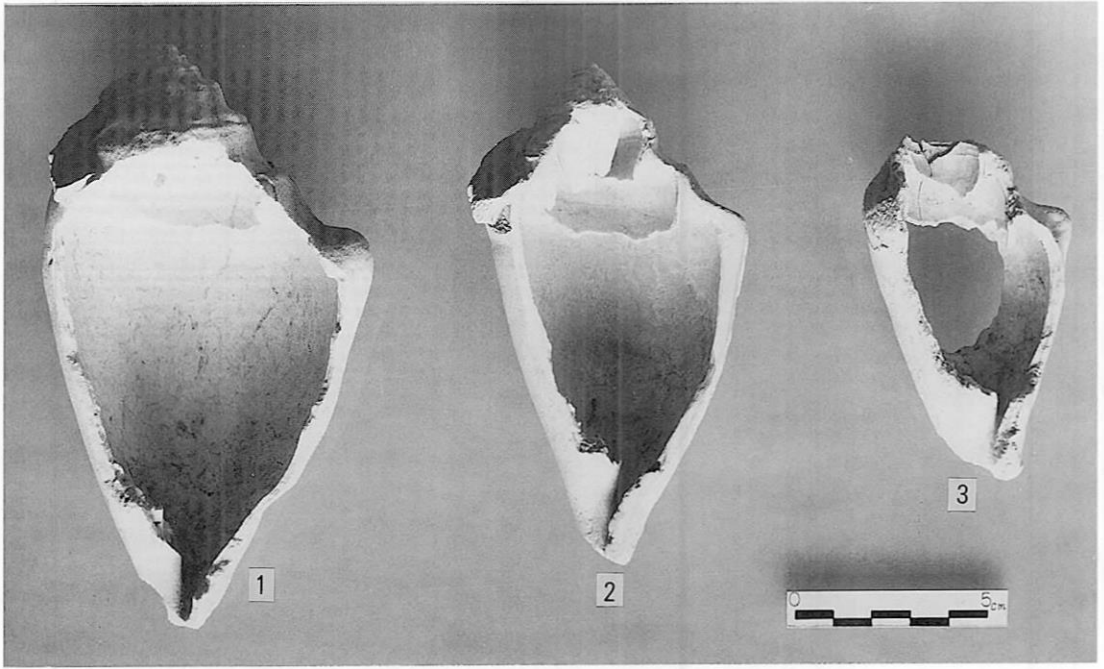


写真34 貝製品表裏面



(表)

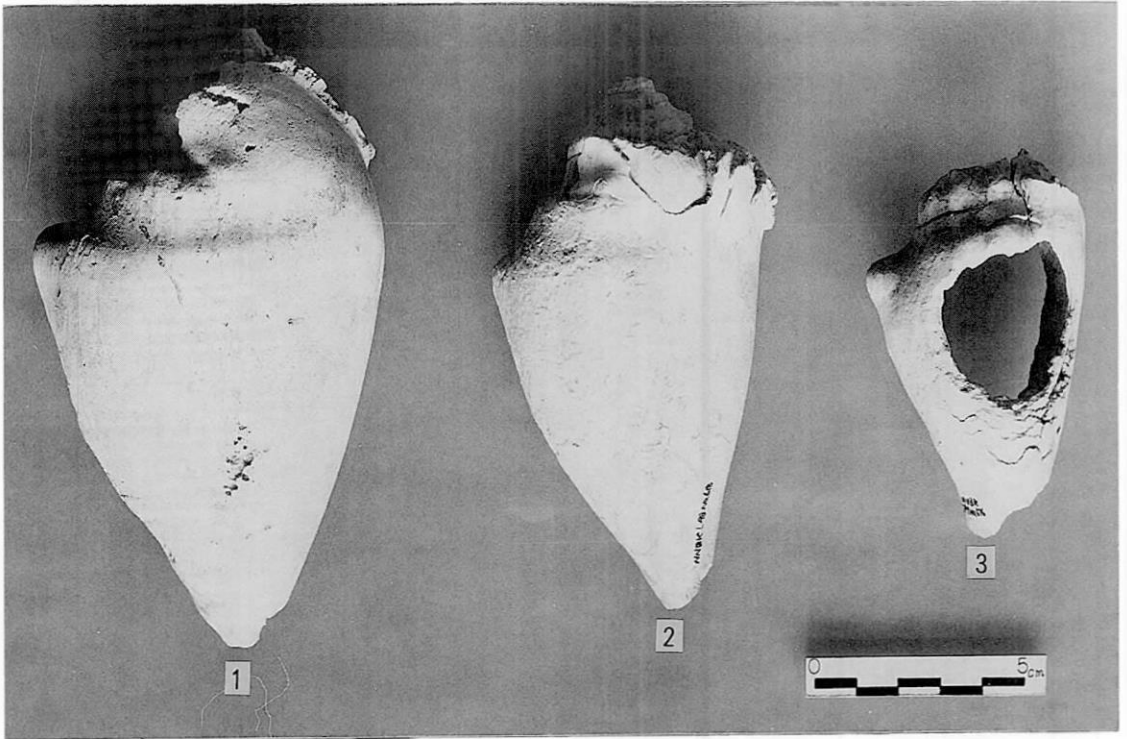
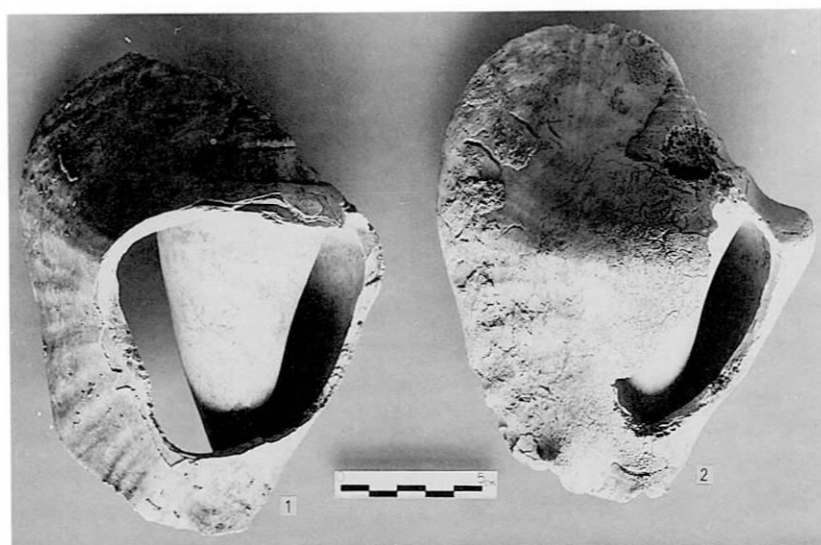
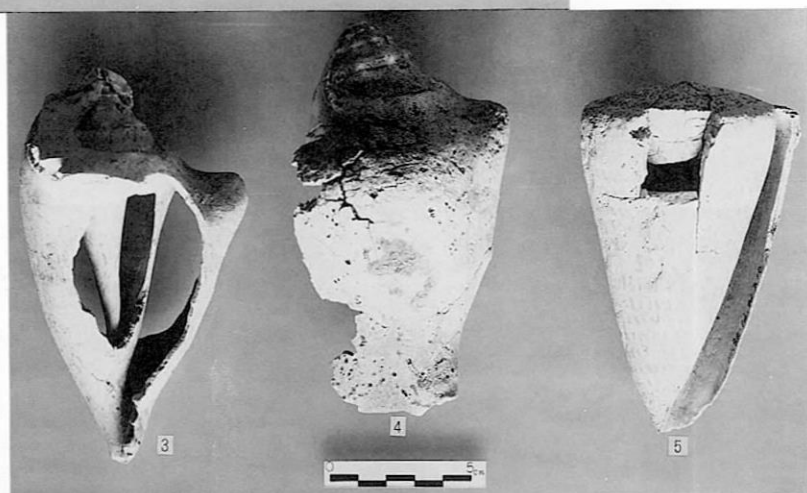


写真35 貝製品表裏面



(表)



(表)



写真36 貝製品表裏面

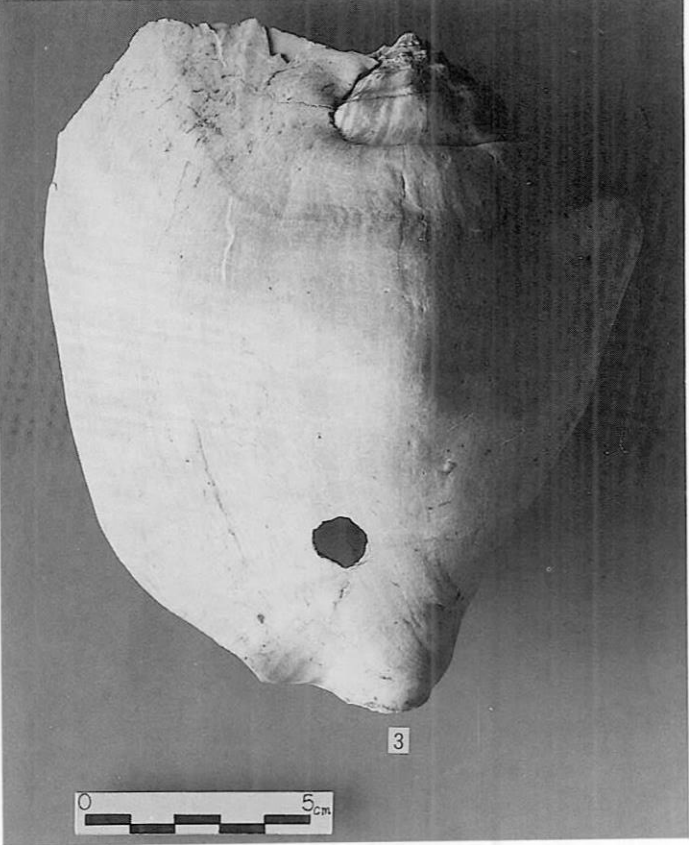
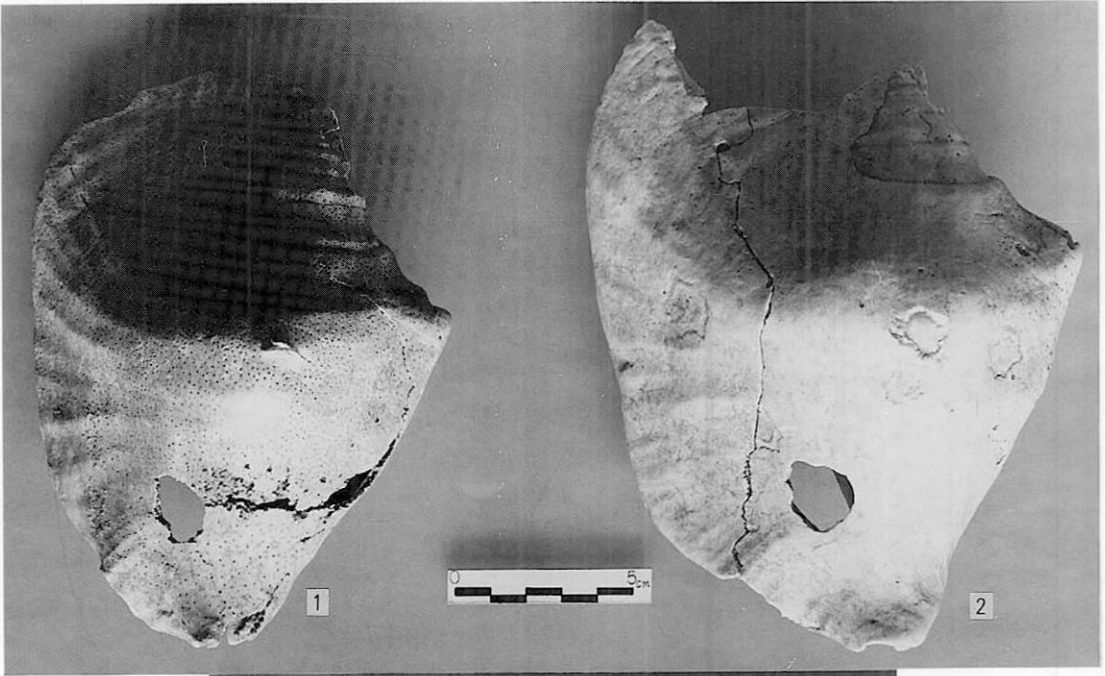


写真 37 貝 製 品

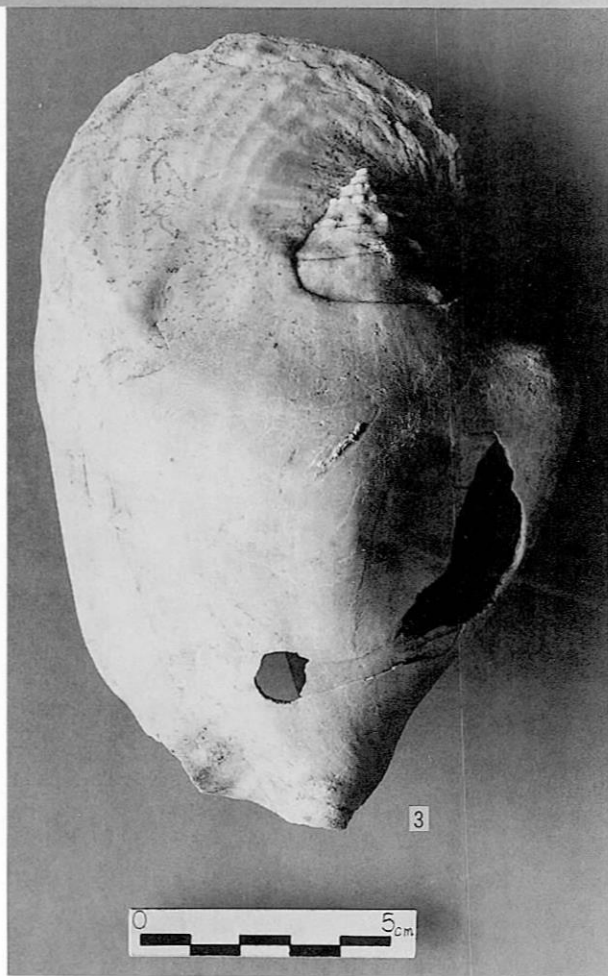
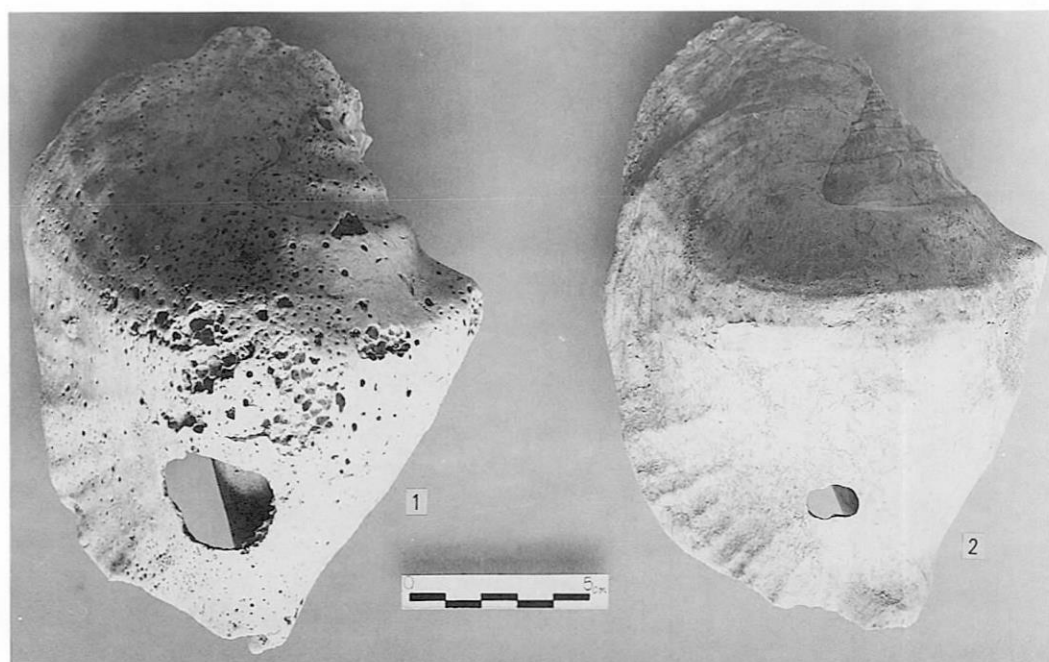


写真 38 貝 製 品

参 考 資 料

- ・『沖繩大百科事典』沖繩タイムス社 1983年
- ・『角川日本地名大辞典』角川書店 昭和61年
- ・『標準原色図鑑全集 3 - 貝 -』波辺忠重・小菅貞男共著 保育社 昭和42年初版
- ・『原色日本貝類図鑑』吉良哲明著 保育社 昭和29年初版
- ・『沖繩の海の貝・陸の貝』久保弘文・黒住耐二共著 沖繩出版 1995年初版
- ・『沖繩の貝・カニ・エビ』平田義浩・仲宗根幸男・諸喜田茂充共著 風土記社 昭和18年初版
- ・『原色沖繩海中動物生態図鑑』白井祥平著
- ・『沖繩の貝類 - 沖繩県立博物館特別展図録 -』沖繩県立博物館 1992年 8 月
- ・『大原 - 久米島大原貝塚群発掘調査報告 -』沖繩県文化財調査報告書第32集
1980年 3 月 沖繩県教育委員会
- ・『宇佐浜遺跡発掘調査報告』沖繩県文化財調査報告書第93集
1989年 3 月 沖繩県教育委員会
- ・『伊江島具志原貝塚の概要』沖繩県文化財調査報告書第61集
1985年 2 月 沖繩県教育委員会
- ・『伊武部貝塚発掘調査速報』 1981年 3 月 沖繩県教育委員会
- ・『宜野湾市宇地泊兼久原遺跡発掘調査報告』沖国大考古第10号
1989年 沖繩国際大学文学部考古学研究室
- ・『古座間味貝塚範囲確認調査報告書』沖繩県文化財調査報告書第43集
1982年 3 月 沖繩県教育委員会
- ・『具志堅貝塚発掘調査報告』本部町文化財調査報告書第 3 集
1986年 3 月 沖繩県本部町教育委員会
- ・『備瀬貝塚 - 下水道工事に伴う緊急発掘調査報告 -』本部町文化財調査報告書第 4 集
1986年 3 月 沖繩県本部町教育委員会
- ・『伊江島ナガラ原西貝塚緊急発掘調査報告書』伊江村文化財調査報告書第 8 集
1979年 3 月 沖繩県伊江村教育委員会
- ・『久志貝塚緊急発掘調査概要』名護市文化財調査報告 2
昭和55年 3 月 名護市教育委員会
- ・『名護市の遺跡(2) - 分布調査報告 -』名護市文化財調査報告 4
1982年 3 月 名護市教育委員会

部 瀬 名 貝 塚

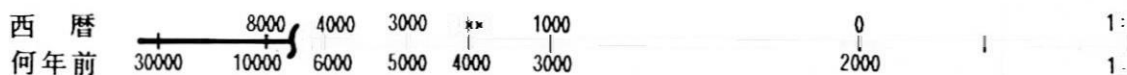
— プセナリゾート開発に伴う緊急発掘調査報告 —

平成 8 年 3 月 発 行

編集発行 名 護 市 教 育 委 員 会
社 会 教 育 課
名 護 市 港 二 丁 目 1 番 1 号
電 話 (0980)53-5429

印 刷 (資) 北 部 高 速 印 刷
名 護 市 東 江 五 丁 目 11 番 7 号
電 話 (0980)52-2540(代)

名護市の遺跡編年



中国	旧石器時代	(仰韶・竜山)	殷周	春秋戦国	前漢	漢	北魏	唐	三
----	-------	---------	----	------	----	---	----	---	---

日本	旧石器時代	(縄文)	(弥生)	(古墳)	大和	奈良
----	-------	------	------	------	----	----

沖 縄 本 島	生産経済	魚撈・狩猟・植物採集	
	時代	原始	
	考古学の編年	先土器時代	沖縄貝塚時代 早期 前期 中期 後期
	名護市の主な遺跡	屋我地 羽地 屋部 名護 久志	墨屋原遺跡 大堂原貝塚 奥武原遺跡 有津遺跡 大川田原遺跡 室川貝塚下層(沖縄) 大山貝塚(宜野湾) 西長浜原遺跡(今帰仁) 野国貝塚(嘉手納) 萩堂貝塚(北中城) 宇佐浜遺跡(国頭) 熱田 渡具知東原遺跡(読谷) 伊波貝塚(石川) カヤウチバンタ遺跡(国頭) 具志原貝塚(
他地域の主な遺跡	港川フィッシュャー遺跡(具志頭) 山下町第一洞穴遺跡(那覇)	運天原サバヤ貝塚 安和貝塚 名護貝塚 部瀬名貝塚 久志	

時代区分表

1500
↑
500

1982

南宋	元	明		清	中華 民国	人民 中国		
鎌倉	南北朝	室町	(戦国)	安土 桃山	江戸	明治	大正	昭和
農業					工業			
グシク時代		古代		近世	近代	現代		
中期	後期	古琉球						
<p>シマヌハー御座遺跡群</p> <hr/> <p>屋我グシク遺跡群</p> <hr/> <p>親川グシク遺跡</p> <p>瀬洲村跡遺跡</p> <p>古我知焼窯跡</p> <hr/> <p>宇茂佐古島遺跡</p> <hr/> <p>ナングシク遺跡群</p> <p>宮里古島遺跡</p> <hr/> <p>上里グシク遺跡</p> <p>嘉手苧村遺跡</p> <hr/> <p>稲福遺跡(大里)</p> <p>今婦仁グシク(今婦仁)</p> <hr/> <p>根謝銘グシク(大宜味)</p>								

* 名護市の遺跡(2)より

『部瀬名貝塚』正誤表

頁	行	誤	正
48頁	22行目	第27図 第28図	第28図 第29図
48頁	24行目	第27図	第28図
48頁	26行目	第28図	第29図
53頁	第27表に対応する観象表 観象事項の5行目	附近	付近
55頁	第29図に対応する観象表 観象事項の4行目	附近	付近
65頁	第34図に対応する観象表 分類の21行目	左殻	右殻
78頁	8行目	破片28,915 合計102,094	破片28,914 合計102,093
80頁	2行目	腹足綱	腹足綱
80頁	4行目	斧足綱	斧足綱
80頁	第41図 ㊸ D	浅間	浅海

